



Cisco Digital Media Encoder 2200 ユーザ ガイド

User Guide for Cisco Digital Media Encoder 2200

2008/10/09

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、
正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、
弊社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco WebEx, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0809R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

本マニュアルのいかなる部分も、シスコシステムズの書面による事前の許可なしに、電子的、機械的、写真複写、記録、その他のいかなる形式または手段によっても、複製、情報検索システムへの保存、送信を行うことはできません。ViewCast[®], the ViewCast logo, Niagara[®], the Niagara logo, GoStream, Niagara SCX[®], EZ Stream and SimulStream[®] and Osprey[®] are trademarks or registered trademarks of ViewCast Corporation or its subsidiaries. Macintosh[®] is a registered trademark of Apple Computer, Inc. Microsoft[®], Windows[®], Windows[®] XP, Windows Media[®] and DirectDraw[®] are registered trademarks of Microsoft Corporation. Linux[®] is a registered trademark of Linus Torvalds. RealNetworks[®], RealAudio[®], RealVideo[®], RealMedia[®], RealPlayer[®], RealProducer[®], Helix[®] and SureStream are the trademarks or registered trademarks of RealNetworks, Inc. Flash[®] is a registered trademark of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. Intel[®] is a registered trademark of Intel Corporation. Indeo[®] is a registered trademark of Ligos Corporation.

Cisco Digital Media Encoder 2200 ユーザ ガイド

© 2008 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.

Copyright © 2009, シスコシステムズ合同会社.

All rights reserved.



CONTENTS

CHAPTER 1

Cisco Digital Media Encoder 2200 のインストール	1-1
はじめに	1-1
安全の手引き	1-2
警告	1-2
保証	1-3
パッケージの中身	1-3
インストール	1-3
Cisco Digital Media Encoder 2200 の接続	1-4
電源への接続	1-4
背面パネル図	1-4
前面パネル図	1-6
Cisco Digital Media Encoder 2200 の設定	1-7
初期開始設定の実施	1-8
Cisco Digital Media Encoder 2200 を IP ネットワークに接続するための設定	1-9
Cisco Digital Media Encoder 2200 のネットワーク設定の変更	1-10
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	1-12

CHAPTER 2

Cisco Digital Media Encoder 2200 の使い方	2-1
概要	2-1
ストリーミング メディアについて	2-1
ストリーミング インフラストラクチャ	2-1
ストリーミング AV タイプに関する簡易指針	2-2
チュートリアル	2-3
基本的な操作：前面パネルの使用	2-3
起動	2-4
シャットダウン	2-4
代替シャットダウン方法	2-5
符号化セッションの開始	2-5
CPU 使用状況のチェック	2-6
符号化セッションの停止	2-7
外部ストレージ デバイスの接続	2-8
キャプチャしたビデオ ファイルのエクスポート	2-8
高度な操作：Niagara SCX Web Interface の使用	2-10
Web Interface へのアクセス	2-10

符号化セッションの開始	2-11	
符号化セッションの停止	2-12	
アクティビティ ログの表示	2-14	
EZStream ボタンの設定	2-14	
エンコーダのプリセット (A、B、または C)		2-15
エンコーダの選択	2-15	
すべてのエンコーダの表示	2-16	
プリセット エンコーダ プロファイルの編集		2-16
AVI エンコーダ プロパティ	2-17	
Flash エンコーダ プロパティ	2-17	
MPEG-4 エンコーダ プロパティ	2-18	
Real エンコーダ プロパティ (Helix)	2-19	
Windows Media エンコーダ プロパティ	2-20	
エンコーダ プロファイルの編集	2-20	
ビデオとオーディオの設定	2-21	
ストリーミング プロパティ	2-23	
高度なストリーミング設定	2-23	
AVI エンコーダ設定	2-26	
Flash エンコーダ設定	2-26	
MPEG-4 エンコーダ設定	2-27	
エンコーダ設定 Web Interface	2-27	
Real Encoder 設定 (Helix)	2-33	
Windows Media Encoder 設定	2-36	
エンコーダ プロファイルの削除	2-38	
My Cisco Digital Media Encoder 2200	2-39	
コンピュータ名	2-40	
Cisco Digital Media Encoder 2200 のプロパティ		2-40
ログイン パスワードの工場出荷時設定からの変更		2-40
ログイン パスワードの工場出荷時設定への復元		2-41
Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート		2-41
電子メール アラート	2-42	
アラーム ライト	2-42	
アラート設定の編集	2-42	
ネットワーク プロパティ	2-42	
ネットワーク カード	2-43	
高度な設定 (ネットワーク)	2-43	
システム構成設定	2-44	
工場出荷時設定の復元	2-45	
電子メール設定	2-46	

アイドル画面情報	2-47
デフォルト ディレクトリ設定	2-47
高温アラート	2-48

CHAPTER 3

EASE メニューと Niagara SCX Web Interface の使用 3-1

EASE メニュー (LCD ディスプレイ)	3-1
エンコード メニュー	3-2
エンコードの起動	3-2
エンコードの停止	3-3
エンコード ステータス	3-3
ヘルス メニューへのアクセス	3-3
CPU ステータス	3-3
メモリ残量	3-4
温度ステータス	3-4
システム メニューのセットアップ	3-5
ネットワーク リンク ステータス	3-5
ネットワーク MAC アドレス	3-6
ネットワーク設定の表示	3-7
DHCP の有効化	3-8
固定 IP アドレスの設定	3-9
ゲートウェイ アドレスの設定	3-11
日時の設定	3-12
温度アラームの設定	3-13
工場出荷時設定に戻す	3-14
USB ドライブへのエクスポート	3-16
Cisco Digital Media Encoder 2200 のシャットダウン	3-16
Niagara SCX Web Interface	3-16
ログイン	3-17
Home ページ	3-18
メニュー バー	3-18
Home	3-18
Encoders	3-18
Configuration	3-18
Status	3-19
Log Out	3-19
All Encoders	3-19
エンコーダの起動	3-20
エンコーダの停止	3-21
エンコーダの編集	3-22
AVI エンコーダ設定	3-27

Flash エンコーダ設定	3-27
MPEG-4 エンコーダ設定	3-28
Real Encoder 設定 (Helix)	3-34
Windows Media Encoder 設定	3-37
Windows Media の Digital Rights Management (DRM; デジタル著作権管理)	3-39
既存のエンコーダの削除	3-44
エンコーダの作成	3-44
エンコーダのプリセット (A、B、C)	3-45
エンコーダの選択	3-46
すべてのエンコーダの表示	3-47
プリセット エンコーダ プロファイルの編集	3-47
My Cisco Digital Media Encoder 2200	3-47
コンピュータ名	3-48
Cisco Digital Media Encoder 2200 のプロパティ	3-49
Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート	3-51
電子メール アラート	3-51
アラーム ライト	3-51
アラート設定の編集	3-52
ネットワーク プロパティ	3-52
ネットワーク カード	3-53
高度な設定 (ネットワーク)	3-54
システム構成設定	3-54
Restore Cisco Digital Media Encoder 2200 Factory Defaults	3-55
電子メール設定	3-56
アイドル画面情報	3-57
デフォルト ディレクトリ設定	3-57
高温アラート	3-58
アクティビティ ログの表示	3-58
View Alerts	3-59
Niagara SCX Web Interface のヘルプまたは [i] ボタンとアラート設定	3-59



CHAPTER 1

Cisco Digital Media Encoder 2200 のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- 「はじめに」 (P.1-1)
- 「安全の手引き」 (P.1-2)
- 「パッケージの中身」 (P.1-3)
- 「インストール」 (P.1-3)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.1-12)

はじめに

Cisco Digital Media Encoder 2200 をご購入いただきありがとうございます。最先端のストリーミングメディアシステムのオーナーになられますと、インターネットや任意のローカルまたは広域の IP ネットワークを経由して、AV コンテンツを取り込んだり、ストリーミングすることが可能になります。他に必要なものは、カメラやデッキなどの AV ソース、ストリーミング メディア サーバまたはホスティング プロバイダー、および視聴者のための IP 接続だけです。

このマニュアルでは、Cisco Digital Media Encoder 2200 をエンコーダまたはデバイスとして参照します。

IP ネットワーク経由の AV ストリーミングについては、「[ストリーミング インフラストラクチャ](#)」(P.2-1) を参照してください。ここでは、ストリーミング メディアの機能について説明します。

Cisco Digital Media Encoder 2200 は、簡単に使えるストリーミング デバイスです。AV ソースをエンコーダに接続して、対象の再生デバイスを選択し、ストリーミング サーバ情報を入力して、<STREAM> ボタンを押すだけです。これでストリーミングが始まります。

Cisco Digital Media Encoder 2200 は、箱から出してすぐに、ほとんどのストリーミング用途用に設定して使用できます。他のネットワーク コンピュータからエンコーダをより高度に設定または管理する場合は、*Niagara SCX Web Interface* を使用します。

エンコーダの前面パネルは、*Configuration Web Browser Interface* を使用してカスタマイズできます。この設定ツールでは、デバイスに関するその他のシステム パラメータを設定することもできます。

Cisco Digital Media Encoder 2200 をお楽しみください。



警告

インストール手順を読んでから、システムを電源に接続してください。



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。

安全の手引き

ここでは、次の内容について説明します。

- 「警告」 (P.1-2)
- 「保証」 (P.1-3)

警告

Cisco Digital Media Encoder 2200 をインストールする前に、機器の故障や人身被害が起きないように、次の安全警告に目を通して順守するようにしてください。



警告

装置の設置時には、一般および地域の電気規格に準拠する必要があります。



警告

インストレーション手順を読んでから、システムを電源に接続してください。



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。



警告

この製品は、設置する建物に回路短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。一般および地域の電気規格に準拠するように設置する必要があります。



警告

電源は室内に設置する必要があります。



警告

いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。



警告

雷が発生しているときには、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。



警告

感電を回避するために、Safety Extra-Low Voltage (SELV; 安全超低電圧) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには、SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が搭載されています。LAN および WAN ポートによっては、両方 RJ-45 コネクタを使用する場合があります。ケーブルは慎重に接続してください。

保証

保証の詳細については、それぞれの製品に添付された保証書を参照してください。

パッケージの中身

すべての内容物を箱から出して、1 つ 1 つの損傷をチェックし、次のコンポーネントが揃っていることを確認してください。

- Cisco Digital Media Encoder 2200
- 電源ケーブル
- BNC/RCA 変換器、オス/メス 8 ピン
- 75 Ω BNC ターミネータ
- 1 組のラック スライド レール
- 2 個のラック ハンドル
- Cisco Digital Media Encoder 2200 ドキュメント CD

これらのコンポーネントで不足しているものや損傷しているものがあつた場合は、インストールを中断してください。エンコーダ システムを購入したリセラーに連絡して、不足部品の送付や部品の交換を依頼してください。

エンコーダのシリアル番号がシャーシの右側に印字されています。



警告

装置の設置時には、一般および地域の電気規格に準拠する必要があります。

インストール

ここでは、Cisco Digital Media Encoder 2200 システムの物理的な接続および設定方法について説明します。

エンコーダのインストール手順は次の 2 つの部分で構成されます。

1. [Cisco Digital Media Encoder 2200 の接続](#)
2. [Cisco Digital Media Encoder 2200 の設定](#)

頻繁に使用する基本的な操作のほとんどは、[図 1-2](#) に示す前面パネルから行います。

高度な設定や操作は、エンコーダと同じネットワーク上に存在するコンピュータから **SCX Web Interface** にアクセスする必要があります。

このような高度な操作はほとんどのストリーミング アプリケーションで必要ありませんが、符号化設定をカスタマイズしたり、特定の符号化プロファイルを **EZStream®** の **ABC** ボタンに割り当てる場合に使用します。エンコーダとコンピュータが別々の部屋にあつたり、または大陸をまたがっていたりしても、エンコーダとコンピュータの両方でインターネットにアクセスして相互に通信することができれば、コンピュータから **SCX Web Interface** を経由してエンコーダをリモート制御できます。

最初に、エンコーダを接続する必要があります。接続に関する情報は、「[Cisco Digital Media Encoder 2200 の接続](#)」を参照してください。

Cisco Digital Media Encoder 2200 の接続

エンコーダには多くの機能や能力がありますが、その最も基本的な機能は、アナログの AV 入力を受け取って、その信号を処理し、デジタル IP ビデオ形式に符号化することです。その後で、IP AV コンテンツを記憶装置に保存したり、IP ネットワーク経由でストリーミングします。

ビデオのストリーミングや取り込み用にエンコーダを設定するには、次の 4 つの要件があります。

- AC 電源 (100 ~ 240V)
- AV ソース (カメラ、ビデオプレーヤー、またはその他の AV 出力デバイス)
- IP ネットワークまたはインターネット接続
- コンテンツを多数の視聴者にストリーミングするためのストリーミングメディアサーバ

電源への接続

ユニットの注文時に適切な電源ケーブルを指定します。エンコーダの背面パネルの左上隅にある電源入力にブロック端を取り付けます (図 1-1)。

もう一方の端を壁コンセント、または、壁コンセントやその他の共通の電源に接続された電力サージ保護対応の電源ストリップに差し込みます。



警告

いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐに手が届く状態にしておいてください。



警告

雷が発生しているときには、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。

背面パネル図

図 1-1 と表 1-1 は、エンコーダ背面パネルのすべてのコネクタとその他のコンポーネントを示しています。

図 1-1 背面パネル図

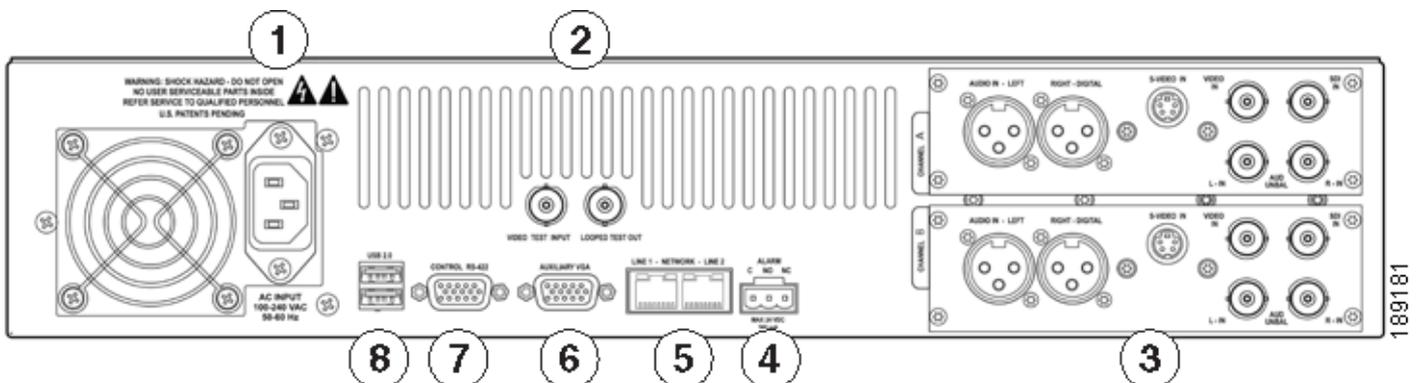
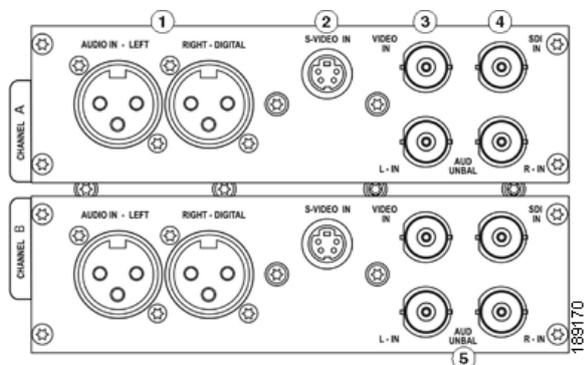


図 1-1 は、エンコーダの背面パネルを示しています。表 1-1 の一覧表とイラストを使用して、適切なデバイスと電源をエンコーダに接続します。

表 1-1 背面パネルの説明

項番	ポート	説明
1	AC 電源入力	システムに電源を供給します。
2	ビデオ テスト ポート	合成ビデオ入出力用の BNC コネクタ。カラー バー発生器などのビデオ テスト信号を接続して、ビデオ取り込み期間のビデオ設定をキャリブレーションできます。
3	チャンネル A および B の AV 入力	それぞれの AV 入力チャンネルで次の入力ポートが提供されます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 平衡型音源のための左/右 XLR コネクタと、AES/EBU オーディオ用の右 XLR コネクタ 2. S ビデオ ソース用のミニ DIN コネクタ 3. 合成ビデオ ソース用の BNC コネクタ 4. エンベデッド SDI オーディオ付き SDI ビデオ ソース用の BNC コネクタ 5. 非平衡型音源用の左/右 BNC コネクタ
4	アラーム リレー コネクタ	このポートは、システム障害時に可聴音を鳴らすための外部デバイス（ベル音やブザーなど）を接続するために使用します。
5	ネットワーク ポート (Line 1 と Line 2)	イーサネット ポートが 2 系統あることによって、ネットワークの接続範囲が広がります。
6	補助 VGA コネクタ	このポートは、外部の VGA モニタを接続して、オペレーティング システム インターフェイスを表示するために使用します。
7	RS-422 制御コネクタ	9 ピン D コネクタ。RS-422 プロトコル経由のエンコーダ制御が可能になり、放送スタジオのマスター コントロール センターに統合できます。このポートは、デッキ制御ソフトウェアで使用可能な標準の RS-422 ポートです。
8	USB 2.0 コネクタ	これらのポートは、キーボード、マウス、USB メモリなどの USB 制御デバイスを接続するために使用します。



前面パネル図

Cisco Digital Media Encoder 2200 の前面パネル制御をよく理解する必要があります。電源、開始/停止、上下移動、およびメニュー アクセス用の基本的なボタンの他に、いくつかのインジケータ ライトが付いています。図 1-2 と表 1-2 は、すべてのボタンとライトを示しています。前面パネルの機能とインターフェイスが確認できます。

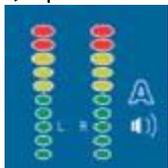
図 1-2 前面パネル図



表 1-2 前面パネルのボタンとライト

項目	説明
制御ボタン 電源 	このボタンを 1 回押すと Niagara Pro II が起動します。Niagara Pro II が起動してから、このボタンを 1 回押すとシステムの電源が切れます。5 秒間押したままにすると、即時電源オフが実行されます。
EZStream ボタン 	エンコーダ プロファイルがこれらのボタンのいずれかに割り当てられている場合に、そのボタンを押してから <STREAM> ボタンを押すとエンコーダが開始します。割り当てられたボタンを押してから <STOP> ボタンを押すとエンコーダが停止します。
アラーム情報 	アラーム ライト インジケータが点灯した場合にこのボタンを押すと、最近記録されたアラームのログが表示されます。<ENTER> ボタンを押すと、これらのアラームがログから消去されます。
メニュー 	このボタンを押すと、LCD ディスプレイ上のエンコーダ メニューがアクティブになります。
<ENTER> ボタン 	このボタンを押すと、LCD ディスプレイで強調表示されたメニュー選択が確定されます。メニュー操作に使用します。
<UP>/<DOWN> ボタン 	これらのボタンは、LCD ディスプレイ上のメニュー移動に使用します。

表 1-2 前面パネルのボタンとライト (続き)

ストリーム 	LCD ディスプレイ上でエンコーダ プロファイルが強調表示されているときにこのボタンを押すと、エンコーダが開始します。
停止 	LCD ディスプレイ上でエンコーダ プロファイルが強調表示されているときにこのボタンを押すと、エンコーダが停止します。
アラーム 	このライトは、アプリケーション アラートが発生したことを示します。
リモート制御 	このライトは、別のユーザがネットワーク上のコンピュータからエンコーダにアクセスしていることを示します。
オーディオ アクティビティ 	これらのライトは、オーディオ入力の有無を示します。
ヘッドフォン ジャックと音量ボタン 	このジャックは、ヘッドフォンをエンコーダに接続してオーディオをモニタリングするために使用します。音量ボタンは、ヘッドフォンのオーディオ レベルを制御します。
USB ポート 	USB ポートを使用すれば、USB デバイスにファイルをエクスポートできます。

Cisco Digital Media Encoder 2200 の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「初期開始設定の実施」 (P.1-8)
- 「Cisco Digital Media Encoder 2200 を IP ネットワークに接続するための設定」 (P.1-9)
- 「Cisco Digital Media Encoder 2200 のネットワーク設定の変更」 (P.1-10)

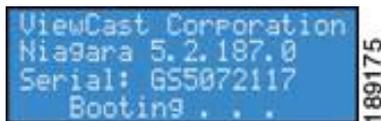
初期開始設定の実施

初めてエンコーダの電源を入れた場合は、LCD ディスプレイに、システム クロック、日付、およびビデオ入力形式 (NTSC [北米/日本] または PAL) の設定を支援する一連のメニューが表示されます。

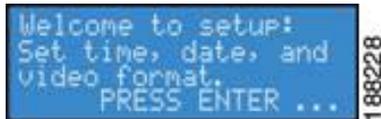
1. エンコーダを開始するには、前面パネルの電源ボタンを押します。



2. 起動プロセス中に、エンコーダの LCD ディスプレイに次のメッセージが表示されます。



3. エンコーダの起動プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。



4. <ENTER> ボタンを押して、初期設定を開始します。



5. ここで、エンコーダから日付の設定が要求されます。



6. 日付を設定するには、<UP> または <DOWN> の矢印キーを使用して月の数値を増減させます。



7. 月の数値が設定されたら、<STREAM> ボタンを押して日フィールドに移動します。

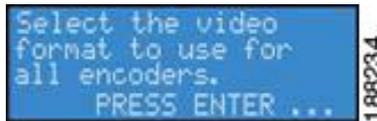


8. もう一度、<UP> または <DOWN> の矢印キーを使用して日の数値を増減させます。
9. <STREAM> ボタンを押して値を確定し、年フィールドに移動します。
10. 月日の設定と同じプロセスを使用して年を設定します。
11. 設定をやり直す場合は、カーソルがそのフィールドに移動するまで <STREAM> ボタンを押し続けます。
12. 日付の設定が完了したら、<ENTER> ボタンを押して設定を確定し、次の画面に移動してシステムクロックを設定します。

13. エンコーダでは、システム クロック入力として 24 時間形式の軍隊式時刻が使用されます。



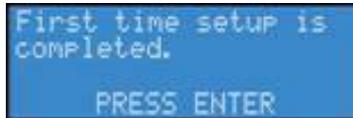
14. <UP>、<DOWN>、<STREAM>、および <ENTER> ボタンを使用して、システム クロックの時間と分を設定します。
15. 最後の設定は、エンコーダに入力するビデオ形式の選択です。
16. 次のプロンプト メッセージが表示されます。



17. <ENTER> ボタンを押して先に進みます。
18. ビデオ ソース形式として NTSC と PAL のどちらかを選択します。



19. <ENTER> ボタンを押して形式を確定します。エンコーダの設定が完了したかどうかを確認するための最終画面が表示されます。



20. <ENTER> ボタンを押して、設定メニューを終了し、エンコーダの使用を開始します。

Cisco Digital Media Encoder 2200 を IP ネットワークに接続するための設定



(注)

ネットワーク プロトコルに精通していない場合は、ネットワーク管理者に支援を要請してください。

Cisco Digital Media Encoder 2200 の 2 つのギガビット ネットワーク インターフェイスは、デフォルトで、ネットワーク上の DHCP サーバから動的に IP アドレスを取得するように設定されています。

DHCP サーバが使用できない、またはネットワーク上で見つからなかった場合は、エンコーダが独自の IP アドレスを割り当てます。

ほとんどのネットワーク環境では、デフォルト設定を変更する必要がありません。ただし、エンコーダのネットワーク インターフェイス カード (NIC) に固定 IP アドレスを割り当てる場合は、エンコーダの前面パネル メニューを使用してネットワーク設定を変更します。

Cisco Digital Media Encoder 2200 のネットワーク設定の変更

1. <MENU> ボタンを押して、エンコーダの [EASE] メニューにアクセスします。



2. [EASE] メニュー オプションは次のとおりです。



3. <UP> ボタンまたは <DOWN> ボタンを使用して、メニュー内の選択矢印が [Setup System] オプションを指すまで移動します。



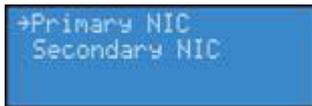
4. ここで、<ENTER> ボタンを押します。



5. エンコーダの LCD ディスプレイに [Setup] メニューが表示されます。<UP> ボタンまたは <DOWN> ボタンを使用して、[Network] を選択し、<ENTER> ボタンを押します。



6. 変更するネットワーク インターフェイスを選択して、<ENTER> ボタンを押します。



7. [Change Settings] を選択して、<ENTER> ボタンを押します。



次のメニューにさまざまなネットワーク設定が表示されます。これらのメニュー項目の 1 つを選択することによって、その設定を変更できます。



(注) 設定を変更したら、設定をやり直すか、元の工場出荷時設定に戻すまで、その変更が保存されます。

8. [DHCP On/Off] を選択してから、<ENTER> ボタンを押します。このプロセスをキャンセルする場合は、<MENU> ボタンを押してメインメニューに戻ります。

```
→Turn DHCP On
IP Address
Gateway
```

9. 次のボタン操作によって動作が異なります。
 - 選択して続行するには、<ENTER> ボタンを押します。
 - キャンセルして終了するには、<MENU> ボタンを押します。
10. 次のメニューでは、ネットワーク インターフェイスに対して DHCP を有効にするための選択肢が提供されます。

```
Enable DHCP?
Yes →No
```

11. <UP> ボタンまたは <DOWN> ボタンを使用して、選択肢を [No] から [Yes] に変更できます。選択したら、<ENTER> ボタンを押して変更を確定します。エンコーダから設定の確認が要求されます。

```
Confirm Enable DHCP?
→Yes No
```

12. <ENTER> ボタンを押して選択を確定します。変更する他の設定を選択するためのメニューに戻ります。

```
→Turn DHCP On
IP Address
Gateway
```

13. IP アドレスまたはゲートウェイの固定アドレスを入力するには、メニューでどちらかを選択して、<ENTER> ボタンを押します。

```
IP Address:
000.000.000.000
Press Enter
```

```
Gateway Address:
000.000.000.000
Press Enter
```

14. <UP> と <DOWN> の矢印キーを使用して数値を増減し、固定 IP アドレスを入力します。
15. <STREAM> ボタンを押して、次のフィールドに移動します。



16. 正しい IP アドレスまたはゲートウェイ アドレスを設定したら、<ENTER> ボタンを押してデータをエンコーダに保存します。固定 IP アドレスを設定した場合は、サブネット アドレスを設定するための画面が表示されます。



```
Subnet
000.000.000.000
Press Enter
```

- エンコーダ上で過去に設定した固定 IP アドレスまたはゲートウェイ アドレスを削除するには、手順 10. で説明した方法を使用して DHCP を有効にするだけです。過去に設定したすべての固定アドレスが削除されます。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CHAPTER 2

Cisco Digital Media Encoder 2200 の使い方

この章は、次の項で構成されています。

- 「概要」(P.2-1)
- 「基本的な操作：前面パネルの使用」(P.2-3)
- 「高度な操作：Niagara SCX Web Interface の使用」(P.2-10)
- 「エンコーダのプリセット (A、B、または C)」(P.2-15)
- 「Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート」(P.2-41)
- 「ネットワーク プロパティ」(P.2-42)
- 「システム構成設定」(P.2-44)

概要

- 「ストリーミング メディアについて」(P.2-1)
- 「ストリーミング インフラストラクチャ」(P.2-1)
- 「ストリーミング AV タイプに関する簡易指針」(P.2-2)
- 「チュートリアル」(P.2-3)

ストリーミング メディアについて

ストリーミング メディアとは、その配信によって消費（視聴）されるメディアのことです。ストリーミングは、メディア自体よりも配信システムの特徴をより多く備えています。この特性は、コンピュータ ネットワーク上で配信されるメディアに当てはまります。その他の配信システムのほとんどは、生来のストリーミング（ラジオ、テレビ、インターネット TV）と生来の非ストリーミング（本、ビデオカセット、オーディオ CD）のどちらかです。

Cisco Digital Media Encoder 2200 は、特に、IP ネットワーク上で AV メディアをストリーミングするために設計されています。

ストリーミング インフラストラクチャ

新しい Cisco Digital Media Encoder 2200 を設定する前に、ビデオのキャプチャからストリーミングビデオの再生までの生のストリーミングビデオの全貌を理解しておく必要があります。

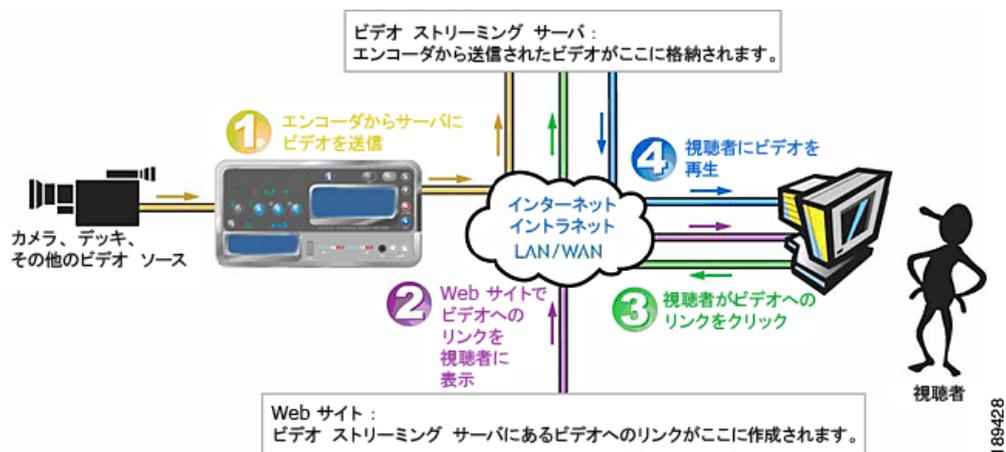
コンピュータ環境にビデオを取り込むアプリケーションは、DVD オーサリングから Web 生放送まで豊富に揃っています。ビデオの最終目的に関係なく、これらのアプリケーションは、主に、次の 3 つのワークフロー プロセスに分類できます。

- 単一ビデオ/セッションのキャプチャ（非リアルタイム配信用の 1 回限りのファイル取り込み）
 - 通常、キャプチャされたファイルは、その後、処理され、配信用の最終形態に変換されます。
- バッチ ビデオ/セッションのキャプチャ（アーカイブ、スケジューリング、および保存）
 - 複数のソース コンテンツがデジタル化されます。
 - 無人ソースに対するデバイス制御が必要です。
 - 指定時刻に作動するイベントをキャプチャするためのセッション スケジューリング機能が必要です。
- ライブ ビデオのキャプチャ、処理、および配信（Web 放送）
 - 単一または複数のソースに対応できます。
 - 特定の時刻のライブ イベント。
 - リモートとローカルの両方でキャプチャができます。
 - 最終的なコンテンツがリアルタイムで視聴者に配信されます。

カテゴリごとに、ユーザ インターフェイス、機能、および経験が異なる特有の要件があります。Cisco Digital Media Encoder 2200 は、ライブ ビデオのキャプチャ、処理、および配信用に設計されています。

図 2-1 は、カメラやビデオ プレーヤーなどのソースから始まり、IP ネットワーク経由でエンコーダからサーバに送信され、ソフトウェア プレーヤーで視聴者のモニタに表示されるビデオの経路を示しています。

図 2-1 ビデオ経路



ストリーミング AV タイプに関する簡易指針

Cisco Digital Media Encoder 2200 では、さまざまなタイプの AV ストリームを作成できます。そのすべては IP ビデオ形式ですが、ストリーミング ビデオ アプリケーションに応じて特性が異なります。Cisco Digital Media Encoder 2200 は、インターネット経由でストリーミングしてコンピュータまたはモバイル デバイス上で再生可能な、限られた解像度のビデオ コンテンツを作成するために設計されました。

表 2-1 は、Cisco Digital Media Encoder 2200 でサポートされているすべての形式と推奨されている用途を示しています。これらの形式のすべてをさまざまなアプリケーションで使用できます。

表 2-1 最大解像度以下でストリーミングするための IP ビデオ圧縮

形式	説明
Windows Media [®]	ストリーミング インターネット ビデオとモバイル デバイス
RealVideo [®] /Helix [®]	ストリーミング インターネット ビデオとモバイル デバイス
MPEG-4	携帯端末と携帯電話

適切なストリーミング形式を選択するには、まず、コンテンツを送信する視聴者について検討する必要があります。彼らがコンテンツの視聴に利用できる一般的なプレーヤーは何か。これによって、視聴者用に作成するストリームの形式が決定されます。

コンテンツをストリーミングするデータ レートを決定するには、視聴者がアクセス可能な IP 帯域幅を決定する必要があります。たとえば、ISDN 接続以下のアクセス手段が使用されている場合は、56 Kbps の QCIF などの低いデータ レートでビデオまたはオーディオをストリーミングすることになります。ケーブル モデムや DSL 接続などのようにアクセス速度が速い場合は、2 Mbps の最高解像度の高品質ストリームを提供できます。

Cisco Digital Media Encoder 2200 では、さまざまな帯域幅の接続を符号化プロファイルで事前に設定できます。ロードされるプロファイルは、エンコーダの初期設定に依存します。

チュートリアル

Cisco Digital Media Encoder 2200 を操作するために、前面パネルの LCD ディスプレイおよびボタンと *Niagara SCX Web Interface* の 2 つのインターフェイスが用意されています。このチュートリアルは、次の 2 つの部分で構成されています。

1. 「基本的な操作：前面パネルの使用」(P.2-3)
2. 「高度な操作：Niagara SCX Web Interface の使用」(P.2-10)



(注) *Niagara SCX Web Interface* または Niagara SCX Encoder Explorer ソフトウェアにアクセスするには、最新のブラウザがインストールされ、エンコーダへの IP 接続が可能なコンピュータが必要です。エンコーダとコンピュータの両方が存在するローカル ネットワークを介して接続するか、付属の RJ-45 ケーブルを使用してエンコーダとコンピュータを直接接続します。

基本的な操作：前面パネルの使用



(注) 前面パネルのボタンの詳細については、「前面パネル図」(P.1-6) を参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「起動」(P.2-4)
- 「シャットダウン」(P.2-4)
- 「代替シャットダウン方法」(P.2-5)

- 「符号化セッションの開始」(P.2-5)
- 「CPU 使用状況のチェック」(P.2-6)
- 「符号化セッションの停止」(P.2-7)
- 「外部ストレージ デバイスの接続」(P.2-8)
- 「キャプチャしたビデオ ファイルのエクスポート」(P.2-8)

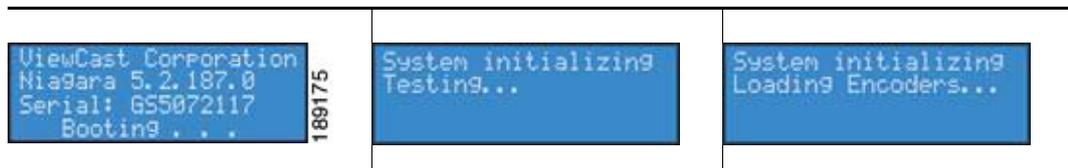
起動



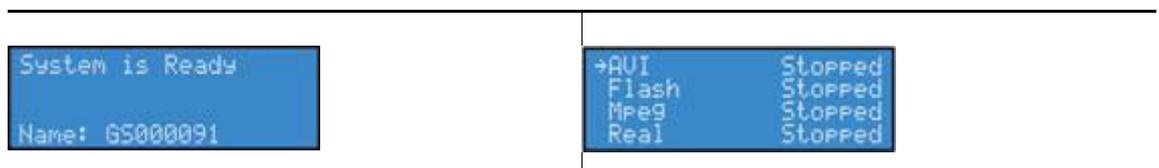
(注) 初めてエンコーダを起動する場合は、先に「初期開始設定の実施」(P.1-8)をお読みください。

エンコーダを起動するには、前面パネルの電源ボタンを押します。

起動中は、エンコーダの LCD ディスプレイに次の一連のメッセージが表示されます。



システムが動作可能状態になると、エンコーダの LCD ディスプレイに次のようなステータスが交互に表示されます。



シャットダウン

エンコーダをシャットダウンするには、前面パネルの電源ボタンを短く押します。

エンコーダの LCD ディスプレイに次のメッセージが表示されます。



数秒後に、エンコーダの電源が切れます。



注意

エンコーダの電源を正常に切ることができます。システムを強制的にシャットダウンした場合は、データが破損する可能性があります。その場合は、次にシステムを起動したときに、起動プロセスが完了するまでに数分かかかる可能性があります。

代替シャットダウン方法

[EASE] メニューを使用してエンコーダをシャットダウンすることもできます。

<MENU> ボタンを押して [EASE] メニューを表示します。

```
+Encode
Access Health
Setup System
Export Files
```

<UP> と <DOWN> の矢印ボタンを使用して、[Shutdown System] が表示され、選択されるまでスクロールダウンします。

```
Access Health
Setup System
Export Files
→Shutdown System
```

<ENTER> ボタンを押します。

次に、<UP> ボタンまたは <DOWN> ボタンを使用して [Yes] または [No] を選択することによって、システムをシャットダウンするかどうかを決定します。<ENTER> ボタンを押します。

<pre>Shutdown System? Yes →No</pre>		<pre>Shutdown System? →Yes No</pre>
<pre>System Stopping.</pre>	<pre>ViewCast Corporation Name: CP08360002 Serial: CP08360002 Shutdown Complete</pre>	

符号化セッションの開始

エンコーダの LCD ディスプレイに、一緒に使用可能なエンコーダ プロファイルと現在のステータスのリストが表示されます。

```
→AUI          STOPPED
Flash        STOPPED
Mpeg9       STOPPED
Real        STOPPED
```



(注)

エンコーダ プロファイルの名前は、最初の 10 文字しか表示されません。カスタム プロファイルに名前を付ける場合は、最初の 10 文字で識別できる一意の名前にする必要があります。

<UP> ボタンと <DOWN> ボタンを使用して、選択矢印を移動し、この符号化セッションで使用するエンコーダ プロファイルを指します。



必要なエンコーダ プロファイルを選択したら、<STREAM> ボタンを押してエンコーダを再起動します。



エンコーダの LCD ディスプレイに、エンコーダの起動プロセスに関するメッセージが表示されます。



エンコーダ セッションが正常に開始されたら、エンコーダの LCD ディスプレイが、使用可能なエンコーダの以前の表示に戻ります。この画面は、選択したエンコーダ プロファイルによって符号化が開始されたことを示しています。



起動したエンコーダが EZStream の ABC ボタンのいずれかに割り当てられていた場合は、対応するボタンが点滅して、起動プロセス中と起動プロセス後に常時点灯します。



この方法を繰り返すことによって、同時に複数のエンコーダをすばやく起動できます。

Cisco Digital Media Encoder 2200 は、2 チャンネル エンコーダです。これは、いつでも、最大 2 つの AV ソースを接続してストリーミングできることを意味します。また、1 つの AV ソースを複数のデータ レートと複数の形式で配信することによって、視聴者ごとに最良のユーザ エクスペリエンスを提供できます。

たとえば、1 Mbps の最高解像度で Windows Media を配信しながら、300 Kbps の CIF 解像度で RealVideo を配信できます。



警告

同時にキャプチャできるストリーム数には制限があります。エンコーダで同時に処理可能なストリーム数を上回るストリームをキャプチャしようとする、ストリームのフレームが欠落して、ビデオ再生が途切れることによって、視聴者のエクスペリエンスに悪影響を与えます。CPU 負荷を軽減するようにセッション数が減らされなかった場合は、すべての符号化セッションが警告なしで勝手に終了する可能性があります。

CPU 使用状況のチェック

複数のストリームを開始できるため、エンコーダの処理能力がどの程度使用されるのかを把握しておく必要があります。50% 未満しか使用されていない場合は、システムの性能に悪影響を与えることなく、新しい符号化セッションを開始できます。

<MENU> ボタンを押して、エンコーダの LCD ディスプレイ上にメイン メニューを表示します。



LCD ディスプレイに次のメニュー選択項目が表示されます。



<UP> ボタンと <DOWN> ボタンを使用して、メニュー項目の [Access] の隣に矢印を移動してから、<ENTER> ボタンを押します。



LCD ディスプレイに [Access] メニュー選択項目が表示されます。[CPU] メニュー項目が選択された状態で <ENTER> ボタンを押します。



エンコーダの LCD ディスプレイに使用中の CPU サイクル数が表示されます。エンコーダがアイドル中（どのエンコーダセッションも実行されていない）は、表示される CPU の割合が 4% 以下のはずです。1 つ以上のエンコーダセッションが実行中の場合は、表示される割合がかなり高くなり、+/-10% の範囲で変動します。



<ENTER> ボタンを押して 1 つ前のメニューに戻ります。



符号化セッションの停止

エンコーダを停止するには、<STOP> ボタンを押します。



エンコーダの LCD ディスプレイに符号化のリストが表示され、セッションごとの現在のステータスが示されます。

<UP> ボタンと <DOWN> ボタンを使用して、終了する符号化セッションの隣にポインタを移動します。

```

AVI          Stopped
Flash        Stopped
→Mpeg       Started
Real         Stopped

```

もう一度 <STOP> ボタンを押します。選択されたエンコーダセッションが終了します。

```

Mpeg
Stopping

```

```

AVI          Stopped
Flash        Stopped
→Mpeg       Stopped
Real         Stopped

```

メインメニューに戻るには、<MENU> ボタンを押します。



外部ストレージ デバイスの接続

Cisco Digital Media Encoder 2200 の背面パネルに 2 つの USB ポートがあり、前面パネルに 1 つの USB ポートがあります。これらのポートの片方または両方に、ほとんどすべての標準の USB フラッシュドライブを接続できます。これによって、エンコーダのローカルストレージドライブ上に作成された任意の AV ファイルをエクスポートできます。*Niagara SCX Web Interface* 経由で [Save to File] 設定を使用する場合は、ローカルストレージドライブが D ドライブになります。

USB フラッシュドライブが Cisco Digital Media Encoder 2200 の USB ポートの 1 つに挿入されると、エンコーダが自動的に取り外し可能なストレージデバイスを検出して、そのデバイスにランダムなドライブ文字を割り当てます。このデバイスは、直接ファイルをキャプチャするために使用したり、前面パネルメニューからアクセス可能な [Export File] 機能を使用するときに指定することができます。

キャプチャしたビデオ ファイルのエクスポート

キャプチャしたビデオ ファイルを外部の USB ドライブにエクスポートできます。



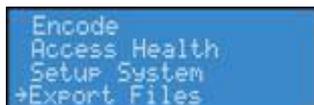
(注) ファイルを Cisco Digital Media Encoder 2200 から USB デバイスにエクスポートするには、*SCX Web Interface* 経由で、キャプチャしたビデオ ファイルのデフォルトの場所を設定して、その場所にファイルを配置する必要があります。この操作は、*[Default AV Folder] ボックスにある *Web Interface* の [System Configuration] ページで実行できます。デフォルトで、このフォルダは D:\AVFiles に設定されます。*[Default AV Folder] ボックスに必要なデフォルトの場所を入力したら、エンコーダからファイルをエクスポートできるようになります。



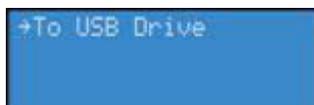
<MENU> ボタンを押してエンコーダメニューにアクセスします。



<UP> と <DOWN> の矢印ボタンを使用して、[Export Files] オプションを強調表示し、<ENTER> ボタンを押します。



次に、[To USB Drive] オプションを選択して、<ENTER> ボタンを押します。

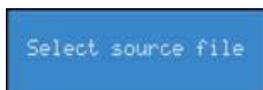


次の画面で、宛先ドライブの選択が要求され、エンコーダに接続されたアクティブな USB ドライブのリストが表示されます。



エクスポート先の USB ドライブを選択して、<ENTER> ボタンを押します。

次の画面で、ソースファイル、つまり、USB デバイスにエクスポートするファイルの選択が要求されます。



次の画面のようにソースファイルが表示されます。



(注) この画面上のソースファイルは、例でしかありません。



画面上でエクスポートするファイルの名前を確認して、<ENTER> ボタンを押します。次のような画面が表示されます。



エンコーダでファイルのエクスポートが完了したら、USB デバイスを取り外すことができます。

高度な操作 : Niagara SCX Web Interface の使用

ここでは、次の内容について説明します。

- 「Web Interface へのアクセス」 (P.2-10)
- 「符号化セッションの開始」 (P.2-11)
- 「符号化セッションの停止」 (P.2-12)
- 「アクティビティ ログの表示」 (P.2-14)
- 「EZStream ボタンの設定」 (P.2-14)

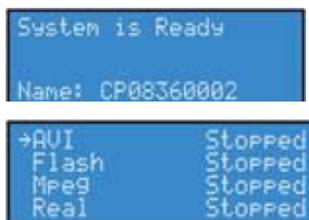
Web Interface へのアクセス

Niagara SCX Web Interface は、ソフトウェアを必要としないうえ、Microsoft® Windows®、Macintosh、Linux® マシンを含む、最新の Web ブラウザがインストールされた任意のコンピュータで動作します。Cisco Digital Media Encoder 2200 システムは、コンピュータと共有された IP ネットワーク上に配置するか、イーサネットケーブル (RJ-45) で Windows コンピュータと直接接続する必要があります。

Niagara SCX Web Interface には、コンピュータ上で Web ブラウザを開いてエンコーダのマシン名を入力することによってアクセスします。たとえば、「http://cp08360002」と入力します。エンコーダのネットワーク名は、そのシリアル番号でもあり、起動プロセス中の LCD ディスプレイで確認できます。

エンコーダの起動プロセスが完了している場合は、システムがアイドル中の LCD ディスプレイでシリアル番号を確認できます。

このとき、エンコーダの LCD ディスプレイには、次のような画面が交互に表示されます。



[System is Ready] ウィンドウに名前が表示されていない場合は、<UP> と <DOWN> の矢印ボタンを押して、名前が表示されるまでシステム情報を切り替えます。

シリアル番号は、エンコーダの底面にも印字されています。

Web ブラウザでエンコーダ名を入力 (下の図のように) して、Enter キーを押します。



ログイン画面でユーザ名とパスワードの入力が要求されます。デフォルトでは、ユーザ名とパスワードはいずれも **admin** です。



ログイン後は、エンコーダの操作、管理、およびシステム設定ツールを含む、Web 対応機能のすべてにアクセスできるようになります。



(注)

マシン名でエンコーダを参照できない場合は、代わりに、エンコーダの IP アドレスを入力します。この情報は、システムのアイドル中に [System is Ready] ウィンドウから入手することもできます。

符号化セッションの開始

符号化セッションを開始するには、マウス ポインタをメニュー バーの [Encoders] の上に移動して、ドロップダウンメニューで [All Encoders] をクリックします。



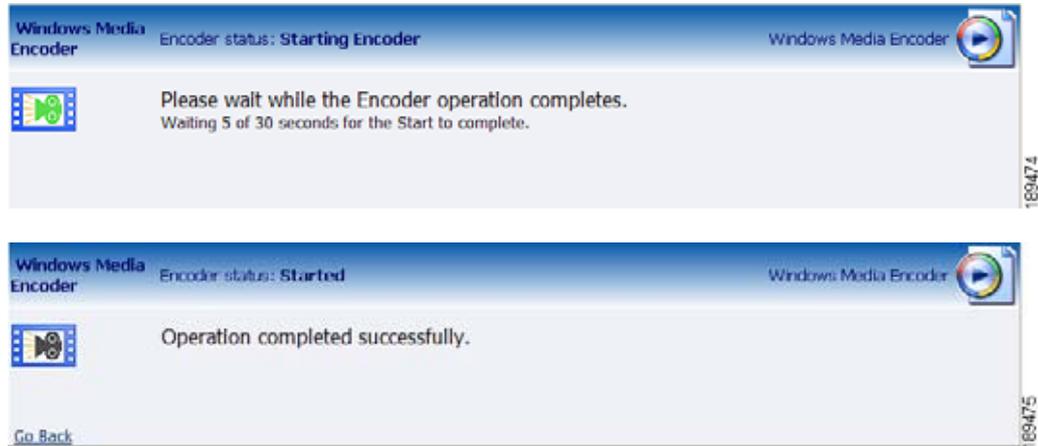
エンコーダにロードされたすべてのエンコーダ プロファイルが、形式と現在のステータスを示すリストに表示されます。

Encoders					
This page allows you to perform encoder setup and removal.					
<input type="checkbox"/> Auto refresh page					Add Encoder
NiagaraPro Encoders Total records : 5					
Edit	Del	Name	Description	Last Status	Streaming Preset
Edit	Del	AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped
Edit	Del	Flash	Flash Encoder	OK	Stopped
Edit	Del	Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped
Edit	Del	Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped
Edit	Del	WME	Windows Media Encoder	OK	Stopped

起動するエンコーダの右側の列に表示された赤色の [Stream] アイコンを押します。



Web ページには、エンコーダの起動進行状況を通知するメッセージが自動的に更新されます。



エンコーダが正常に起動されると、Web ページが [All Encoders] ページに戻って、[Started] モードを反映するようにエンコーダのステータスが更新されます。

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.

Auto refresh page [Add Encoder](#)

NiagaraPro Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming Preset
Edit Del AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped
Edit Del Flash	Flash Encoder	OK	Stopped
Edit Del Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped
Edit Del Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped
Edit Del WME	Windows Media Encoder	Encoder started	Started

符号化セッションの停止

[All Encoders] ページに切り替わらない場合は、マウスポインタをメニューバーの [Encoders] の上に移動して、ドロップダウンメニューで [All Encoders] をクリックします。



これによって、次のような Web ページに移動するはずです。

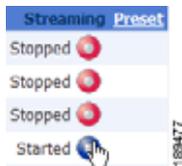
Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.

Auto refresh page [Add Encoder](#)

NiagaraPro Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del WME	Windows Media Encoder	Encoder started	Started	

停止するエンコーダの右側の列に表示された、ストリーミング エンコーダを示す青色のアイコンを押します。



Web ページが、エンコーダの停止状況を示すメッセージで自動的に更新されます。

WME Encoder status: Encoder started Windows Media Encoder

Please wait while the Encoder operation completes.
Waiting 5 of 30 seconds for the Stop to complete.

WME Encoder status: Stopped Windows Media Encoder

Operation completed successfully.

[Go Back](#)

エンコーダが正常に停止されると、Web ページが [All Encoders] ページに戻って、[Stopped] モードを反映するようにエンコーダのステータスが更新されます。

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.

Auto refresh page [Add Encoder](#)

NiagaraPro Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del WME	Windows Media Encoder	Stopped	Stopped	

アクティビティ ログの表示

アクティビティ ログには、エンコーダの開始イベントと停止イベントが記録されます。アクティビティ ログを表示するには、マウス ポインタをメニュー バーの [Status] の上に移動して、ドロップダウンメニューで [Activity Log] をクリックします。



このログは、エンコーダ上でのイベントごとに更新されます。現在のログには、「符号化セッションの開始」(P.2-11) と「符号化セッションの停止」(P.2-12) からのエンコーダの開始イベントと停止イベントが保存されています。

 A screenshot of the 'Activity Log' page. At the top, there is a 'View Activity Types' dropdown set to 'Show All' and a 'Clear Activity Log' button. Below this is a table with 18 records. The table has three columns: 'Created', 'Type', and 'Description'.

Created	Type	Description
9/2/2008 10:30:12 PM	General	WME Stopped
9/2/2008 10:30:12 PM	General	Encoder Stopped Encoder WME Stopped
9/2/2008 10:30:09 PM	General	WME Stopping
9/2/2008 10:30:00 PM	General	WME Started
9/2/2008 10:30:00 PM	General	Encoder Started Encoder WME Started
9/2/2008 10:29:59 PM	General	WME Starting
9/2/2008 10:29:36 PM	General	WME Stopped
9/2/2008 10:29:36 PM	General	Encoder Stopped Encoder WME Stopped
9/2/2008 10:29:29 PM	General	WME Stopping
9/2/2008 10:28:24 PM	General	WME Started

イベントごとに日時が記録されます。右上の [Clear Activity Log] ボタンを押すと、記録されたすべてのアクティビティが消去されます。

EZStream ボタンの設定

エンコーダでは、前面パネルに配置された EZStream ボタン経由のワンボタン ストリーミングが提供されます。デフォルトで、これらのボタンはエンコーダに割り当てられていません。**Niagara SCX Web Interface** を使用して、各ボタンを特定のエンコーダに設定します。

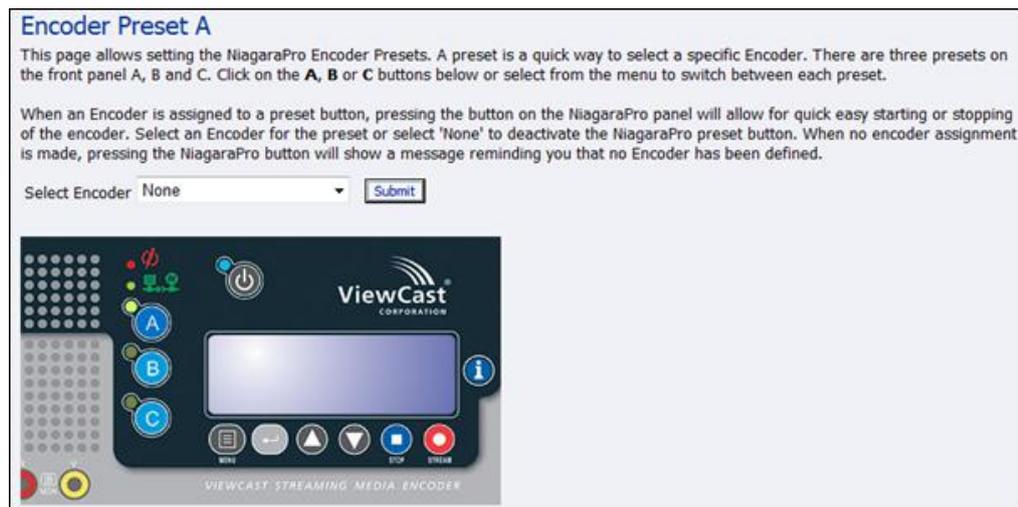
Niagara SCX Web Interface を使用して、マウス ポインタをメニュー バーの [Encoders] の上に移動し、ドロップダウンメニューで [Preset A]、[Preset B]、または [Preset C] を選択することによって、プリセット エンコーダを割り当てることができます。プリセットは、特定のエンコーダを選択してプリセット A、B、または C に割り当てる簡単な方法です。



エンコーダのプリセット (A、B、または C)

[Encoder Preset A] ページにアクセスすると、EZStream <A> ボタンの設定ページが表示されます。このページには、エンコーダの前面パネルのグラフィック表示が含まれています。このグラフィック表示では <A> ボタンが強調表示され、エンコーダをこの対応する EZStream ボタンに割り当てようとしていることが示されます。

このページには、[Select Encoder] フィールドと、[View All Encoders] ページを表示するためのリンクが表示されます。エンコーダがプリセットに割り当てられていた場合は、[View All Encoders] リンクの隣に [Edit] リンクも表示されます。



エンコーダの選択

[Select Encoder] の隣のドロップダウンリストをクリックします。このリストには、システム上で使用可能なすべてのエンコーダのリストが表示されます。

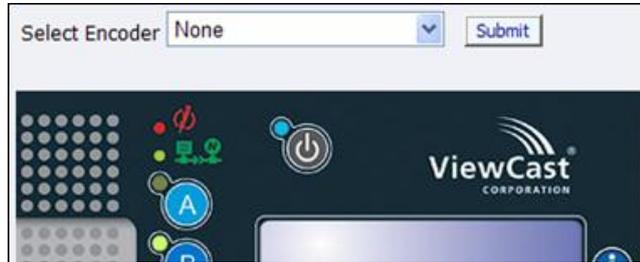


割り当てるエンコーダを選択して、[Submit] ボタンをクリックします。

Web ページがプリセット A に更新して、「Encoder Preset: A updated successfully」というメッセージが表示されます。

■ エンコーダのプリセット (A、B、または C)

エンコーダのグラフィック上の ボタンと <C> ボタンをクリックすることによって、次の図のように、エンコーダを EZStream ボタンに割り当てることができます。



(注)

1 つのエンコーダを同時に 2 つの EZStream ボタンに割り当てることはできません。エンコーダがすでにあるボタンに割り当てられており、それを別のボタンに割り当てると、最新のリクエストに応じてエンコーダと前のボタンの関連付けが解除されます。

すべてのエンコーダの表示

エンコーダを <A> ボタン、 ボタン、または <C> ボタンに割り当てると、[All Encoders] ページの [Presets] 列がその変更を反映するように更新されます。



プリセット エンコーダ プロファイルの編集

エンコーダを EZStream ボタンに割り当てたら、[Preset] ページ下部の [Edit Encoder] リンクをクリックすることによって、エンコーダ編集ページにアクセスできます。



次の項で、各符号化形式プロパティ ページの内容について説明します。各エンコーダ タイプの設定方法については、「エンコーダ プロファイルの編集」(P.2-20) を参照してください。

- 「AVI エンコーダ プロパティ」(P.2-17)
- 「Flash エンコーダ プロパティ」(P.2-17)
- 「MPEG-4 エンコーダ プロパティ」(P.2-18)
- 「Real エンコーダ プロパティ (Helix)」(P.2-19)
- 「Windows Media エンコーダ プロパティ」(P.2-20)

AVI エンコーダ プロパティ

The screenshot shows the 'Encoder Properties' dialog box for an AVI encoder. The 'Name' field is set to 'AVI' and the status is 'Stopped'. The 'Video Settings' section includes: Source: Osprey-5X0 Video Device 1.1, Input: Composite, Signal: NTSC_M, Proportions: Standard, Size: CIF 320x240, and Format: YUY2. The 'Audio Settings' section includes: Source: Osprey-5X0 Audio Device 1 and Input: Unbalanced. The 'Streaming to a file' section has 'Save to file' checked, 'File Name' set to 'default folder', and the file path 'D:\AVFiles\capture.avi'. The 'Advanced Streaming Settings' section has 'SimulStream' checked, 'Enable SimulStream' checked, 'Enable multiple instances for each filter' checked, and 'Show 5 filters per device'. The 'Deinterlace' section has 'Type' set to 'Motion Adaptive'. The 'Motion Threshold' section has 'Smooth' selected and 'Value' set to 16. At the bottom, there are links for 'All Encoders', 'Delete Encoder', a 'Submit' button, and a 'Top' link.

Flash エンコーダ プロパティ

The screenshot shows the 'Encoder Properties' dialog box for a Flash encoder. The 'Name' field is set to 'Flash' and the status is 'Stopped'. The 'Video Settings' section includes: Source: Osprey-5X0 Video Device 1.1, Input: Composite, Signal: NTSC_M, Proportions: Standard, and Size: 640x480. The 'Audio Settings' section includes: Source: Osprey-5X0 Audio Device 1 and Input: Unbalanced. The 'Advanced Flash Video Settings' section includes: Frame Rate: 29.97000000 fps and Bitrate: 768 kbps. The 'Advanced Flash Audio Settings' section includes: Format: 44.100 kHz, 16 bit, Stereo and Bitrate: 128 kbps. The 'Streaming to a file' section has 'Save to file' checked, 'File Name' set to 'default folder', and the file path 'D:\AVFiles\capture.flv'. The 'Advanced Streaming Settings' section has 'SimulStream' checked, 'Enable SimulStream' checked, 'Enable multiple instances for each filter' checked, and 'Show 5 filters per device'. The 'Deinterlace' section has 'Type' set to 'Motion Adaptive'. The 'Motion Threshold' section has 'Smooth' selected and 'Value' set to 16. At the bottom, there are links for 'All Encoders', 'Delete Encoder', a 'Submit' button, and a 'Top' link.

MPEG-4 エンコーダ プロパティ

Encoder Properties

Name: Auto Start Stopped ● MPEG4 Encoder Driver H.264

<p>Video Settings</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Source: Osprey-5X0 Video Device 1.2</p> <p>Input: <input type="text" value="Composite"/></p> <p>Signal: <input type="text" value="NTSC_M"/></p> <p>Proportions: <input type="text" value="Standard"/></p> <p>Size: <input type="text" value="FULL 640x480"/></p> <p>Format: <input type="text" value="YUY2"/></p> <p>Advanced MPEG Video Settings</p> <p>MPEG Type: <input type="text" value="H264 - MP4"/></p> <p>Encoder Quality: <input type="text" value="Real-time"/></p> <p>Frame Rate: <input type="text" value="29.9700000"/></p> <p>Bitrate (kbps): <input type="text" value="768"/></p> <p>Enable B-frames <input type="checkbox"/></p>	<p>Audio Settings</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Source: Osprey-5X0 Audio Device 1</p> <p>Input: <input type="text" value="Unbalanced"/></p> <p>Advanced MPEG Audio Settings</p> <p>Audio Format: <input type="text" value="44.100 kHz, 16 bit, Stereo"/></p> <p>Audio Type: <input type="text" value="Low Complexity"/></p> <p>Audio Encoder: <input type="text" value="AAC"/></p> <p>Bitrate: <input type="text" value="128"/></p>	<p>Preset</p> <p>None</p>
--	--	----------------------------------

[Bottom](#)

<p>Streaming Properties</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Enable Streaming</p> <p>Destination IP: <input type="text" value="239.1.1.1"/></p> <p>Callback IP: <input type="text" value="172.16.1.148"/></p> <p>Video Port: <input type="text" value="5050"/></p> <p>Audio Port: <input type="text" value="5052"/></p> <p>Time to Live: <input type="text" value="30"/></p> <p>Stream Info: <input type="text" value="Stream Info Here..."/></p> <p>Stream Title: <input type="text" value="Streaming Server"/></p> <p>SDP File: <input type="text" value="capture.sdp"/></p> <p>Streaming to a File</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Save to file</p> <p>File Name: <input type="text" value="default folder"/> <input type="text" value="D:\AVFiles\capture.mp4"/></p> <p>Portable Media</p> <p><input type="checkbox"/> Enable Saving</p> <p>Media Title: <input type="text" value="Title"/></p> <p>All Encoders Delete Encoder <input type="button" value="Submit"/></p>	<p>Advanced Streaming Settings</p> <p>SimulStream</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Enable SimulStream</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Enable multiple instances for each filter</p> <p>Show <input type="text" value="5"/> filters per device.</p> <p>Deinterlace</p> <p>Type: <input type="text" value="Motion Adaptive"/></p> <p>Motion Threshold</p> <p><input checked="" type="radio"/> Smooth <input type="radio"/> Sharp</p> <p>Value: <input type="text" value="16"/></p> <p style="text-align: right;">Top</p>
--	--

Real エンコーダ プロパティ (Helix)

Encoder Properties

Name: Real Auto Start Stopped

Video Settings

Source: Osprey-5X0 Video Device 1.3

Input: Composite

Signal: NTSC_M

Proportions: Standard

Size: FULL 640x480

Audio Settings

Source: Osprey-5X0 Audio Device 1

Input: Unbalanced

Preset

[Bottom](#)

Streaming Properties

Real Streaming properties

Enable Streaming

Broadcast Method: Legacy Push (ver 8.x, 7.x, G2)

Transport: UDP TCP

Server Address:

Port/Port Range:

Multicast Address:

Listen Address: Automatic

Stream Name:

Path(optional):

User Name:

Password:

Frame Rate: 15

Video Quality: Normal Motion Video

Audio Content: Voice Only

Video Noise Filter: Off

De-Interlace filter

Inverse Telecine

Streaming to a File

Save to file

File Name: default folder

D:\AVFiles\capture.rm

Advanced Streaming Settings

Audience Selection Enable SureStream

100% Quality Download (VBR) 5M Download (VBR)

128k Dual ISDN 5M Multichannel (VBR)

12k Substream for 28k Dial-up 5M Surround Stereo (VBR)

150k LAN 64k Single ISDN

16k Substream for 28k Dial-up 70% Quality Download (VBR)

1M Download (VBR) 750k Download (VBR)

Select all [Unselect all](#)

SimulStream

Enable SimulStream

Enable multiple instances for each filter

Show 5 filters per device.

Deinterlace

Type: Motion Adaptive

Motion Threshold

Smooth Sharp

Value: 16

[Top](#)

[All Encoders](#) [Delete Encoder](#)

Windows Media エンコーダ プロパティ

エンコーダ プロファイルの編集

新しいエンコーダを作成すると、[Encoder Properties] ページが表示されます。デフォルトで特定のエンコーダの設定と要件が指定された新しいプロファイルを編集できます。新しいエンコーダを編集するプロパティ ウィンドウと既存のエンコーダを編集するプロパティ ウィンドウは同じです。

既存のエンコーダ プロファイルは、[All Encoders] ページでも編集できます。



プロパティを変更するエンコーダの隣にある [Edit] リンクをクリックします。



The screenshot shows the 'Encoders' page with a table listing various encoder drivers. The table has columns for Name, Description, Last Status, Streaming, and Preset. All encoders listed are currently 'Stopped'.

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Flash	Flash Encoder	OK	Stopped	
Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
WME	Windows Media Encoder	OK	Stopped	

そのエンコーダのプロパティ ページが表示されます。

ビデオとオーディオの設定

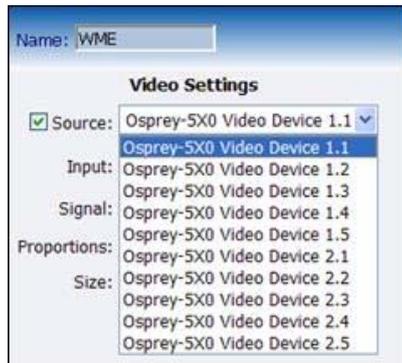
エンコーダ タイプに関係なく、オーディオとビデオのプロパティを設定する必要があります。これらの値は、AVI と MPEG-4 のために追加された色空間設定を除いて、すべてのエンコーダ タイプで同じです。

[Video Settings] または [Audio Settings] の下で [Source] の隣にあるチェック ボックスをクリックすることによって、ビデオまたはオーディオの有効/無効を切り替えることができます。チェック ボックスをオンにした場合は、次のスクリーンショットに示すように、[Video Settings] の下の [Input] フィールド、[Signal] フィールド、[Proportions] フィールド、および [Size] フィールドと、[Audio Settings] の下の [Input] フィールドが有効になります。



Cisco Digital Media Encoder 2200 は単一チャンネル エンコーダですが、いつでも、独立した 2 つのオーディオ ソースとビデオ ソースからキャプチャすることができるため、1 つのビデオ ソースから複数のストリーミング形式と解像度を同時にキャプチャすることができます。これを実現するために、ビデオ ソースは 10 進値をインクリメントすることによって表される複数の入力として見なされます。これらは次のように表示されます。

エンコーダのプリセット (A、B、または C)



オーディオ ソース設定には、下で説明する選択肢が含まれます。



警告

ビデオの [Proportions] と [Size] の設定が同じすべてのエンコーダは、ビデオ ソース設定とオーディオ ソース設定も同じことを確認してください。たとえば、[Proportions] が [Standard] で [Size] が [CIF] のすべてのエンコーダ取り込みは Osprey-5x0 Video Device 1.1 に設定されますが、[Proportions] が [Standard] で [Size] が [QCIF] のエンコーダ取り込みは Osprey-5x0 Video Device 1.2 に設定されます。

ビデオとオーディオそれぞれの [Input] は、ビデオ ソースとオーディオ ソースが接続されたエンコーダ背面のコネクタと一致するように設定します。ビデオ入力の場合は [Composite]、[S-Video]、または [SD SDI] に、オーディオ入力の場合は [Unbalanced]、[XLR Balanced]、[XLR AES/EBU]、または [embedded SDI] にすることができます。

初期開始設定で、ビデオ信号を NTSC と PAL のどちらにするかを決定します。[Signal] フィールドで、地域別の NTSC、PAL、および SECAM の設定を細分化できます。どの設定が該当するかが不明の場合は、エンコーダ ハードウェアに接続されたビデオ ソースの所有者のマニュアルを参照してください。

[Proportions] 設定では、VGA モニタの正画面素を意味する Standard という用語と、TV モニタの細長い画素を意味する CCIR-601 という用語が使用されます。コンテンツが表示されるディスプレイのタイプを反映した設定を選択してください。たとえば、コンピュータ モニタに表示されるビデオをインターネット経由でストリーミングする場合は、[Standard] を選択します。不適切な設定を選択した場合は、ストリーミング ビデオに歪みが生じます。

[Size] フィールドは、符号化されたビデオの画素サイズを意味します。標準サイズは次のとおりです。

- フル スクリーン ビデオの場合はフルサイズ
- フルサイズから 1/4 サイズに縮小されたビデオの場合は CIF
- フルサイズから CIF サイズの 1/4 に縮小されたビデオの場合は QCIF

ビデオのカスタム サイズを指定することもできます。これは、互換性を維持するために非標準サイズが必要なモバイル ビデオ デバイス上で再生されるビデオの取り込み時に役に立ちます。

ドロップダウンメニューで [Custom] を選択した場合は、2 つの追加フィールドが表示され、生成されるビデオの正確なサイズを入力できます。



(注)

ソースビデオの色空間と互換性のないビデオサイズを指定した場合は、[Submit] ボタンをクリックしたときに、自動的に最も互換性のある設定に近いサイズに修正されます。[Format] という名前の色空間形式設定は、[AVI] と [MPEG-4] の [Encoder Properties] でしか使用できず、[Size] 設定の下に追加のフィールドとして表示されます (下図を参照)。



これで、すべてのビデオ設定とオーディオ設定が終了しました。ページ下部のエンコーダタイプ設定に進むことができます。

ストリーミング プロパティ

前述したように、これらの設定はエンコーダタイプによって異なります。各エンコーダの [Streaming Properties] セクションと [Advanced Streaming Settings] セクションの詳細については、このマニュアルの各エンコーダのプロパティページを参照してください。

高度なストリーミング設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[SimulStream](#)」 (P.2-23)
- 「[インタレース解除](#)」 (P.2-25)

SimulStream

SimulStream では、何らかの方法で画素の色合いや色を変化させることによって、イメージの外観を変えるためのフィルタが使用されます。フィルタは、明るさやコントラストを増やすだけでなく、さまざまなテクスチャ、色調、および特殊効果を画像に加えるために使用されます。SimulStream のフィルタには、次の 2 つの相互に関連する目的があります。

- フィルタを使用すれば、アプリケーションでビデオのキャプチャを列挙したり、(それぞれの設定が異なる) ピンやストリームをビデオデバイス選択リストの名前付きエントリとしてプレビューすることができます。デバイスごとのフィルタを表示するようにビデオデバイスドライバを設定できます。フィルタごとに、プレビューピンとキャプチャピンが 1 つずつあります。Osprey デバイスに特化したカスタムプログラムを作成しなくても、標準のアプリケーションで特定のフィルタにアクセスできます。

エンコーダのプリセット (A、B、または C)

- フィルタごとに、トリミング、デフォルトの出力サイズ、ウォーターマーク、およびセッション間で保存可能なキャプションを設定できます。前述の「ピンベース」の方法と比較して、インストール中の設定順序の制限がありません。

次の [Enable SimulStream] ダイアログボックスを見てください。

上部の [Enable SimulStream] の隣にあるチェックボックスをオンにすると、現在選択されているエンコーダに対して SimulStream を実行できます。

エンコーダには、AV チャネルごとに SimulStream のフルライセンスがインストールされており、このチェックボックスによってフル SimulStreaming が制御されます。



(注)

[Enable SimulStream] ステータスを変更して [Submit] をクリックした場合は、機器を再起動する必要があります。再起動しなかった場合は、SimulStream が正常にアクティブにならず、キャプチャデバイスに不正な名前が付けられたり、ピンが不正確になる可能性があります。

デバイス単位のフィルタ数の表示

デバイス単位のフィルタ数の表示コントロールを使用すれば、エンコーダで列挙または選択されるデバイス単位のフィルタ数を公開するようにデバイス ドライバを設定できます。たとえば、デバイス単位のフィルタ数として 5 が選択されている場合は、アプリケーションのデバイス リストに現在選択されているデバイスに対して 4 つのエントリが表示されます。デバイス 1 の場合は、これらのエントリが 1.1、1.2、1.3、1.4、および 1.5 として指定されます。



(注)

要求したフィルタ数は、システムを再起動するまで正しく表示または機能しません。



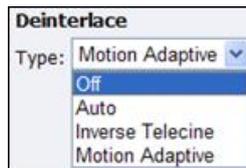
(注)

デバイスごとに複数のフィルタを公開して列挙できますが、そのすべてが実際に機能するわけではありません。実際のフィルタ数は、機器の能力、有効なフィルタのタイプ、エンコーダごとに要求された拡大縮小と色形式変換のタイプ、および使用されている処理のタイプによって異なります。機器に複数の

キャプチャ チャンネルがある場合のフィルタ数は、すべてのチャンネルの合計になります。加えて、インタレース解除やガンマ補正などのチャンネルごとに 1 回ずつ実行される処理のタイプによっては、何回もカウントされる可能性があります。つまり、フィルタ単位の処理の負荷が軽ければ、機器で複数のフィルタを同時にサポートできます。ただし、ドライバの内部または外部の処理負荷が特に重い場合は、数個のフィルタしか同時に実行できません。

インタレース解除

[Deinterlace] フィールドには、4 つのドロップダウン選択肢があります。下の図に示すように、これらの選択肢は、[Off]、[Auto]、[Inverse Telecine]、および [Motion Adaptive] です。



各選択肢の詳細については、次の定義を参照してください。

- **Off** : どの種類のインタレース解除も実行しません。
- **Auto** : 逆テレシネ インタレース解除をすべてのテレシネ ビデオに適用します。テレシネ以外のすべてのビデオには、動き適応型インタレース解除を適用します。コンテンツが変化するたびに 2 つのモードを動的に切り替えます。NTSC ビデオにしか使用できません。
- **Inverse Telecine** : 逆テレシネ インタレース解除をすべてのテレシネ ビデオに適用します。テレシネ以外のビデオのインタレース解除は実行しません。NTSC ビデオにしか使用できません。
- **Motion Adaptive** : 動き適応型インタレース解除をすべてのビデオに適用します。

インタレース設定は、デバイス単位で適用および保存され、デバイスに関連付けられたすべてのフィルタとピンに適用されます。

動き適応型インタレース解除

動き適応型インタレース解除は、ピュア ビデオ (非テレシネ) コンテンツをインタレース解除するためのアルゴリズムです。イメージの静止している部分と動作している部分を検出して、異なる処理を適用します。動き適応型インタレース解除は、[Advanced Streaming Settings Simulstream] の下の [Motion Threshold] が使用される唯一のインタレース解除タイプです。



テレシネと逆テレシネ

テレシネ ビデオは、1 秒間に 24 コマのフィルムに対して作成された NTSC ビデオです。テレシネ変換プロセスでは、特定のフィールドが規則正しいシーケンスで繰り返されます。テレシネ化されたシーケンスを直接プログレッシブ画面に表示すると、インタレース アーチファクトが発生します。

「逆テレシネ」と呼ばれるプロセスは「テレシネ」の逆のプロセスで、冗長なフィールドが削除され、ビデオが 24 fps のプログレッシブ形式に再構成されます。インタレース アーチファクトが完全に除去されます。ビデオを 24 fps で再生した場合は、元のフィルムと全く同じタイミングとシーケンスで表示されます。ビデオを 30 fps で再生した場合は、第 5 フレームが繰り返されます。ただし、インタレース解除アーチファクトは発生しません。

テレシネと逆テレシネは NTSC ビデオにのみ適用されます。PAL や SECAM ビデオには使用されません。ビデオ標準として PAL または SECAM が選択された場合は、[Auto] ボタンと [Inverse Telecine] ボタンが無効になります。

動きしきい値

動きしきい値によって、空間関連画素と時間関連画素の識別域（「動き」と判断される）が調整されます。高い値を指定すると、動いている画素数が大幅に削減されます。低い値を指定すると、事実上、画面全体が動いていると見なされるまで動き画素数が大幅に増加されます。デフォルトの推奨値は 16 です。

シャープな動きと滑らかな動き

[Sharp Motion] オプション ボタンを選択すると、動いている領域の細部がシャープになりますが、斜めエッジがギザギザになります。

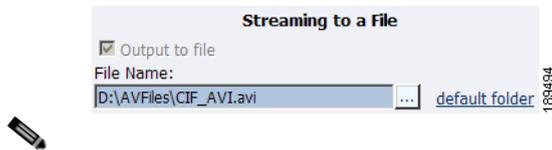
[Smooth Motion] オプション ボタンを選択すると、動いている領域の細部が失われますが、エッジが滑らかになります。

人間の目には動いている領域の細部までははっきり見えないが、エッジアーチファクトは非常に目立つことから、ほとんどのアプリケーションには [Smooth] アルゴリズムが適しています。[Smooth] アルゴリズムでは、若干 CPU が余分に使用されます。

どちらのアルゴリズムでも静止領域は同様に処理され、静止領域の細部は失われないはずですが。

AVI エンコーダ設定

AVI は、非圧縮の AV 保存形式のため、ファイルにしか**保存**できません。生成される AVI ファイルの一意的な名前を指定したり、ファイルを保存するディレクトリパスを変更できます。[Default Folder] リンクをクリックすると、エンコーダ上のファイル保存用のデフォルトフォルダパスが挿入されます。デフォルトでこのパスは、d:\AVFILES¥です。



(注)

エンコーダ上の他のディレクトリにファイルを保存しないでください。

ファイルをエンコーダ内部のハードドライブに保存したら、バックアップ用に、そのドライブを USB ドライブやネットワーク ドライブなどの外部ストレージデバイスに移動することをお勧めします。

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに現在のページから別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Flash エンコーダ設定

Flash エンコーダの設定は、オーディオとビデオを保存する AVI 設定と似ています。ただし、フラッシュの場合は、いくつかのフレームコントロールとビットレートコントロールが追加されています。フレームレートによって、ビデオが符号化される 1 秒当たりのフレーム数が増減します。オーディオ

形式設定を使用して、オーディオ周波数を変更したり、ステレオからモノに切り替えることができます。ビットレート設定は、オーディオとビデオがキャプチャされる 1 秒当たりのデータ量に関係します。この両方または片方のビットレートを下げると、再生表示品質が低下します。

Flash エンコーダによって、フラッシュ形式の AV ファイルが作成されます。フラッシュファイル (.flv) には一意の名前を指定できます。

The screenshot displays the configuration interface for a Cisco Digital Media Encoder 2200, divided into several sections:

- Advanced Flash Video Settings:** Frame Rate is set to 29.9700000 fps, and Bitrate is 768 kbps.
- Advanced Flash Audio Settings:** Format is 44.100 kHz, 16 bit, Stereo, and Bitrate is 128 kbps.
- Streaming Properties:** Includes checkboxes for 'Enable Streaming', 'Server Address' (http://localhost:streamtest), 'Stream Name' (myStream), 'Server Type' (Server Without Password), 'User Name', and 'Password'.
- Advanced Streaming Settings:** Includes 'SimulStream' with 'Enable SimulStream' checked, 'Enable multiple instances for each filter' unchecked, and 'Show 5 filters per device'.
- Deinterlace:** Type is set to Motion Adaptive.
- Motion Threshold:** Radio buttons for 'Smooth' (selected) and 'Sharp', with a Value of 16.
- Streaming to a File:** Includes 'Save to file' checkbox, 'File Name' (default folder), and a text input field containing 'D:\AVFES\capture.flv'.

Navigation buttons include 'All Encoders', 'Delete Encoder', and 'Submit'. A 'Bottom' link is visible in the top right, and a 'Top' link is in the bottom right.

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

MPEG-4 エンコーダ設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「エンコーダ設定 Web Interface」(P.2-27)
- 「Real Encoder 設定 (Helix)」(P.2-33)

エンコーダ設定 Web Interface

Cisco Digital Media Encoder 2200 ソフトウェアの MPEG-4 圧縮エンジンによって、(1) H.264/MPEG-4 Part 10 (Baseline Profile)、(2) MPEG-4 Part 2 (Simple Profile)、および (3) H263 (Simple Profile) の符号化機能が提供されます。この製品を使用すれば、インターネットビデオ、携帯電話、およびセットトップボックス用のストリームを符号化して、iPod® などの MPEG-4 互換デバイス用のメディアファイルを作成できます。

Niagara SCX Web Interface では、エンコーダで使用可能な MPEG-4 のビデオオプションとオーディオオプションに関する基本的な設定と高度な設定用のオプションが提供されます。

下の図は、*Niagara SCX Web Interface* を通してエンコーダを設定した後に表示される画面を示しています。

[Advanced MPEG Video Settings] では、出力に必要な [MPEG Type] を選択できます。次のような MPEG タイプがあります。

- **H.264–MP4** : H.264/MPEG-4 Part 10 AVC (Advanced Video Coding) は、その前身の H.263 よりも高い品質を維持しながら、非常に高い圧縮率を実現するために設計されました。また、低ビットレートから高ビットレートまでの幅広いアプリケーションと、携帯電話などの低解像度から放送などの高解像度までのアプリケーションに対応するように作成されています。エンコーダの H.264 は Baseline Profile です。
- **H.264–3G2** : この設定では、3G2 コンテナに保存された H.264 ストリームが生成されます。
- **H.264–3GP** : この設定では、3GPP コンテナに保存された H.264 ストリームが生成されます。
- **MPEG4–MP4** : H.263/MPEG-4 Part 2 は、ネットワーク帯域幅やデバイス サイズなどの他の条件によって低ビットレートと低解像度にせざるを得ない状況に対応するように設計されています。H.263 対応のビデオアプリケーションの例には、携帯電話、一部のローエンドビデオ会議システム、およびサーベイランスシステムがあります。H.263 は、H.264 をサポートしていない従来のハンドヘルドデバイスにとって重要です。



(注) [Enable B Frames] オプションを選択しなかった場合は、デフォルトで、エンコーダの H.263 で Simple Profile が使用されます。B フレームが有効な場合に生成されるストリームは、Advanced Simple Profile です。

- **MPEG4–3G2** : この設定では、3G2 コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。

- **MPEG4-3GP** : 3GP は、3G 携帯電話に使用するために Third Generation Partnership Project (3GPP) によって定義されたマルチメディア コンテナ形式です。MPEG-4 や H.264 などのビデオ ストリームまたは AMR や AAC などのオーディオ ストリームが保存されます。この設定では、3GPP コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。この形式に関して定義された 2 つの標準があります。
 - 3GPP (GSM ベースの携帯電話用)
 - 3GPP2 (CDMA ベースの携帯電話用)
- **H263-MP4** : H.263/MPEG-4 Part 2 は、ネットワーク帯域幅やデバイス サイズなどの他の条件によって低ビット レートと低解像度にせざるを得ない状況に対応するように設計されています。H.263 対応のビデオ アプリケーションの例には、携帯電話、一部のローエンド ビデオ会議システム、およびサーベイランス システムがあります。H.263 は、H.264 をサポートしていない従来のハンドヘルド デバイスにとって重要です。



(注) [Enable B Frames] オプションを選択しなかった場合は、デフォルトで、エンコーダの H.263 で Simple Profile が使用されます。B フレームが有効な場合に生成されるストリームは、Advanced Simple Profile です。

- **H263-3G2** : この設定では、3G2 コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。
- **H263-3GP** : この設定では、3GPP コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。



(注) 現時点で [Encoder Quality] 設定がアクティブになっていませんが、ストリームまたはファイルの符号化に影響はありません。



(注) Quicktime® プレーヤーなどの一部のプレーヤーは、B フレームを含むストリームと互換性がありません。生成されたストリームの再生時に画質の問題が生じた場合は、B フレームを無効にしてほとんどのプレーヤーとの互換性を保証してください。

エンコーダのプリセット (A、B、または C)

[Advanced MPEG Audio Settings] では、オーディオ形式、オーディオ タイプ、オーディオ エンコーダ、およびビット レートを選択できます。これらの選択肢には、オーディオ サンプリングに関するいくつかのオプションと、オーディオをモノとステレオのどちらで符号化するかが含まれます。

[Audio Type] 設定は、AAC 符号化にのみ関係します。[Audio Encoder] フィールドで [AMR] を選択した場合は、この設定が使用されません。[Audio Type] フィールドには、次の 2 つの選択肢を含むドロップダウン ボックスがあります。

- **Main** : この形式は、[Low Complexity] と同じですが、後方予測が追加されます。
- **Low Complexity (LC)** : 最も単純で最も広く使用されている形式で、AAC オーディオ形式をサポートします。



(注)

生成されたストリームが再生されるプレーヤーによって、どちらか一方の選択肢 ([Main] または [Low Complexity]) で、オーディオ ストリームを符号化するための特定のツール セットが使用されます。再生ソフトウェアまたはデバイスの要件に基づいて、選択する必要があります。最も広くサポートされている形式は LC プロファイルです。

[Audio Encoder] 設定には、次の 3 つの選択肢を含むドロップダウン ボックスがあります。

- **AAC (Advanced Audio Coding)** : デジタル オーディオ用の標準化された不可逆圧縮および符号化スキーム。AAC は、MP3 よりも優れたオーディオ品質を実現し、Motion Picture Experts Group (MPEG) によって標準に指定されました。
- **AMR-NB (Adaptive Multi-Rate Narrow-Band – 8 kHz)** : 音声符号化に最適化されたオーディオ データ圧縮スキーム。AMR は、3GPP によって標準の狭帯域音声コーデックとして採用され、GSM で広く使用されています。
- **AMR-WB (Adaptive Multi-Rate Wide-Band – 16 kHz)** : 音声符号化に最適化されたオーディオ データ圧縮スキーム。AMR は、3GPP によって標準の広帯域音声コーデックとして採用され、GSM で広く使用されています。



(注) オーディオ エンコーダとして [AMR Encoder] を選択した場合は、オーディオが携帯電話で再生するための 8 kHz モノを使用して自動的に符号化されます。オーディオ エンコーダとして [AMR-WB] を選択した場合は、[Audio Format] を携帯電話で再生するための 16 kHz、16 ビット、モノに変更する必要があります。

[Audio Bitrate] ドロップダウン ボックスには、8～320 の範囲の複数の選択肢が表示されます。

エンコーダ用の Web Interface には、[Streaming Properties] と [Advanced Streaming Properties] に関するオプションが含まれています。選択した放送タイプによっては、[Enable Streaming] チェックボックスをオンにすることができます。プルの有効化方法については、「[Real エンコーダ プロパティ \(Helix\)](#)」(P.2-19) を参照してください。その他のオプションで、ポータブル メディアを保存したり、メディア タイトルを指定できます。

[Advanced Streaming Settings] 機能の下には、ストリーミング中にファイルに出力するためのオプションやファイルに出力するだけのオプションがあります。このファイルの一意の名前と場所を入力する必要があります。

符号化されたコンテンツをファイルに保存する場合は、[Output to file] チェックボックスをオンにします。表示されたフィールドにファイルの保存先を入力します。デフォルトで、このフォルダは D:\AVFiles\Out に設定されます。

ストリームをポータブル メディアからファイルに保存する場合は、[Save to Portable Media] チェックボックスをオンにします。



(注) このファイル名は、SCX Explorer を実行しているシステムではなく、エンコーダ システムから参照されることを覚えておいてください。

SCX Manager と SCX Explorer が同じコンピュータ上に存在しない場合は、必ず、マイ ネットワークでファイル用のブラウザを起動して、システム名で始まるファイルのパス名全体 (¥¥fileserver¥c¥¥videos など) を参照または入力してください。ファイル名だけを入力した場合は、リモート コンピュータ上に存在するメディア ファイルをローカル コンピュータ上で参照することになります。

MPEG-4 コンテンツをストリーミングする場合は、[Enable Streaming] を選択します。適切なストリーミング プロパティを設定します。



(注)

ライブ ストリーミングとファイルへのストリーミングは同時に実行できません。一度に 1 つのチェックボックスしかオンにすることができません。ライブ ストリーミングとファイルへのストリーミングを同時に実行するには、別々のプロファイルを設定する必要があります。

Streaming Properties	
<input checked="" type="checkbox"/> Enable Streaming	
Destination IP:	239.1.1.1
Callback IP:	172.16.1.143
Video Port:	5050
Audio Port:	5052
Time to Live:	30
Stream Info:	Stream Info Here.
Stream Title:	Streaming Server
SDP File:	c:\capture.sdp



(注)

デフォルトの設定では、マルチキャストストリーミングが有効になります。この動作が望ましくない場合は、グループの IP アドレスをエンコーダからストリーミングするサーバの IP アドレスに変更してください。

[SDP File] フィールドに、ストリームの開始時点で生成される SDP ファイルの名前と保存先パスを指定する必要があります。Helix[®]、Quicktime、または Darwin サーバに対してストリーミングする場合は、それぞれのマニュアルやオンライン メッセージ ボードでストリーミング サーバの設定方法を参照してください。



(注)

SDP ファイルの共有保存先ディレクトリを選択することによって、ポイントツーポイントでストリーミングすることができます。ストリーミングする PC の IP アドレスを入力した場合は、マルチキャストが無効になることを覚えておいてください。

たとえば、別の PC でストリームを表示する場合は、SDP ファイルをローカル ドライブの共有フォルダに保存します。他の PC で SDP ファイルを開いたり、ストリームを Quicktime やその他の MPEG-4 互換ストリーミング プレーヤーで再生できます。MPEG-4 符号化は CPU に負荷がかかるため、非常に強力なシステム (デュアル コア プロセッサ以上) がない場合は、エンコーダと同じシステム上でストリームを再生しないでください。これを行った場合は、CPU に過大な負荷がかかり、ビデオ画質の低下や符号化セッションの失敗につながる可能性があります。

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、設定を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Real Encoder 設定 (Helix)

Real (Helix) は、ストレージ形式とストリーミング形式を兼ね備えています。ファイルに出力できることに加えて、Real Encoder では Helix Server にストリーミングすることができます。Real Encoder の設定には、サーバに対する接続およびストリーミングに関するパラメータの調整が含まれます。

Broadcast Method : Real 形式ビデオの Helix Server へのストリーミング放送には次のようにいくつかの種類があります。

- **Push, Account-Based Login (Helix Server)** : アカウントベースのプッシュ放送では、Helix Server バージョン 9 以降にストリームを送信できます。この方式では、エンコーダで Helix Server への監視接続が維持されます。この接続によって、サーバへのアクセスを認証するためのユーザ名とパスワードを渡すことができます。また、この接続を通して、放送ストリームに関する統計情報が Helix Server からエンコーダに返されます。
- **Push, Password-Only Login (Helix Server)** : アカウントベースの放送と違って、パスワードのみの放送では監視接続が確立されません。したがって、この種の放送では、ネットワークオーバーヘッドを下げる必要がありますが、Helix Server からのフィードバックは受け取れません。この放送方式を使用すれば、Helix Server バージョン 9 以降にライブストリームを送信できます。ただし、分割調整でサーバをレシーバーとして設定する必要があります。詳細については、Helix Server のマニュアルを参照してください。

- **Push, Multicast (Helix Server)** : マルチキャストでは、エンコーダでその出力方向の帯域幅を広げなくても、1 つの放送ストリームを任意の数の Helix Server に配信できます。Helix Server は、事前に、エンコーダからのマルチキャスト用に設定しておく必要があります。詳細については、Helix Server のマニュアルを参照してください。
- **Pull (Helix Server)** : プル放送では、符号化開始直後にエンコーダで放送パケットの生成が開始されます。ただし、Helix Server からストリームが要求される (最初の RealPlayer® ユーザが放送を要求したときに発生する) まで放送ストリームは配信されません。このプル放送では、誰も放送を受信していないときに、エンコーダと Helix Server 間の帯域幅が節約されます。この放送方式を使用すれば、Helix Server バージョン 9 以降にストリームを送信できます。
- **Legacy Push (8.x, 7.x, G2)** : 従来のプッシュ方式は、アカウント ベースのプッシュ方式と同様です。ただし、従来のプッシュでは、サーバのフィードバックや統計情報を提供するための監視接続が使用されず、アカウント ベースのプッシュほど堅牢ではありません。この放送方式は、RealSystem Server G2、7、8U などの、Helix Server バージョン 9 以前から存在するサーバに放送ストリームを送信する場合にのみ使用してください。

Transport Protocol : プッシュ放送方式を使用する場合は、Helix Server への放送ストリームの配信に UDP と TCP のどちらを使用するかを指定します。UDP の方がネットワーク オーバーヘッドが低いいため、望ましいプロトコルと言えます。ただし、不可逆環境で放送を配信する場合は、TCP の使用をお勧めします。

[Server Address] フィールドに対して、207.188.7.176 や helixserver.example.comfield のように、放送に使用する Helix Server の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

[Port/Port Range] フィールドに対して、Helix Server 上の HTTP ポートを指定します。デフォルト値は、サーバのデフォルト HTTP ポートであるポート 80 です。マルチキャストの場合、放送パケットが送信される Helix Server レシーバー上のポートの範囲を指定します。エンコーダと Helix Server の間で、放送が開始されるたびに実際に使用されるポートの取り決めが行われます。デフォルトの範囲は 30001 ~ 30020 です。

マルチキャスト アドレスを使用する場合は、[Multicast Address] フィールドに放送ストリームのマルチキャスト アドレスを入力します。マルチキャスト アドレスは、224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 の範囲で指定する必要があります。

[Listen Address] フィールドは、Helix Producer がサーバからのリクエストの再送をリッスンするマシンの IP アドレスです。

このリッスン アドレスによって、Helix Mobile Producer Live が Helix Server からのパケット再送リクエストをリッスンするために使用する IP アドレスが設定されます。リッスン アドレスとして、次の値のいずれかを使用できます。

- **Automatic** : これは最も安全な設定であり、ほとんどのファイアウォール設定で動作します。
- **System IP** : マシンの IP アドレス
- **System IP 2** : マシンの第 2 IP がマルチ ホーム化されます。
- ユーザが入力した IP アドレス

Helix Mobile Producer Live マシンで複数の IP アドレスが使用されている場合は、Helix Mobile Producer Live と Helix Server 間の通信で使用する必要のある IP アドレスを入力します。ネットワーク アドレス変換 (NAT) が行われるファイアウォールを通して放送する場合は、リッスン アドレスをファイアウォールの IP アドレスまたは 0.0.0.0 の値に設定します。0.0.0.0 の値は、任意の IP アドレスから Helix Mobile Producer Live に接続できることを Helix Server に伝えます。ただし、この接続には有効なパスワードが必要です。

[Stream Name] フィールドに、放送ストリームの名前を入力します。この名前は、クリップ名に似ており、固定ビット レート ストリームの場合は .rm の拡張子を使用し、可変ビット レート ストリームの場合は .rmvb の拡張子を使用する必要があります。この名前が放送 URL に表示されます。

[Path (optional)] フィールドには、Helix Server 上でのアーカイブや分割に使用可能な仮想パスを指定します。news/ のように前方スラッシュが続く単純な名前を使用してください。

[User Name] フィールドと [Password] フィールドには、Helix Server レシーバー定義ごとに定義されたユーザ名とパスワードを入力します。この値が間違っていると放送接続が失敗します。

[Frame Rate]、つまり、フレーム周波数は、イメージング デバイスでフレームと呼ばれている、一意の連続イメージが生成される周波数 (レート) の測定値です。この用語は、コンピュータ グラフィックス、ビデオ カメラ、フィルム カメラ、およびモーション ピクチャ システムに共通しています。多くの場合、フレーム レートは、1 秒当たりのフレーム数 (fps) または単にヘルツ (Hz) で表現されます。

次の一連のフィールドは、Real Encoder のフィルタをアクティブにして、ビデオとオーディオの品質を向上させます。これらのフィルタ設定は、ストリーミングするコンテンツのタイプや主観的選択によって異なります。これらの設定を試して、テスト キャプチャ結果を確認することをお勧めします。

Video Quality: Normal Motion Video
 Audio Content: Voice Only
 Video Noise Filter: Off
 De-Interlace filter
 Inverse Telecine

Cisco Digital Media Encoder 2200 の機能には、必要ときに自動的に適用される、インタレース解除フィルタと逆テレシネ フィルタが統合されています。これによって、エンコーダで最大限の効果が発揮されます。



(注)

フィルタを複数回適用すると望ましくない結果が生成されたり、システム リソースが余分に消費される可能性があるため、Real Encoder のインタレース解除フィルタと逆テレシネ フィルタは有効にしないことをお勧めします。

Advanced Streaming Settings
 Audience Selection Enable SureStream
 100% Quality Download (VBR) 5M Download (VBR)
 128k Dual ISDN 5M Multichannel (VBR)
 12k Substream for 28k Dial-up 5M Surround Stereo (VBR)
 150k LAN 64k Single ISDN
 16k Substream for 28k Dial-up 70% Quality Download (VBR)
 1M Download (VBR) 750k Download (VBR)
[Select all](#) [Unselect all](#)

Enable SureStream™ : SureStream を使用すれば、複数の視聴者に対する放送ストリームを符号化できます。ただし、選択したプライマリ ストリームまたはサブストリームごとに、符号化中のプロセッサの負荷が増大し、出力方向の帯域幅要件が増加します。たとえば、SureStream を有効にした場合は、[56k Dial-up] 視聴者と [128k Dual ISDN] 視聴者を選択できます。つまり、SureStream を有効にした場合は、2 倍の処理能力が要求される可能性があります。

SureStream を有効にしたかどうかに関係なく、システムに関する [Audience Selection] を少なくとも 1 つ選択する必要があります。

また、ストリーミングしながらファイルに出力するか、ファイルにのみ出力するかを選択する必要があります。ファイルの一意の名前を入力します。



(注)

現在のファイルと同じ名前を使用した場合は、現在のファイルが上書きされます。

■ エンコーダのプリセット (A、B、または C)



設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。

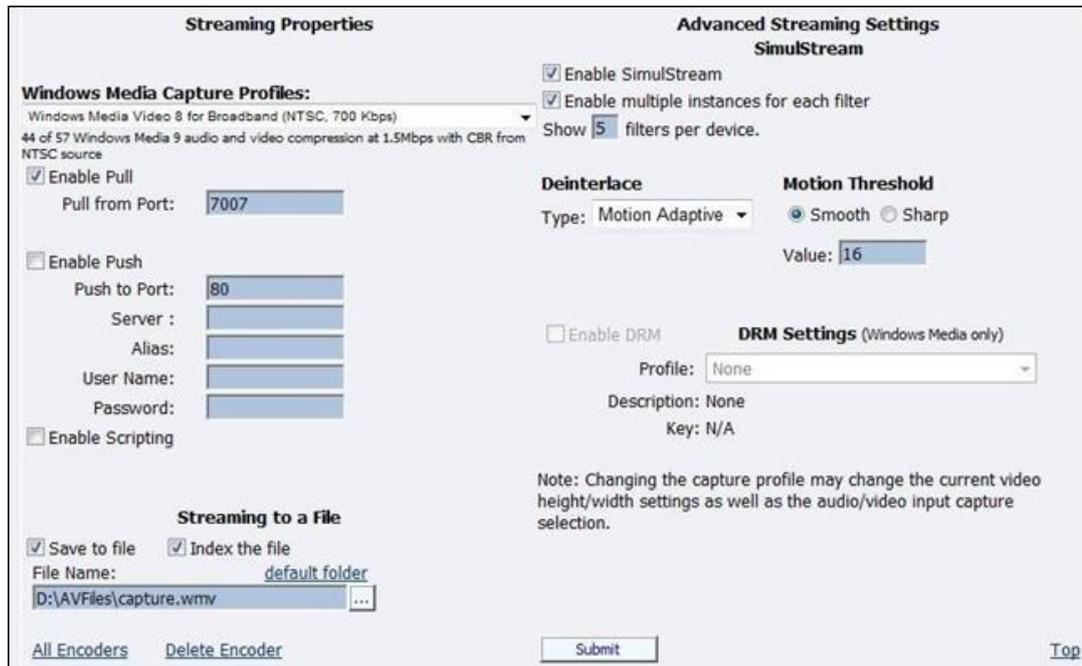


警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Windows Media Encoder 設定

Windows Media は、ストレージ形式とストリーミング形式を兼ね備えています。ファイルに出力できることに加えて、Windows Media Encoder では Windows Media Server にストリーミングすることができます。Windows Media Encoder の設定には、サーバに対する接続とストリーミングに関するパラメータの設定が含まれます。



最初に、ドロップダウンメニューで [Windows Media Capture Profile] を選択します。



(注)

一部の Windows Media Capture Profile には、事前定義のビデオ解像度と入力選択が含まれています。Windows Media Capture Profile を選択したら、現在のビデオとオーディオの設定が変更されていないことを確認してください。変更されていた場合は、それらの設定を元の設定に戻し、[Submit] ボタンをクリックします。

オーディオとビデオをストリーミングする場合は、次の 2 種類の配信方式があります。

- **Pull** : この方式では、符号化を開始するとすぐにエンコーダで放送パケットの生成が開始されます。ただし、Windows Media Server からストリームが要求されるまで放送ストリームが配信されません。この方式は、サーバとの安全な接続が提供されないため、エンコーダとサーバが同じネットワーク ファイアウォールの内側に存在する場合にのみ使用してください。
- **Push** : この方式では、エンコーダで Windows Media Server との安全な接続が維持されます。この接続によって、エンコーダからサーバへのアクセスを認証するためのユーザ名とパスワードを渡すことができます。

クライアントで Cisco Digital Media Encoder 2200 からのストリームをプルできるようにするには、セッションを設定してエンコーダから直接放送を開始します。クライアント (Windows Media Server または Player) は、いつでも、次の URL 形式を使用してストリームに接続できます。

- http://IP_address:port (インターネット接続の場合)
- http://encoding_computer_name:port (LAN 接続の場合)

デフォルトで、放送中に最大 50 の直接接続がエンコーダでサポートされます。



(注) エンコーダへの直接接続数が増えると、必要なシステム リソースが増えます。プレーヤーを直接 Cisco Digital Media Encoder 2200 に接続しないでください。ストリーミング サーバをエンコーダに接続してから、プレーヤーをそのサーバに接続する必要があります。

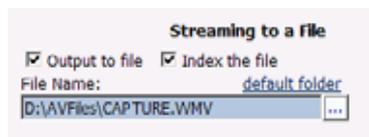
[Enable Pull] チェックボックスをオンにします。次に、エンコーダからストリームをプルするためにサーバで使用されるポート番号を入力します。



(注) 入力したポート番号が他のエンコーダに割り当てられていないことを確認してください。2 つのエンコーダが同じポート番号を使用しようとした場合は、片方または両方のエンコーダが起動に失敗します。

[Enable Push] を選択して、他のエンコーダに割り当てられていないポート番号を入力します。次に、サーバ名または IP アドレス、エイリアス (オプション)、ユーザ名、およびパスワードを入力します。

サーバにストリーミングしながらファイルにも出力するように指定することもできます。ただし、ファイルとストリーミングをアーカイブするようにサーバを設定することによって、エンコーダで符号化用のシステム リソースを節約できます。詳細については、Windows Media Server のマニュアルを参照してください。



[Index the file] をオンにした場合は、視聴者が Windows Media Player を使用して直接 Windows Media® ファイル内の任意のポイントにアクセスできます。索引付けは、Microsoft Windows Media Utilities を使用して Windows Media ファイルを編集するためにも必要です。

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

■ エンコーダのプリセット (A、B、または C)

次に、*Niagara SCX Web Interface* に [All Encoders] リストが表示されます。

		Name	Description	Last Status	Streaming Preset
Edit	Del	AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped
Edit	Del	Flash	Flash Encoder	OK	Stopped
Edit	Del	Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped
Edit	Del	Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped
Edit	Del	WME	Windows Media Encoder	Stopped	Stopped

エンコーダ プロファイルの削除

エンコーダからエンコーダ プロファイルを削除することもできます。エンコーダ プロファイルがアクティブであるかないかに関係なく、アクティブなメモリが使用されるため、使用しないエンコーダ プロファイルは削除することが重要です。



(注) カスタム プロファイルを一旦削除すると、復元できません。作り直す必要があります。



(注) デフォルトのエンコーダ プロファイルを削除した場合は、[Restore Encoder Factory Defaults] 機能を使用して復元できます。[Restore Encoder Factory Defaults] を実行すると、作成されたすべてのカスタムエンコーダ プロファイルが削除され、デフォルトのエンコーダ プロファイルのみがロードされます。

エンコーダ プロファイルを削除するには、*Niagara SCX Web Interface* で [All Encoders] リストにアクセスする必要があります。

		Name	Description	Last Status	Streaming Preset
Edit	Del	AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped
Edit	Del	Flash	Flash Encoder	OK	Stopped
Edit	Del	Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped
Edit	Del	Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped
Edit	Del	WME	Windows Media Encoder	Stopped	Stopped

削除するエンコーダの隣にある [Del] リンクをクリックすることによって、エンコーダを削除できます。

または、[Edit] リンクをクリックしてエンコーダ プロファイルを表示し、それが削除するエンコーダであることを確認します。

それが削除するエンコーダであることを確認したら、ページ下部の [Delete Encoder] リンクをクリックします。

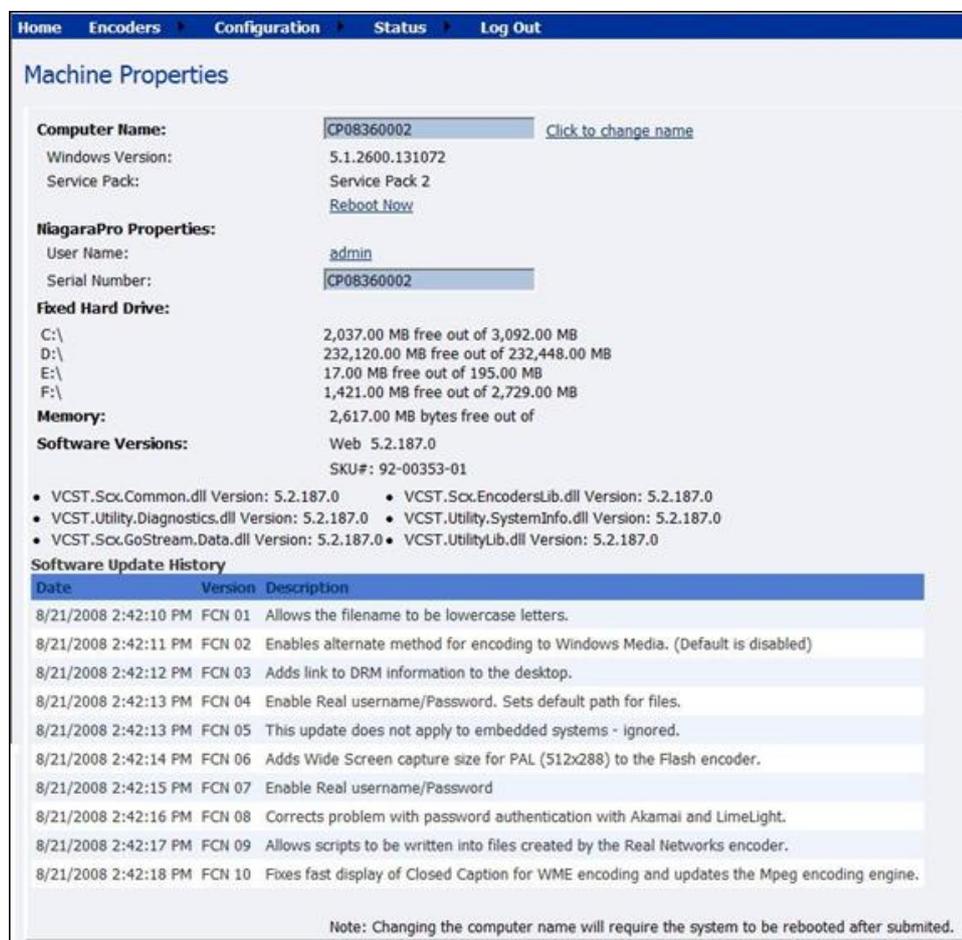
[All Encoders](#) [Delete Encoder](#)

My Cisco Digital Media Encoder 2200

Cisco Digital Media Encoder 2200 ページにリンクするには、Web ページ上部のメニューで [Configuration] にアクセスして、ドロップダウン リストで [My Niagara Pro II] をクリックします。

My Cisco Digital Media Encoder 2200 ページには、ソフトウェアのバージョン、ネットワーク名、シリアル番号、ハードドライブ設定に関する詳細が表示されます。このページ上のデータのほとんどは、情報提供を目的としており、変更できません。ただし、次の 2 つのフィールドは変更できます。

- [Computer Name]
- [Admin password]



Home Encoders Configuration Status Log Out

Machine Properties

Computer Name: CP08360002 [Click to change name](#)

Windows Version: 5.1.2600.131072
Service Pack: Service Pack 2
[Reboot Now](#)

NiagaraPro Properties:
User Name: admin
Serial Number: CP08360002

Fixed Hard Drive:

C:\	2,037.00 MB free out of 3,092.00 MB
D:\	232,120.00 MB free out of 232,448.00 MB
E:\	17.00 MB free out of 195.00 MB
F:\	1,421.00 MB free out of 2,729.00 MB

Memory: 2,617.00 MB bytes free out of

Software Versions: Web 5.2.187.0
SKU#: 92-00353-01

- VCST.Scx.Common.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Scx.EncodersLib.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Utility.Diagnostics.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Utility.SystemInfo.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Scx.GoStream.Data.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.UtilityLib.dll Version: 5.2.187.0

Software Update History

Date	Version	Description
8/21/2008 2:42:10 PM	FCN 01	Allows the filename to be lowercase letters.
8/21/2008 2:42:11 PM	FCN 02	Enables alternate method for encoding to Windows Media. (Default is disabled)
8/21/2008 2:42:12 PM	FCN 03	Adds link to DRM information to the desktop.
8/21/2008 2:42:13 PM	FCN 04	Enable Real username/Password. Sets default path for files.
8/21/2008 2:42:13 PM	FCN 05	This update does not apply to embedded systems - ignored.
8/21/2008 2:42:14 PM	FCN 06	Adds Wide Screen capture size for PAL (512x288) to the Flash encoder.
8/21/2008 2:42:15 PM	FCN 07	Enable Real username/Password
8/21/2008 2:42:16 PM	FCN 08	Corrects problem with password authentication with Akamai and LimeLight.
8/21/2008 2:42:17 PM	FCN 09	Allows scripts to be written into files created by the Real Networks encoder.
8/21/2008 2:42:18 PM	FCN 10	Fixes fast display of Closed Caption for WME encoding and updates the Mpeg encoding engine.

Note: Changing the computer name will require the system to be rebooted after submitted.

コンピュータ名

[Computer Name] フィールドには、現在のエンコーダのネットワーク名が表示されます。これは、**Niagara SCX Web Interface** にアクセスするために Web ブラウザに入力した名前と同じものです。このフィールドの隣の [Click to change name] リンクをクリックすることによって、[Computer Name] を変更できます。

Computer Name:	GP074802	Click to change name	189509
Windows Version:	5.1.2600.131072		
Service Pack:	Service Pack 2		
	Reboot Now		

画面が更新され、[Computer Name] フィールドが編集可能なテキスト フィールドに変わります。エンコーダの新しい名前を入力します。

次に、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックします。

ページが更新され、エンコーダをリブートするように要求されます。システムが再起動されるまで変更が適用されません。

[Reboot Now] リンクをクリックして、システムを再起動し、[Computer Name] の変更を適用します。エンコーダの再起動中に、次のメッセージが Web Interface に表示されます。

The Web service is currently not available. Please wait for the service to be restarted and returned to normal service.
This page will automatically refresh.

In Progress... **System Reboot**

Tuesday, December 04, 2007 4:55:08 PM

189511



(注) 再起動プロセスが完了するまでに約 2 分かかります。

エンコーダの再起動が完了すると、ログイン画面が表示されます。



(注) Web ブラウザを閉じてから再び **Niagara SCX Web Interface** にログインする場合は、指定した新しいコンピュータ名を使用してエンコーダにアクセスする必要があります。

Cisco Digital Media Encoder 2200 のプロパティ

エンコーダの**プロパティ** セクションには、[User Name] と [Serial Number] の 2 つのフィールドがあります。[User Name] フィールドのみが変更を許可されており、ユーザ パスワードを工場出荷時設定から変更できます。

- 「ログインパスワードの工場出荷時設定からの変更」(P.2-40)
- 「ログインパスワードの工場出荷時設定への復元」(P.2-41)

ログインパスワードの工場出荷時設定からの変更

[User Name] フィールドの [admin] リンクをクリックします。**Niagara SCX Web Interface** のログインパスワードを変更可能な新しい画面が表示されます。

NiagaraPro Properties:	
User Name:	admin
Serial Number:	CP08360002



(注) *Niagara SCX Web Interface* のユーザ名は変更できません。

[Password] フィールドに現在のパスワードを入力してから、[New Password] フィールドと [Confirm New Password] フィールドの両方に新しいパスワードを入力します。



(注) *Niagara SCX Web Interface* のパスワードは大文字と小文字が区別されます。

次に、[Change Password] ボタンをクリックします。次のような結果が表示されます。



(注) 新しいパスワードを使用して Web Interface にログインし直す必要があります。

ログインパスワードの工場出荷時設定への復元

パスワードを忘れて、なくした場合は、[Restore Factory Defaults] オプションを実行することによって、デフォルトパスワードに復元できます。詳細については、「工場出荷時設定の復元」(P.2-45) を参照してください。

Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート

[Alerts] ページは、Web ページ上部の [Configuration] リンクに移動して [Alerts] リンクをクリックすることによって表示できます。

ストリーミングやその他の処理中に発生する可能性のあるアプリケーション アラートをエンコーダでどのように処理するかを制御できるページを次に示します。Cisco Digital Media Encoder 2200 では、オプションで、アラームが発生した場合に複数の受信者に電子メールを送信できます。アラームが発生すると、エンコーダの前面パネルのアラーム ライトが自動的に点灯します。

Alerts
This page allows you to control how NiagaraPro handles application alerts that may occur during streaming or normal operations. NiagaraPro can optionally send a single email or close a hardware contact on the dual dock for each condition selected below.
Warning!!! Email Configuration is incomplete. Click to see the NiagaraPro [Email address](#).

NiagaraPro Alerts | records : 9

	Send Email	Light Alarm	Close Contact	Displayed Text	Description
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Exception	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Error	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Undefined	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Started	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Stopped	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SCX Service Stopped	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SCX Service Started	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Warning	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	High Temperature!	

電子メール アラート

オプションで、アプリケーション アラームの発生時に特定の電子メール アドレスに電子メール アラートを送信できます。[Send Email] をオンにすると、この機能が有効になります。アラートを送信する電子メール アドレスと、電子メール サーバのユーザ名、パスワード、およびサーバ名を指定する必要があります。電子メール アラートを送信するための Cisco Digital Media Encoder 2200 の設定方法については、「システム構成設定」(P.2-44) を参照してください。

アラーム ライト

[Light Alarm] チェックボックスをオンにすると、アラートが発生した場合に前面パネルのアラーム ライトを点灯するようにエンコーダに指示されます。

アラート設定の編集

一覧表示されたアラートごとの設定を編集するには、変更するアラートの行に表示された [Edit] リンクをクリックします。この時点で、アラームを更新またはキャンセルするための選択肢が表示されることに注意してください。

更新することにした場合は、アラート設定の変更が完了した段階で、[Update] リンクをクリックして、設定を確定し、[Alerts] リストに戻ります。

ネットワーク プロパティ

[Network Properties] ページは、Web ページ上部の [Configuration] リンクに移動して [Network Properties] をクリックすることによって表示できます。

[Network Properties] ページには、現在のエンコーダのネットワーク インターフェイス カード (NIC) に関する設定の詳細が表示されます。

(TCP/IP) Network Properties

Network Card(s) Primary NIC
Description: Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet

Obtain an IP address automatically
 Use the following IP information

IP Address: 172.16.1.181
Subnet Mask: 255.255.255.0
Default Gateway: 172.16.1.251
Preferred DNS Server: 172.16.1.3
Alternate DNS Server: 172.16.2.3

Advanced Settings on CP08360002
MAC Address: 00:E0:81:4C:38:FA
Primary WINS Server: 172.16.1.4
Secondary WINS Server: 0.0.0.0
Active Network Link:

Submit Reset

ネットワーク カード

Cisco Digital Media Encoder 2200 には、1 ギガビット ネットワーク 接続が 2 系統あります。各カードの現在のプロパティを表示するには、[Network Card(s)] フィールドのドロップダウン メニューで表示するカードを選択します。

高度な設定 (ネットワーク)

[Advanced Settings] では、エンコーダのネットワーク名、MAC アドレス、およびサーバ IP アドレスの設定ができます。

Advanced Settings on GP072105
MAC Address: 00:60:E0:04:D8:46
Primary WINS Server: 172.16.1.5
Secondary WINS Server: 172.16.1.12
Active Network Link:

Submit Reset

エンコーダのネットワーク名がリンクになっています。このリンクをクリックすると、**My Cisco Digital Media Encoder 2200** ページに移動します。このページで、エンコーダのネットワーク名を変更できます。詳細については、「[コンピュータ名](#)」(P.2-40) を参照してください。

[Active Network Link] フィールドには、選択されたネットワーク インターフェイス カードがネットワークに接続されているかどうかを示すアイコンが表示されます。

表 2-2 ネットワーク リンク アイコンと説明

アイコン	説明
	ネットワーク リンクが検出されている。
	ネットワーク リンクが検出されていない。

システム構成設定

[System Configuration] ページは、Web ページ上部の [Configuration] リンクに移動して [System Configuration] をクリックすることによって表示できます。

[System Configuration Settings] ページでは、エンコーダのデフォルトのシステム設定を変更できます。Cisco Digital Media Encoder 2200 でアラート状態が発生したときに事前定義の電子メール アドレスに電子メールが送信できるように、電子メール設定を構成できます。システムのアイドル中にエンコーダの前面パネルに表示する情報をカスタマイズすることもできます。

このページでは、エンコーダを元の工場ディスク イメージに復元して、すべてのシステム設定を元の状態に戻すこともできます。[Restore Factory Defaults] オプションを使用すると、すべてのカスタム設定が削除されます。その完了には約 10 分かかります。

This page allows you to modify your NiagaraPro default system settings.

Enter a valid email settings to have NiagaraPro send emails for [alert conditions](#). Optionally select the information to show on the NiagaraPro display when NiagaraPro is idle. You can customize the idle screen text or use the default settings. [Restore NiagaraPro Factory Defaults](#)

System Configuration Settings

Email Settings:

Send Emails To:

Email From:

Subject:

SMTP (Mail) Settings:

User Name:

Password:

SMTP Host: [Save and Send Test Email](#)

Idle Screen Information:

Cycle this information in the display when NiagaraPro is idle.

Active IP Computer Name CPU
 Memory Hard Drive Temperature

Idle screen text:
Note: Each line in the display is 20 characters.

Line 1
 Line 2
 Line 3
 Line 4

*Default AV Folder:

High Temperature Alert: degrees Celsius. ([view Alert Configuration](#))

工場出荷時設定の復元

[Restore Factory Defaults] リンクをクリックしてプロセスを開始します。

This page allows you to modify your NiagaraPro default system settings.

Enter a valid email settings to have NiagaraPro send emails for [alert conditions](#). Optionally select the information to show on the NiagaraPro display when NiagaraPro is idle. You can customize the idle screen text or use the default settings. [Restore NiagaraPro Factory Defaults](#)

System Configuration Settings

次の画面に、実行しようとしているプロセスの詳細が表示されます。この時点でプロセスをキャンセルすることができます。

Restore Factory Defaults

Restore to factory Defaults allows the rebuilding of the NiagaraPro primary disk drive (C:) to be set to the original system defaults. This reconfigures the system and all files on the primary disk will be removed and the factory image reinstalled.

This option should only be selected if you are experiencing significant difficulties with your system or you wish to return to the factory defaults. Selecting this process will stop all running programs and take approximately 10 minutes to complete.

Do not power off or interrupt the system restore once started. A message on the NiagaraPro LCD display will be left on the screen while the restoring executes and removed when finished. All services will automatically restart and allow you to set your personal settings with the menu or with this Web site when completed.

Continue with restoring the entire system back to Factory Defaults ?

Yes [Restore my system](#) back to the factory defaults or No, take me back to the [Home Page](#)

189526



(注)

[Restore Factory Defaults] では、エンコーダのプライマリ ディスク ドライブ (C:) が元のシステム イメージで再構築されます。ドライブ C: に保存されたすべてのカスタム設定とファイルが消去されます。このプロセスは元に戻すことができません。ただし、エンコーダの復元プロセスが完了したら、手動でカスタム設定を再入力できます。



(注)

オーディオ ファイルとビデオ ファイルを保存するためのデフォルト ディレクトリは、D:\AV Files です。[Restore Factory Defaults] オプションを使用した場合は、ドライブ C: のみが再イメージ化されます。ドライブ D: 上のすべてのファイルとフォルダは保存されます。個人ファイルが削除されないようにするには、必ず、個人ファイルの保存にデフォルト ディレクトリのドライブ D を使用してください。

電子メール設定

電子メールを送信するための SMTP 電子メール アカウントの設定方法がわからない場合は、ネットワーク管理者に支援を要請してください。

エンコーダの [Email Settings] を設定するために、次の情報を入力します。

- 電子メールを送信するアドレス (複数の電子メール アドレスはカンマで区切る)
- 電子メールを受け取る有効な電子メール アドレス
- 電子メール アラートの件名行 (必須)
- SMTP (メール サーバ) 設定
 - サーバ アクセス用のユーザ名
 - パスワード (必要な場合)
 - SMTP サーバの名前

Email Settings:	
Send Emails To:	<input type="text"/>
Email From:	<input type="text"/>
Subject:	System Status Report on CP08360002
SMTP (Mail) Settings:	
User Name:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
SMTP Host:	<input type="text"/> Save and Send Test Email



(注) セキュリティ上の理由で、設定で指定したアカウント用のパスワードは表示されません。ただし、[Submit] ボタンのクリック後にこのフィールドが空白になりますが、パスワード情報は保存されています。



(注) このダイアログボックスで情報を変更した場合は、[Submit] ボタンをクリックする前に SMTP パスワードを再入力する必要があります。そうしなかった場合は、以前入力したパスワードが空白のエントリで上書きされます。

上述した情報の入力が完了したら、[Submit] ボタンをクリックして変更を保存します。

[Save and Send Test Email] リンクをクリックして、設定をテストできます。結果のページに、電子メール送信の成否が報告されます。

アイドル画面情報

このセクションでは、エンコーダの前面パネルの LCD ディスプレイに表示される情報を変更できます。

表示する情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。LCD にステータス情報とエンコーダ情報が交互に表示されるときにこの情報が表示されます。

LCD アイドル画面の上部にデフォルト メッセージの「System is Ready」が表示されます。このメッセージはカスタマイズできます。

Idle Screen Information:			
Cycle this information in the display when NiagaraPro is idle.	<input type="checkbox"/> Active IP	<input checked="" type="checkbox"/> Computer Name	<input checked="" type="checkbox"/> CPU
	<input checked="" type="checkbox"/> Memory	<input checked="" type="checkbox"/> Hard Drive	<input checked="" type="checkbox"/> Temperature
Idle screen text:	System is Ready		
Note: Each line in the display is 20 characters.	Line 1	Line 2	Line 3
	Line 4		

上述した情報の入力が完了したら、[Submit] ボタンをクリックして変更を保存します。

デフォルト ディレクトリ設定



(注) ドライブ D に存在しないディレクトリへのファイルの保存に関するリスクを認識していない場合は、デフォルト ディレクトリ設定を変更しないでください。エンコーダ上の別のドライブにファイルを保存して [Restore Factory Defaults] 機能を使用した場合は、そのファイルが削除される可能性があります。



(注) ファイルを保存できるストレージがあるのはドライブ D だけです。



(注) ドライブ C、E、および F は、エンコーダの処理プログラムでのみ使用されます。これらのドライブを変更した場合は、システムが回復不能な損傷を受け、保証が無効になる可能性があります。

デフォルトの AV フォルダは、エンコーダ プロファイルで [Save to File] オプションが選択されるたびに作成される AV ファイルが保存されるディレクトリです。AV ファイルを作成するためのエンコーダ プロファイルの設定方法については、「[AVI エンコーダ プロパティ](#)」、「[Flash エンコーダ プロパティ](#)」、「[MPEG-4 エンコーダ プロパティ](#)」、「[Real エンコーダ プロパティ \(Helix\)](#)」、および「[Windows Media エンコーダ プロパティ](#)」にある [Save to File] オプションを参照してください。

高温アラート

アラート設定は [Alerts] ページにリンクされています。アラートの設定方法については、「[Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート](#)」(P.2-41) を参照してください。

エンコーダが事前定義の最高温度レベルに達したときにアラートを有効にできます。このレベルを設定するには、[High Temperature Alert] ドロップダウンメニューで選択します。



CHAPTER 3

EASE メニューと Niagara SCX Web Interface の使用

この章は、次の項で構成されています。

- 「EASE メニュー (LCD ディスプレイ)」 (P.3-1)
- 「Niagara SCX Web Interface」 (P.3-16)

EASE メニュー (LCD ディスプレイ)

ここでは、LCD メニュー ツリーについて詳しく説明します。本書は、エンコーダ前面パネルの LCD ディスプレイから使用できるすべてのレベルおよび機能の完全なリファレンスです。

また、次の画面に移動する前面パネルのボタン アクションを含む、LCD 画面のビジュアル リファレンスとしてもご利用いただけます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「エンコード メニュー」 (P.3-2)
- 「ヘルス メニューへのアクセス」 (P.3-3)
- 「システム メニューのセットアップ」 (P.3-5)
- 「USB ドライブへのエクスポート」 (P.3-16)
- 「Cisco Digital Media Encoder 2200 のシャットダウン」 (P.3-16)



(注)

次のアイコンを使用してさまざまなボタン アクションを説明します。

アイコン	説明
	電源オン
	メニューにアクセス/前画面に戻る

EASE メニュー (LCD ディスプレイ)

アイコン	説明
	エンター/コマンドの実行
	ポインタを上/下に移動
	エンコーダの起動
	エンコーダの停止
	エンコーダのロード

エンコードメニュー

ここでは、次の内容について説明します。

- 「エンコードの起動」 (P.3-2)
- 「エンコードの停止」 (P.3-3)
- 「エンコードステータス」 (P.3-3)

エンコードの起動

エンコードの停止

<pre> →Encode Access Health Setup System Export Files </pre>		<pre> →AUI Stopped Flash Stopped Mpeg Started Real Stopped </pre>	
<pre> AUI Stopped Flash Stopped →Mpeg Started Real Stopped </pre>		<pre> Mpeg Stopping </pre>	<pre> AUI Stopped Flash Stopped →Mpeg Started Real Stopped </pre>

エンコードステータス

<pre> →Encode Access Health Setup System Export Files </pre>		<pre> →AUI Stopped Flash Stopped Mpeg Stopped Real Stopped </pre>	
<pre> AUI Stopped Flash Stopped →Mpeg Stopped Real Stopped </pre>		<pre> Mpeg Controls a H264MPG C Preset: Not Assigned State: Stopped </pre>	—

ヘルス メニューへのアクセス

ここでは、次の内容について説明します。

- 「CPU ステータス」 (P.3-3)
- 「メモリ残量」 (P.3-4)
- 「温度ステータス」 (P.3-4)

CPU ステータス

<pre> Encode →Access Health Setup System Export Files </pre>		<pre> →CPU Memory Temperature </pre>	
<pre> CPU in use 48% PRESS ENTER </pre>		<pre> →Encode Access Health Setup System Export Files </pre>	—

EASEメニュー (LCDディスプレイ)

メモリ残量

Encode →Access Health Setup System Export Files		→CPU Memory Temperature	
CPU →Memory Temperature		Available Memory Harddrive: 97.09% RAM: 2692.00 Press Enter	
CPU →Memory Temperature		→Encode Access Health Setup System Export Files	

温度ステータス

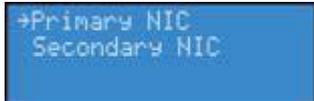
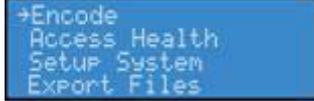
→Encode Access Health Setup System Export Files		→CPU Memory Temperature	 (X 2)
CPU Memory →Temperature		Current Temperature 39.75 C PRESS ENTER	
→CPU Memory Temperature		→Encode Access Health Setup System Export Files	

システム メニューのセットアップ

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ネットワーク リンク ステータス」 (P.3-5)
- 「ネットワーク MAC アドレス」 (P.3-6)
- 「ネットワーク設定の表示」 (P.3-7)
- 「DHCP の有効化」 (P.3-8)
- 「固定 IP アドレスの設定」 (P.3-9)
- 「ゲートウェイ アドレスの設定」 (P.3-11)
- 「日時の設定」 (P.3-12)
- 「温度アラームの設定」 (P.3-13)
- 「工場出荷時設定に戻す」 (P.3-14)

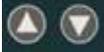
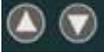
ネットワーク リンク ステータス

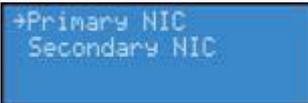
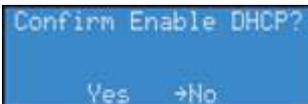
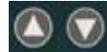
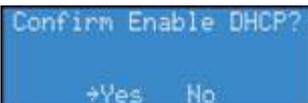
ネットワーク MAC アドレス

<p>Encode Access Health →Setup System Export Files</p>		<p>→Network Time & Date Temperature Alarm Factory Restore</p>	
<p>→Primary NIC Secondary NIC</p>		<p>Link Status →MAC Address View Settings Change Settings</p>	
<p>MAC Address 00:00:00:00:00:00 PRESS ENTER</p>		<p>Link Status →MAC Address View Settings Change Settings</p>	
<p>→Encode Access Health Setup System Export Files</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>

ネットワーク設定の表示

Encode Access Health →Setup System Export Files		→Network Time & Date Temperature Alarm Factory Restore	
→Primary NIC Secondary NIC		Link Status MAC Address →View Settings Change Settings	
→DHCP On/Off IP Address(s) Subnet Gateway		DHCP Enabled: True PRESS ENTER	
→DHCP On/Off IP Address(s) Subnet Gateway		DHCP On/Off →IP Address(s) Subnet Gateway	
IP Address: 000.000.000.000 Press Enter		→DHCP On/Off IP Address(s) Subnet Gateway	
DHCP On/Off IP Address(s) →Subnet Gateway		Subnet Address: 000.000.000.000 PRESS ENTER	
→DHCP On/Off IP Address(s) Subnet Gateway		DHCP On/Off IP Address(s) Subnet →Gateway	
Gateway Address: 000.000.000.000 Press Enter		DHCP On/Off IP Address(s) Subnet →Gateway	
→Encode Access Health Setup System Export Files			

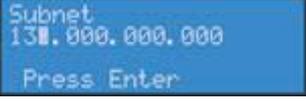
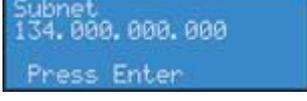
DHCP の有効化

			
			
			
			
	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>

固定 IP アドレスの設定

Encode Access Health →Setup System Export Files		→Network Time & Date Temperature Alarm Factory Restore	
→Primary NIC Secondary NIC		Link Status MAC Address View Settings →Change Settings	
→Turn DHCP On IP Address Gateway		Turn DHCP On →IP Address Gateway	
IP Address: 00.000.000.000 Press Enter		IP Address: 100.000.000.000 Press Enter	
IP Address: 100.000.000.000 Press Enter	 (X 3)	IP Address: 130.000.000.000 Press Enter	
IP Address: 130.000.000.000 Press Enter	 (X 4)	IP Address: 134.000.000.000 Press Enter	
IP Address: 134.000.000.000 Press Enter	 (X 6)	IP Address: 134.000.000.000 Press Enter	 (X 5)
IP Address: 134.000.000.500 Press Enter		Subnet 00.000.000.000 Press Enter	

EASEメニュー (LCDディスプレイ)

			 (X 3)
			 (X 4)
			
			—

ゲートウェイ アドレスの設定

	 (X 2)		
	 (X 1)		
 (X 9)			 (X 2)
		 (X 1)	
	 (X 6)		
 (X 8)			

EASEメニュー (LCD ディスプレイ)

	 (X 1)		
 (X 1)			
		—	—

日時の設定

	 (X 5)		
	 (X 15)		
	 (X 2)		

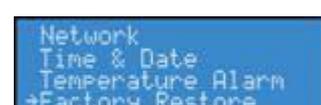
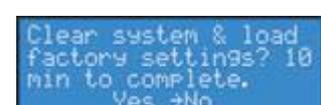
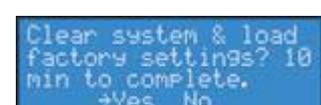
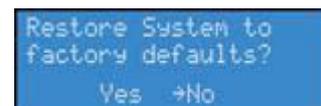
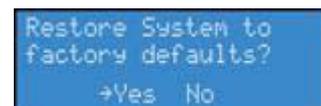
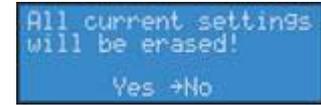
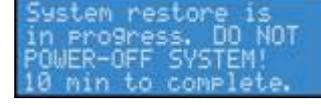
	 (X 16)		
	 (X 25)		

温度アラームの設定

		 (X 3)	
		 (X 2)	
		 (X 2)	

EASEメニュー (LCDディスプレイ)

工場出荷時設定に戻す

		 (X 3)	
		 (X 3)	
			
			
			
		—	—

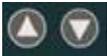
<10 分遅延>

<p>188228</p>			<p>(X 5)</p>
			<p>(X 15)</p>
			<p>(X 2)</p>
			<p>(X 16)</p>
<p>188233</p>			<p>(X 25)</p>
		<p>188234</p>	
<p>188235</p>			

USB ドライブへのエクスポート

<pre>Encode Access Health Setup System →Export Files</pre>		<pre>→To USB Drive</pre>	
<pre>Select Destination</pre>	<pre>→G:drivename1 I:drivename2</pre>		<pre>Select source file</pre>
<pre>→CLOCK, AVI</pre>		<pre>Please wait Exporting... Do NOT remove device</pre>	<pre>Success Exporting</pre>

Cisco Digital Media Encoder 2200 のシャットダウン

<pre>→Encode Access Health Setup System Export Files</pre>	 (X 4)	<pre>Access Health Setup System Export Files →Shutdown System</pre>	
<pre>Shutdown System? Yes →No</pre>		<pre>Shutdown System? →Yes No</pre>	
<pre>ViewCast Corporation Name: CP08360002 Serial: CP08360002 Shutdown Complete</pre>			

Niagara SCX Web Interface

Cisco Digital Media Encoder 2200 には、*Niagara SCX Web Interface* が搭載されており、システムの詳細な設定にアクセスすることができます。Web Interface では、エンコーダにインストールされたエンコーダ プロファイルを詳細に設定および制御できます。ここでは、*Niagara SCX Web Interface* の設定とページについて詳細に説明します。

- 「ログイン」 (P.3-17)
- 「Home ページ」 (P.3-18)

- 「All Encoders」 (P.3-19)
- 「My Cisco Digital Media Encoder 2200」 (P.3-47)
- 「Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート」 (P.3-51)
- 「ネットワーク プロパティ」 (P.3-52)
- 「システム構成設定」 (P.3-54)
- 「アクティビティ ログの表示」 (P.3-58)
- 「View Alerts」 (P.3-59)
- 「Niagara SCX Web Interface のヘルプまたは [i] ボタンとアラート設定」 (P.3-59)

ログイン

Niagara SCX Web Interface はソフトウェアが不要で、最新の Web ブラウザと最新の Windows OS、Macintosh OS、および Linux OS を搭載したマシンであればすべて利用できます。エンコーダ システムは、コンピュータとの共有 IP ネットワークに常駐しているか、あるいはイーサネット ケーブル (RJ-45) を使用して Windows コンピュータと直接接続してください。

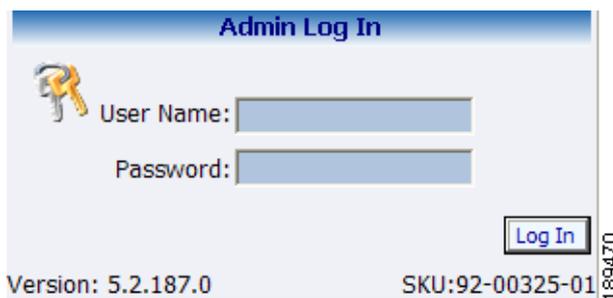
コンピュータで Web ブラウザを開き、エンコーダのネットワーク名を入力して Web Interface にアクセスします。エンコーダのネットワーク名にはシリアル番号を使用します。シリアル番号は、起動時に表示される LCD リードアウトで確認できます。

また、エンコーダの右側にも記載されています。

次の図で示す通り Web ブラウザにエンコーダ名を入力し、Enter キーを押します。



ログイン画面でユーザ名とパスワードの入力が要求されます。デフォルトでは、ユーザ名とパスワードはいずれも admin です。



(注)

マシン名でエンコーダを参照できない場合は、代わりに、エンコーダの IP アドレスを入力します。エンコーダの IP アドレスは、エンコーダ前面パネルの LCD メニューにアクセスして確認できます。

Home ページ

Home ページは *Niagara SCX Web Interface* にログインすると最初に表示されるページです。このページからエンコーダのアクティビティとアラートを設定、制御、モニタリングできるさまざまなページにアクセスできます。



メニュー バー

Home ページの上部にあるメニュー バーは、常に同じで Web サイトのどこからでも利用できます。

Home ページの上部の [Home] と [Log Out] メニュー オプションを除き、オプションのメニュー バーには、ドロップダウン メニューがあります。ドロップダウン メニューは、[Encoders]、[Configuration]、および [Status] メニューで表示されます。ドロップダウン メニューではそれぞれ、利用できる詳細なオプションが提供されます。

Home

[Home] タイトルはアクティブなリンクです。このリンクをクリックすると、Web サイトの Home ページに移動します。

Encoders

[Encoders] ドロップダウン メニュー からは次の情報を提供するページにアクセスできます。

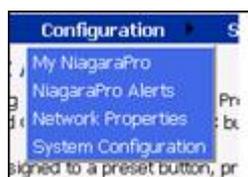
- [All Encoders] : エンコーダにロードされたすべてのエンコーディング プロファイルを一覧表示して、プロファイルを管理する
- [Preset A] : ロードされたエンコーディング プロファイルをエンコーダの前面パネルにある A ボタンに割り当てる
- [Preset B] : ロードされたエンコーディング プロファイルをエンコーダの前面パネルにある B ボタンに割り当てる
- [Preset C] : ロードされたエンコーディング プロファイルをエンコーダの前面パネルにある C ボタンに割り当てる

Configuration

[Configuration] ドロップダウン メニューからは次にアクセスできます。

- [My Encoder] : ネットワーク名、シリアル番号、およびインストールされているすべてのソフトウェア バージョンなど、エンコーダのマシン プロパティに関する詳細を提供

- [Encoder Alerts] : 通常の動作時にエンコーダが生成できるアプリケーション アラートの設定を個別に変更
- [Network Properties] : エンコーダ ネットワーク プロパティに関する情報および NIC ポート両方のアドレスを提供し、これらのプロパティを変更
- [System Configuration] : 動作エラーが検出されるとエンコーダから送信される E メール アラートの設定を含むシステム設定を変更



Status

[Status] ドロップダウン メニューからは次にアクセスできます。

- [View Activity Log] : イベントそれぞれの日付、タイムスタンプが含まれるエンコーダ アクティビティすべてのリスト
- [View Alert] : アラートそれぞれの日付、タイムスタンプが含まれるエンコーダ アラートすべてのリスト



Log Out

[Log Out] オプションでは、エンコーダからログアウトして、Web サイトの Log In 画面に戻ります。

All Encoders

All Encoders Web ページでは、エンコーダにロードされたエンコーダ プロファイルすべてがリスト表示されます。ここでは、次の操作が可能です。

- ロード済みおよび利用可能なエンコーダ プロファイルすべての表示
- エンコーダを個別に起動および停止
- エンコーダの [Editing] ページにアクセス

- エンコーダ プロファイルの削除
- エンコーダ プロファイルの作成

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.

Auto refresh page [Add Encoder](#)

NiagaraPro Encoders | Total records : 5

	Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del	AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del	Flash	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del	Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del	Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del	WME	Windows Media Encoder	OK	Stopped	

[Encoders] リストには次の 5 つ列があります。

- [Name] : エンコーダ プロファイル名を表示 (エンコーダの前面パネル LCD ディスプレイに表示)
- [Description] : エンコーダのタイプを定義 (AVI、Flash、Helix Producer、Windows Media)
- [Last Status] : ページの情報が前回リフレッシュされた時のエンコーダのアクティビティを表示 (エンコーダの起動やエンコーダの起動に失敗したなど)
- [Streaming] : エンコーダを起動または停止できるボタンの列を提供
- [Preset] : エンコーダそれぞれに割り当てられた **EZStream** ボタンに関する情報を提供 (このフィールドが空白の場合は、**EZStream** ボタンにエンコーダが割り当てられていません)

ページ上部にある [Auto Refresh Page] チェックボックスをオンにすると、このページは 10 秒ごとにリフレッシュされます。この機能は、他のユーザが操作中にエンコーダをモニタリングする場合に役立ちます。

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.
Last Updated **9:25:15 PM**

Auto refresh page

189398

エンコーダの起動

起動するエンコーダの右側の列に表示された赤色の [Stream] アイコンを押します。



Web ページには、エンコーダの起動進行状況を通知するメッセージが自動的に更新されます。



エンコーダが正常に起動されると、Web ページが [All Encoders] ページに戻って、[Started] モードを反映するようにエンコーダのステータスが更新されます。

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.

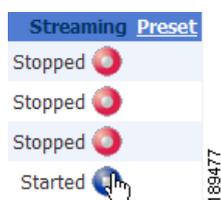
Auto refresh page [Add Encoder](#)

NiagaraPro Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del WME	Windows Media Encoder	Encoder started	Started	

エンコーダの停止

停止するエンコーダの右の列にある青いアイコンをクリックします。



Web ページには、エンコーダの停止進行状況を通知するメッセージが自動的に更新されます。



エンコーダが正常に停止されると、Web ページは [All Encoders] ページに戻ります。ページはエンコーダのステータスが更新され Stopped モードが反映されています。

エンコーダの編集

エンコーダを編集するには、1 列目の [Edit] リンクをクリックします。

Encoders
This page allows you to perform encoder setup and removal.

Auto refresh page Add Enco

NiagaraPro Encoders | Total records : 5

Name	Description	Last Status	Streaming Pre
Edit Del AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped
Edit Del Flash	Flash Encoder	OK	Stopped
Edit Del Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped
Edit Del Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped
Edit Del WME	Windows Media Encoder	Stopped	Stopped

選択したエンコーダのプロパティ ページが表示されます。

ビデオとオーディオの設定

エンコーダ タイプそれぞれのプロパティ ページでは、AVI と MPEG-4 に追加されているカラー領域設定を除きビデオおよびオーディオ設定はすべて同じです。



ビデオおよびオーディオを有効化または無効化するには、[Source :] の横のチェックボックスをクリックします。[Source] が有効化されると、[Source]、[Input]、[Signal]、[Proportions]、[Size]、[Format]、および [Input] フィールドが編集可能になります。

[Source] : このフィールドにはエンコーダで利用可能なデバイスのドロップダウン リストが表示されます。Cisco Digital Media Encoder 2200 は 2 チャンネルエンコーダですので、物理的な 2 組のオーディオ入力とビデオ入力はいつでも同時に利用できます。ただし、複数同時にキャプチャできるストリーミング形式および解像度は、1 組のビデオ入力からのみです。ビデオ ソースは 10 進数の複数入力として識別されます。次のように表示されます。

- Osprey 5x0 Video Device 1.1
- Osprey 5x0 Video Device 1.2
- Osprey 5x0 Video Device 1.3
- Osprey 5x0 Video Device 1.4

エンコーダ背面のビデオとオーディオの入力が、接続するビデオとオーディオ ソースと一致するようにビデオとオーディオの [Input] を設定します。ビデオ入力は、[Composite]、[S-Video] または [SDI] を、オーディオ入力は [Unbalanced]、[XLR Balanced]、[XLR AES/EBU] または [SDI] を選択できます。

初期設定時にビデオ信号を NTSC または PAL のいずれかに設定しました。[Signal] フィールドで、地域別の NTSC、PAL、および SECAM の設定を細分化できます。該当する設定が不明な場合は、エンコーダを接続したビデオ ソースのオーナーズ マニュアルを参照してください。

画面サイズの設定では、VGA モニタ向けに正方面素を使用する [Standard] と、テレビ モニタ向けに長方面素を使用する [CCIR-601] があります。コンテンツが表示されるディスプレイのタイプを反映した設定を選択してください。たとえば、コンピュータ モニタに表示されるビデオをインターネット経由でストリーミングする場合は、[Standard] を選択します。不適切な設定を選択するとストリーミングビデオの画面が乱れます。

[Size] フィールドは、符号化されたビデオの画素サイズを意味します。標準サイズは次のとおりです。

- フルスクリーン ビデオの場合は、[Full]
- フルサイズから ¼ に縮小するビデオの場合は、[CIF]
- フルサイズから CIF サイズの ¼ に縮小するビデオの場合は、[QCIF]

ビデオのカスタム サイズを指定することもできます。これは、互換性を維持するために非標準サイズが必要なモバイル ビデオ デバイス上で再生されるビデオの取り込み時に役に立ちます。

ドロップダウンメニューで [Custom] を選択した場合は、2 つの追加フィールドが表示され、生成されるビデオの正確なサイズを入力できます。

Size:	CUSTOM	▼	189492
Width:	160	Height:	



(注)

ソースビデオの色空間と互換性のないビデオサイズを指定した場合は、[Submit] ボタンをクリックしたときに、自動的に最も互換性のある設定に近いサイズに修正されます。カラー領域の形式設定は AVI と Flash エンコーダ プロパティのみで利用でき、[Size] 設定が追加されます (次を参照)。

Video Settings	
<input checked="" type="checkbox"/> Source:	Osprey-5X0 Video Device 1.1 ▼
Input:	Composite ▼
Signal:	NTSC_M ▼
Porportion:	Standard ▼
Size:	FULL 640x480 ▼
Format:	YUY2 ▼

これで、すべてのビデオ設定とオーディオ設定が終了しました。ページ下部のエンコーダタイプ設定に進むことができます。前述したように、これらの設定はエンコーダタイプによって異なります。

高度なストリーミング設定

SimulStream と DirectShow フィルタ

SimulStream のフィルタには、次の 2 つの相互に関連する目的があります。

- フィルタを使用すれば、アプリケーションでビデオのキャプチャを列挙したり、(それぞれの設定が異なる) ピンやストリームをビデオデバイス選択リストの名前付きエントリとしてプレビューすることができます。デバイスごとのフィルタを表示するようにビデオデバイスドライバを設定できます。フィルタごとに、プレビューピンとキャプチャピンが 1 つずつあります。Osprey デバイスに特化したカスタムプログラムを作成しなくても、標準のアプリケーションで特定のフィルタにアクセスできます。
- フィルタごとに、トリミング、デフォルトの出力サイズ、ウォーターマーク、およびセッション間で保存可能なキャプションを設定できます。前述の「ピンベース」の方法と比較して、インストール中の設定順序の制限がありません。

次の [Enable SimulStream] チェックボックスを参照してください。

上部の [Enable SimulStream] の隣にあるチェックボックスをオンにすると、現在選択されているエンコーダに対して SimulStream を実行できます。

エンコーダには、AV チャンネルごとに SimulStream のフル ライセンスがインストールされており、このチェックボックスによってフル SimulStreaming が制御されます。



(注) [Enable SimulStream] ステータスを変更して [Submit] をクリックした場合は、機器を再起動する必要があります。再起動しなかった場合は、SimulStream が正常にアクティブにならず、キャプチャ デバイスに不正な名前が付けられたり、ピンが不正確になる可能性があります。

デバイス単位のフィルタ数の表示

このコントロールでは、エンコーダで番号の割り当ておよび選択できるようにデバイスごとに 1～10 のフィルタを展開できるように設定できます。たとえば、デバイスあたり 4 つのフィルタを選択すると、アプリケーションのデバイス リストでは、現在選択されているデバイスに対して 4 つのエントリが表示されます。デバイス 1 の場合、フィルタは 1.1、1.2、1.3、および 1.4 として指定されます。



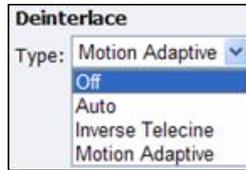
(注) 要求したフィルタ数は、システムを再起動するまで正しく表示または機能しません。



(注) フィルタはデバイスあたり、10 個まで展開および番号を割り当てることができますが、動作するフィルタの実用的な数はそれ以下です。最適なフィルタ数はアプライアンスの機能、有効化されたフィルタのタイプ、エンコーダごとに要求される縮尺とカラー形式変換のタイプ、および実行する処理のタイプに応じて異なります。機器に複数のキャプチャ チャンネルがある場合のフィルタ数は、すべてのチャンネルの合計になります。加えて、インタレース解除やガンマ補正などのチャンネルごとに 1 回ずつ実行される処理のタイプによっては、何回もカウントされる可能性があります。つまり、アプライアンスでは、それぞれのフィルタが実行する処理負荷が少ない場合は 5 以上のフィルタを 1 つのデバイスで同時にサポートできますが、ただし、ドライバの内部または外部の処理負荷が特に重い場合は、数個のフィルタしか同時に実行できません。

インタレース解除

[Deinterlace] フィールドには、4 つのドロップダウン選択肢があります。下の図に示すように、これらの選択肢は、[Off]、[Auto]、[Inverse Telecine]、および [Motion Adaptive] です。



各選択肢の詳細については、次の定義を参照してください。

- **Off** : どの種類のインタレース解除も実行しません。
- **Auto** : 逆テレシネ インタレース解除をすべてのテレシネ ビデオに適用します。テレシネ以外のすべてのビデオには、動き適応型インタレース解除を適用します。コンテンツが変化するたびに 2 つのモードを動的に切り替えます。NTSC ビデオにしか使用できません。
- **Inverse Telecine** : 逆テレシネ インタレース解除をすべてのテレシネ ビデオに適用します。テレシネ以外のビデオのインタレース解除は実行しません。NTSC ビデオにしか使用できません。
- **Motion Adaptive** : 動き適応型インタレース解除をすべてのビデオに適用します。

インタレース設定は、デバイス単位で適用および保存され、デバイスに関連付けられたすべてのフィルタとピンに適用されます。

動き適応型インタレース解除

動き適応型インタレース解除は、ピュア ビデオ (非テレシネ) コンテンツをインタレース解除するためのアルゴリズムです。イメージの静止している部分と動作している部分を検出して、異なる処理を適用します。

テレシネと逆テレシネ

テレシネ ビデオは、1 秒間に 24 コマのフィルムに対して作成された NTSC ビデオです。テレシネ変換プロセスでは、特定のフィールドが規則正しいシーケンスで繰り返されます。テレシネ化されたシーケンスを直接プログレッシブ画面に表示すると、インタレース アーチファクトが発生します。

逆テレシネという処理はテレシネ処理の反対で、重複したフィールドを削除してビデオを 24 fps のプログレッシブ方式に再構築します。インターレースによって作成されたアーチファクトは 100% 削除されます。ビデオを 24 fps で再生した場合は、元のフィルムと全く同じタイミングとシーケンスで表示されます。ビデオを 30 fps で再生した場合は、第 5 フレームが繰り返されます。ただし、インタレース解除アーチファクトは発生しません。

テレシネと逆テレシネは NTSC ビデオにのみ適用されます。PAL や SECAM ビデオには使用されません。ビデオ規格として PAL または SECAM が選択されると [Auto] および [Inverse Telecine] ボタンは無効化されます。

動きしきい値

動きしきい値によって、空間関連画素と時間関連画素の識別域 (「動き」と判断される) が調整されます。高い値を指定すると、動いている画素数が大幅に削減されます。低い値を指定すると、事実上、画面全体が動いていると見なされるまで動き画素数が大幅に増加されます。デフォルトの推奨値は 16 です。

シャープな動きと滑らかな動き

[Sharp Motion] オプション ボタンを選択すると、動いている領域の細部がシャープになりますが、斜めエッジがギザギザになります。

[Smooth Motion] オプション ボタンを選択すると、動いている領域の細部が失われますが、エッジが滑らかになります。

人間の目には動いている領域の細部までははっきり見えないが、エッジアーチファクトは非常に目立つことから、ほとんどのアプリケーションには [Smooth] アルゴリズムが適しています。[Smooth] アルゴリズムでは、若干 CPU が余分に使用されます。

どちらのアルゴリズムでも静止領域は同様に処理され、静止領域の細部は失われはしません。

AVI エンコーダ設定

AVI は非圧縮オーディオ ビデオ保存形式で、備えているのはファイルとして保存する機能のみです。生成された AVI ファイルの固有名を入力して、保存先のディレクトリ パスを変更できます。[Default Folder] リンクをクリックすると、エンコーダ上のファイル保存用のデフォルト フォルダ パスが挿入されます。パスはデフォルトで D:\AVFILES\ に設定されています。



(注)

ファイルは、エンコーダの他のディレクトリに保存しないことをお勧めします。

エンコーダの内部ハード ドライブにファイルを一度保存してから、USB ドライブやネットワーク ドライブなどの他の外部ストレージ デバイスに移動してください。

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Flash エンコーダ設定

Flash エンコーダの設定は、オーディオとビデオを保存する AVI 設定と似ています。ファイルへのストリーミングを有効化するには、[Output to a File] ボックスがオンであることを確認してください。Flash によって、フレーム レートとビット レートの制御が可能になります。フレーム レートを使用してエンコードされるビデオの 1 秒ごとのフレーム数を変更できます。オーディオ形式設定を使用して、オーディオ周波数を変更したり、ステレオからモノに切り替えることができます。ビット レート設定は、オーディオとビデオがキャプチャされる 1 秒当たりのデータ量に関係します。この両方または片方のビット レートを下げると、再生表示品質が低下します。

Flash エンコーダによって、フラッシュ形式の AV ファイルが作成されます。フラッシュ ファイル (.flv) には一意の名前を指定できます。

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。

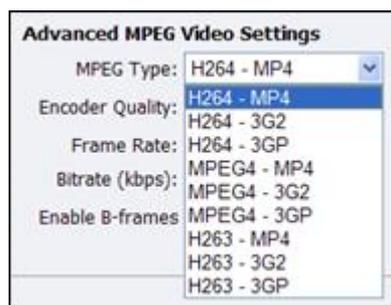


警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

MPEG-4 エンコーダ設定

エンコーダ ソフトウェア MPEG-4 圧縮エンジンでは、(1) H.264, MPEG-4 Part 10、(2) MPEG-4 Part 2、および (3) H263 – MP4 Part 2 ベースライン エンコード機能が提供されています。次の図を参照してください。



この製品は、インターネット ビデオ、携帯電話、セット トップ ボックス向けのストリームをエンコードする機能を備え、iPod[®] などの MPEG-4 互換デバイスで再生できるメディア ファイルを作成できます。

Niagara SCX Web Interface では、エンコーダで使用可能な MPEG-4 のビデオ オプションとオーディオ オプションに関する基本的な設定と高度な設定用のオプションが提供されます。

下の図は、**Niagara SCX Web Interface** を通してエンコーダを設定した後に表示される画面を示しています。

The screenshot shows the configuration interface for video and audio settings, divided into several sections:

- Advanced MPEG Video Settings:**
 - MPEG Type: H264 - MP4
 - Encoder Quality: Real-time
 - Frame Rate: 29.9700000
 - Bitrate (kbps): 768
 - Enable B-frames:
- Advanced MPEG Audio Settings:**
 - Audio Format: 44.100 kHz, 16 bit, Stereo
 - Audio Type: Low Complexity
 - Audio Encoder: AAC
 - Bitrate: 128
- Streaming Properties:**
 - Enable Streaming:
 - Destination IP: 239.1.1.1
 - Callback IP: 172.16.1.102
 - Video Port: 5050
 - Audio Port: 5052
 - Time to Live: 30
 - Stream Info: Stream Info Here
 - Stream Title: Streaming Server
 - SDP File: capture.sdp
- Advanced Streaming Settings SimulStream:**
 - Enable SimulStream:
 - Enable multiple instances for each filter:
 - Show 5 filters per device.
- Deinterlace:**
 - Type: Motion Adaptive
- Motion Threshold:**
 - Smooth Sharp
 - Value: 16
- Streaming to a File:**
 - Save to file:
 - File Name: default folder
 - D:\AVFiles\capture.mp4
- Portable Media:**
 - Enable Saving:
 - Media Title: Title

Buttons: All Encoders, Delete Encoder, Submit

[Advanced MPEG Video Settings] では、出力に必要な [MPEG Type] を選択できます。[MPEG Types] の説明に説明されている通り、次のタイプから選択できます。

- **H.264-MP4** : H.264/MPEG-4 Part 10 AVC (Advanced Video Coding) は、その前身の H.263 よりも高い品質を維持しながら、非常に高い圧縮率を実現するために設計されました。また、低ビットレートから高ビットレートまでの幅広いアプリケーションと、携帯電話などの低解像度から放送などの高解像度までのアプリケーションに対応するように作成されています。エンコーダの H.264 は Baseline Profile です。
- **H.264-3G2** : この設定では、3G2 コンテナに保存された H.264 ストリームが生成されます。
- **H.264-3GP** : この設定では、3GPP コンテナに保存された H.264 ストリームが生成されます。
- **MPEG4-MP4** : H.263/MPEG-4 Part 2 は、ネットワーク帯域幅やデバイス サイズなどの他の条件によって低ビットレートと低解像度にせざるを得ない状況に対応するように設計されています。H.263 対応のビデオ アプリケーションの例には、携帯電話、一部のローエンド ビデオ会議システム、およびサーベイランス システムがあります。H.263 は、H.264 をサポートしていない従来のハンドヘルド デバイスにとって重要です。



(注) [Enable B Frames] オプションを選択しなかった場合は、デフォルトで、エンコーダの H.263 で Simple Profile が使用されます。B フレームが有効な場合に生成されるストリームは、Advanced Simple Profile です。

- **MPEG4-3G2** : この設定では、3G2 コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。
- **MPEG4-3GP** : 3GP は、3G 携帯電話に使用するために Third Generation Partnership Project (3GPP) によって定義されたマルチメディア コンテナ形式です。MPEG-4 や H.264 などのビデオ ストリームまたは AMR や AAC などのオーディオ ストリームが保存されます。この設定では、3GPP コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。この形式に関して定義された 2 つの標準があります。
 - 3GPP (GSM ベースの携帯電話用)
 - 3GPP2 (CDMA ベースの携帯電話用)
- **H263-MP4** : H.263/MPEG-4 Part 2 は、ネットワーク帯域幅やデバイス サイズなどの他の条件によって低ビット レートと低解像度にせざるを得ない状況に対応するように設計されています。H.263 対応のビデオ アプリケーションの例には、携帯電話、一部のローエンド ビデオ会議システム、およびサーベイランス システムがあります。H.263 は、H.264 をサポートしていない従来のハンドヘルド デバイスにとって重要です。



(注) [Enable B Frames] オプションを選択しなかった場合は、デフォルトで、エンコーダの H.263 で Simple Profile が使用されます。B フレームが有効な場合に生成されるストリームは、Advanced Simple Profile です。

- **H263-3G2** : この設定では、3G2 コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。
- **H263-3GP** : この設定では、3GPP コンテナに保存された H.263 ストリームが生成されます。



(注) 現時点で [Encoder Quality] 設定がアクティブになっていませんが、ストリームまたはファイルの符号化に影響はありません。



(注) Quicktime® プレーヤーなどの一部のプレーヤーは、B フレームを含むストリームと互換性がありません。生成されたストリームの再生時に画質の問題が生じた場合は、B フレームを無効にしてほとんどのプレーヤーとの互換性を保証してください。

[Advanced MPEG Audio Settings] では、オーディオ形式、オーディオタイプ、オーディオエンコーダ、およびビットレートを選択できます。これらの選択肢には、オーディオサンプリングに関するいくつかのオプションと、オーディオをモノとステレオのどちらで符号化するかが含まれます。

Advanced MPEG Audio Settings

Audio Format: 44.100 kHz, 16 bit, Stereo

Audio Type: Low Complexity

Audio Encoder: AAC

Bitrate: 8

Advanced MPEG Audio Settings

Audio Format: 44.100 kHz, 16 bit, Stereo

Audio Type: 11.025 kHz, 8 bit, Mono
11.025 kHz, 8 bit, Stereo

Audio Encoder: 11.025 kHz, 16 bit, Mono
11.025 kHz, 16 bit, Stereo

Bitrate: 22.050 kHz, 8 bit, Mono
22.050 kHz, 8 bit, Stereo
22.050 kHz, 16 bit, Mono
22.050 kHz, 16 bit, Stereo
33.075 kHz, 8 bit, Mono
33.075 kHz, 8 bit, Stereo
33.075 kHz, 16 bit, Mono
33.075 kHz, 16 bit, Stereo
44.100 kHz, 8 bit, Mono
44.100 kHz, 8 bit, Stereo
44.100 kHz, 16 bit, Mono
44.100 kHz, 16 bit, Stereo
16.000 kHz, 8 bit, Mono
16.000 kHz, 16 bit, Mono
48.000 kHz, 8 bit, Mono
48.000 kHz, 8 bit, Stereo
48.000 kHz, 16 bit, Mono
48.000 kHz, 16 bit, Stereo

[Audio Type] 設定は、AAC 符号化にのみ関係します。[Audio Encoder] フィールドで [AMR] を選択した場合は、この設定が使用されません。[Audio Type] フィールドには、次の 2 つの選択肢を含むドロップダウン ボックスがあります。

- **Main** : この形式は、[Low Complexity] と同じですが、後方予測が追加されます。
- **Low Complexity (LC)** : 最も単純で最も広く使用されている形式で、AAC オーディオ形式をサポートします。



(注)

それぞれのオプションでは、作成されたストリームを再生するプレーヤーに応じた専用のツールを使用してオーディオストリームをエンコードします。再生ソフトウェアまたはデバイスの要件に基づいて、選択する必要があります。最も広くサポートされている形式は LC プロファイルです。

[Audio Encoder] 設定には、次の 3 つの選択肢を含むドロップダウン ボックスがあります。

- **AAC (Advanced Audio Coding)** : デジタルオーディオ用の標準化された不可逆圧縮および符号化スキーム。AAC は、MP3 よりも優れたオーディオ品質を実現し、Motion Picture Experts Group (MPEG) によって標準に指定されました。
- **AMR-NB (Adaptive Multi-Rate Narrow-Band – 8 kHz)** : 音声符号化に最適化されたオーディオデータ圧縮スキーム。AMR は、3GPP によって標準の狭帯域音声コーデックとして採用され、GSM で広く使用されています。
- **AMR-WB (Adaptive Multi-Rate Wide-Band – 16 kHz)** : 音声符号化に最適化されたオーディオデータ圧縮スキーム。AMR は、3GPP によって標準の広帯域音声コーデックとして採用され、GSM で広く使用されています。



(注) オーディオ エンコーダとして [AMR Encoder] を選択した場合は、オーディオが携帯電話で再生するための 8 kHz モノを使用して自動的に符号化されます。オーディオ エンコーダとして [AMR-WB] を選択した場合は、[Audio Format] を携帯電話で再生するための 16 kHz、16 ビット、モノに変更する必要があります。

[Audio Bitrate] ドロップダウン ボックスには、8～320 の範囲の複数の選択肢が表示されます。

エンコーダ用の Web Interface には、[Streaming Properties] と [Advanced Streaming Properties] に関するオプションが含まれています。選択した放送タイプによっては、[Enable Streaming] チェックボックスをオンにすることができます。プルの有効化方法については、「[Real Encoder 設定 \(Helix\)](#)」(P.3-34) を参照してください。その他のオプションで、ポータブル メディアを保存したり、メディア タイトルを指定できます。

[Advanced Streaming Settings] では、ストリーミング中にファイルに出力することも、ファイルへの出力のみを実行することもできます。このファイルの一意の名前と場所を入力する必要があります。

エンコードされたコンテンツをファイルに保存する場合は、[Save to file] チェックボックスをオンにします。表示されたフィールドにファイルの保存先を入力します。フォルダはデフォルトで D:\AVFiles\ に指定されています。

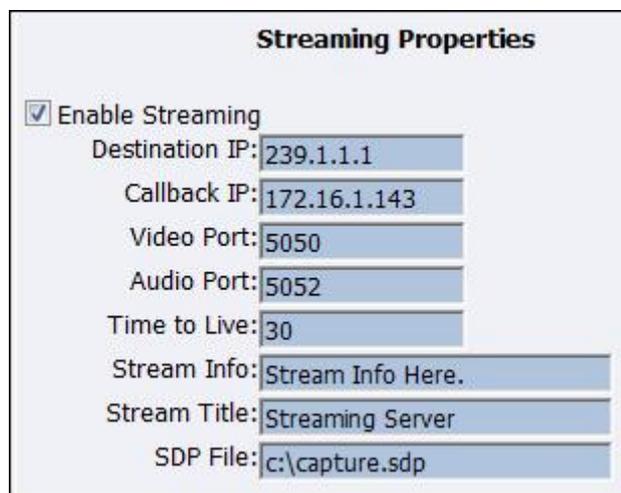
ポータブル メディアのストリームをファイルに保存する場合は [Save to Portable Media] チェックボックスをオンにします。



(注) ファイル名は SCX Explorer を実行しているシステムではなくエンコーダ システムによって参照されることに注意してください。

SCX Manager と SCX Explorer が同じコンピュータ上に存在しない場合は、必ず、マイ ネットワークでファイル用のブラウザを起動して、システム名で始まるファイルのパス名全体 (¥¥fileserver¥¥c¥¥videos など) を参照または入力してください。ファイル名だけを入力した場合は、リモート コンピュータ上に存在するメディア ファイルをローカル コンピュータ上で参照することになります。

MPEG-4 コンテンツをストリーミングする場合は、[Enable Streaming] を選択します。適切なストリーミング プロパティを設定します。



Streaming Properties	
<input checked="" type="checkbox"/> Enable Streaming	
Destination IP:	239.1.1.1
Callback IP:	172.16.1.143
Video Port:	5050
Audio Port:	5052
Time to Live:	30
Stream Info:	Stream Info Here.
Stream Title:	Streaming Server
SDP File:	c:\capture.sdp



(注) デフォルトの設定では、マルチキャストストリーミングが有効になります。この動作が望ましくない場合は、グループの IP アドレスをエンコーダからストリーミングするサーバの IP アドレスに変更してください。

[SDP File] フィールドに、ストリームの開始時点で生成される SDP ファイルの名前と保存先パスを指定する必要があります。Helix[®]、Quicktime、または Darwin サーバに対してストリーミングする場合は、それぞれのマニュアルやオンラインメッセージボードでストリーミングサーバの設定方法を参照してください。



(注) SDP ファイルの共有保存先ディレクトリを選択することによって、ポイントツーポイントでストリーミングすることができます。ストリーミングする PC の IP アドレスを入力した場合は、マルチキャストが無効になることを覚えておいてください。

たとえば、別の PC でストリームを表示する場合は、SDP ファイルをローカルドライブの共有フォルダに保存します。他の PC で SDP ファイルを開いたり、ストリームを Quicktime やその他の MPEG-4 互換ストリーミングプレーヤーで再生できます。MPEG-4 符号化は CPU に負荷がかかるため、非常に強力なシステム（デュアルコアプロセッサ以上）がない場合は、エンコーダと同じシステム上でストリームを再生しないでください。これを行った場合は、CPU に過大な負荷がかかり、ビデオ画質の低下や符号化セッションの失敗につながる可能性があります。

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、設定を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Real Encoder 設定 (Helix)

Real (Helix) は、ストレージ形式とストリーミング形式を兼ね備えています。ファイルに出力できることに加えて、Real Encoder では Helix Server にストリーミングすることができます。Real Encoder の設定には、サーバに対する接続およびストリーミングに関するパラメータの調整が含まれます。

The screenshot displays the configuration interface for a Real Encoder, divided into two main sections: Streaming Properties and Advanced Streaming Settings.

Streaming Properties:

- Real Streaming properties:**
 - Enable Streaming
 - Broadcast Method: Legacy Push (ver 8.x, 7.x, G2)
 - Transport: UDP TCP
 - Server Address: [text input]
 - Port/Port Range: 4040
 - Multicast Address: [text input]
 - Listen Address: Automatic
 - Stream Name: [text input]
 - Path(optional): [text input]
 - User Name: [text input]
 - Password: [text input]
 - Frame Rate: 15
 - Video Quality: Normal Motion Video
 - Audio Content: Voice Only
 - Video Noise Filter: Off
 - De-Interlace filter
 - Inverse Telecine
- Streaming to a File:**
 - Save to file
 - File Name: default folder
 - Path: D:\AVFiles\capture.rm

Advanced Streaming Settings:

- Audience Selection:**
 - 100% Quality Download (VBR)
 - 128k Dual ISDN
 - 12k Substream for 28k Dial-up
 - 150k LAN
 - 16k Substream for 28k Dial-up
 - 1M Download (VBR)
 - 5M Download (VBR)
 - 5M Multichannel (VBR)
 - 5M Surround Stereo (VBR)
 - 64k Single ISDN
 - 70% Quality Download (VBR)
 - 750k Download (VBR)
- SimulStream:**
 - Enable SimulStream
 - Enable multiple instances for each filter
 - Show 5 filters per device.
- Deinterlace:**
 - Type: Motion Adaptive
- Motion Threshold:**
 - Smooth Sharp
 - Value: 16

Buttons at the bottom include "All Encoders", "Delete Encoder", and "Submit".

[Broadcast Method]: Real 形式のビデオを Helix Server にストリーミングする配信方式は、次の通り複数あります。

- **Push, Account-Based Login (Helix Server)**: アカウント ベースのプッシュ放送では、Helix Server バージョン 9 以降にストリームを送信できます。この方式では、エンコーダで Helix Server への監視接続が維持されます。この接続によって、サーバへのアクセスを認証するためのユーザ名とパスワードを渡すことができます。また、この接続を通して、放送ストリームに関する統計情報が Helix Server からエンコーダに返されます。
- **Push, Password-Only Login (Helix Server)**: アカウント ベースの放送と違って、パスワードのみの放送では監視接続が確立されません。したがって、この種の放送では、ネットワーク オーバーヘッドを下げる必要がありますが、Helix Server からのフィードバックは受け取れません。この放送方式を使用すれば、Helix Server バージョン 9 以降にライブ ストリームを送信できます。ただし、分割調整でサーバをレシーバーとして設定する必要があります。詳細については、Helix Server のマニュアルを参照してください。

- **Push, Multicast (Helix Server)** : マルチキャストでは、エンコーダでその出力方向の帯域幅を広げなくても、1つの放送ストリームを任意の数の Helix Server に配信できます。Helix Server は、事前に、エンコーダからのマルチキャスト用に設定しておく必要があります。詳細については、Helix Server のマニュアルを参照してください。
- **Pull (Helix Server)** : プル放送では、符号化開始直後にエンコーダで放送パケットの生成が開始されます。ただし、Helix Server からストリームが要求される（最初の RealPlayer® ユーザが放送を要求したときに発生する）まで放送ストリームは配信されません。このプル放送では、誰も放送を受信していないときに、エンコーダと Helix Server 間の帯域幅が節約されます。この放送方式を使用すれば、Helix Server バージョン 9 以降にストリームを送信できます。
- **Legacy Push (8.x, 7.x, G2)** : 従来のプッシュ方式は、アカウントベースのプッシュ方式と同様です。ただし、従来のプッシュでは、サーバのフィードバックや統計情報を提供するための監視接続が使用されず、アカウントベースのプッシュほど堅牢ではありません。この放送方式は、RealSystem Server G2、7、8U などの、Helix Server バージョン 9 以前から存在するサーバに放送ストリームを送信する場合にのみ使用してください。

Transport Protocol : プッシュ放送方式を使用する場合は、Helix Server への放送ストリームの配信に UDP と TCP のどちらを使用するかを指定します。UDP の方がネットワーク オーバーヘッドが低いいため、望ましいプロトコルと言えます。ただし、不可逆環境で放送を配信する場合は、TCP の使用をお勧めします。

[Server Address] フィールドに対して、207.188.7.176 や helixserver.example.comfield のように、放送に使用する Helix Server の IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

[Port/Port Range] フィールドに対して、Helix Server 上の HTTP ポートを指定します。デフォルト値は、サーバのデフォルト HTTP ポートであるポート 80 です。マルチキャストの場合、放送パケットが送信される Helix Server レシーバー上のポートの範囲を指定します。エンコーダと Helix Server の間で、放送が開始されるたびに実際に使用されるポートの取り決めが行われます。デフォルトの範囲は 30001 ~ 30020 です。

マルチキャスト アドレスを使用する場合は、[Multicast Address] フィールドに放送ストリームのマルチキャスト アドレスを入力します。マルチキャスト アドレスは、224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 の範囲で指定する必要があります。

[Listen Address] フィールドは、Helix Producer がサーバからのリクエストの再送をリッスンするマシンの IP アドレスです。

このリッスンアドレスによって、Helix Mobile Producer Live が Helix Server からのパケット再送リクエストをリッスンするために使用する IP アドレスが設定されます。リッスンアドレスとして、次の値のいずれかを使用できます。

- **Automatic** : これは最も安全な設定であり、ほとんどのファイアウォール設定で動作します。
- **System IP** : マシンの IP アドレス
- **System IP 2** : マシンの第 2 IP がマルチ ホーム化されます。
- ユーザが入力した IP アドレス

Helix Mobile Producer Live マシンで複数の IP アドレスが使用されている場合は、Helix Mobile Producer Live と Helix Server 間の通信で使用する必要のある IP アドレスを入力します。ネットワーク アドレス変換 (NAT) が行われるファイアウォールを通して放送する場合は、リッスンアドレスをファイアウォールの IP アドレスまたは 0.0.0.0 の値に設定します。0.0.0.0 の値は、任意の IP アドレスから Helix Mobile Producer Live に接続できることを Helix Server に伝えます。ただし、この接続には有効なパスワードが必要です。

[Stream Name] フィールドに、放送ストリームの名前を入力します。この名前は、クリップ名に似ており、固定ビット レート ストリームの場合は .rm の拡張子を使用し、可変ビット レート ストリームの場合は .rmvb の拡張子を使用する必要があります。この名前が放送 URL に表示されます。

[Path (optional)] フィールドには、Helix Server 上でのアーカイブや分割に使用可能な仮想パスを指定します。news/ のように前方スラッシュが続く単純な名前を使用してください。

[User Name] フィールドと [Password] フィールドには、Helix Server レシーバー定義ごとに定義されたユーザ名とパスワードを入力します。この値が間違っていると放送接続が失敗します。

[Frame Rate]、つまり、フレーム周波数は、イメージングデバイスでフレームと呼ばれている、一意の連続イメージが生成される周波数（レート）の測定値です。この用語は、コンピュータグラフィックス、ビデオカメラ、フィルムカメラ、およびモーションピクチャシステムに共通しています。多くの場合、フレームレートは、1秒当たりのフレーム数（fps）または単にヘルツ（Hz）で表現されます。

次の一連のフィールドは、Real Encoder のフィルタをアクティブにして、ビデオとオーディオの品質を向上させます。これらのフィルタ設定は、ストリーミングするコンテンツのタイプや主観的選択によって異なります。これらの設定を試して、テストキャプチャ結果を確認することをお勧めします。

Cisco Digital Media Encoder 2200 の機能には、必要ときに自動的に適用される、インターレース解除フィルタと逆テレシネフィルタが統合されています。これによって、エンコーダで最大限の効果が発揮されます。



(注)

インターレース解除フィルタおよび逆テレシネフィルタは [Streaming Properties] または [Advanced Streaming Properties/Deinterlace] のいずれかを使用して実行することをお勧めします。ただし、フィルタを複数回適用することで予期せぬ結果を招き、余計なシステムリソースを消費する場合がありますので、両方のオプションで同時にオンにしないでください。

Enable SureStream™ : SureStream を使用すれば、複数の視聴者に対する放送ストリームを符号化できます。ただし、選択したプライマリストリームまたはサブストリームごとに、符号化中のプロセッサの負荷が増大し、出力方向の帯域幅要件が増加します。たとえば、SureStream を有効化した場合、128k デュアル ISDN と 64k シングル ISDN オーディオを選択できます。つまり、SureStream を有効にした場合は、2 倍の処理能力が要求される可能性があります。

SureStream を有効にしたかどうかに関係なく、システムに関する [Audience Selection] を少なくとも 1 つ選択する必要があります。

また、ストリーミングしながらファイルに出力するか、ファイルにのみ出力するかを選択する必要があります。ファイルの一意の名前を入力します。



(注)

現在のファイルと同じ名前を使用した場合は、現在のファイルが上書きされます。



設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。

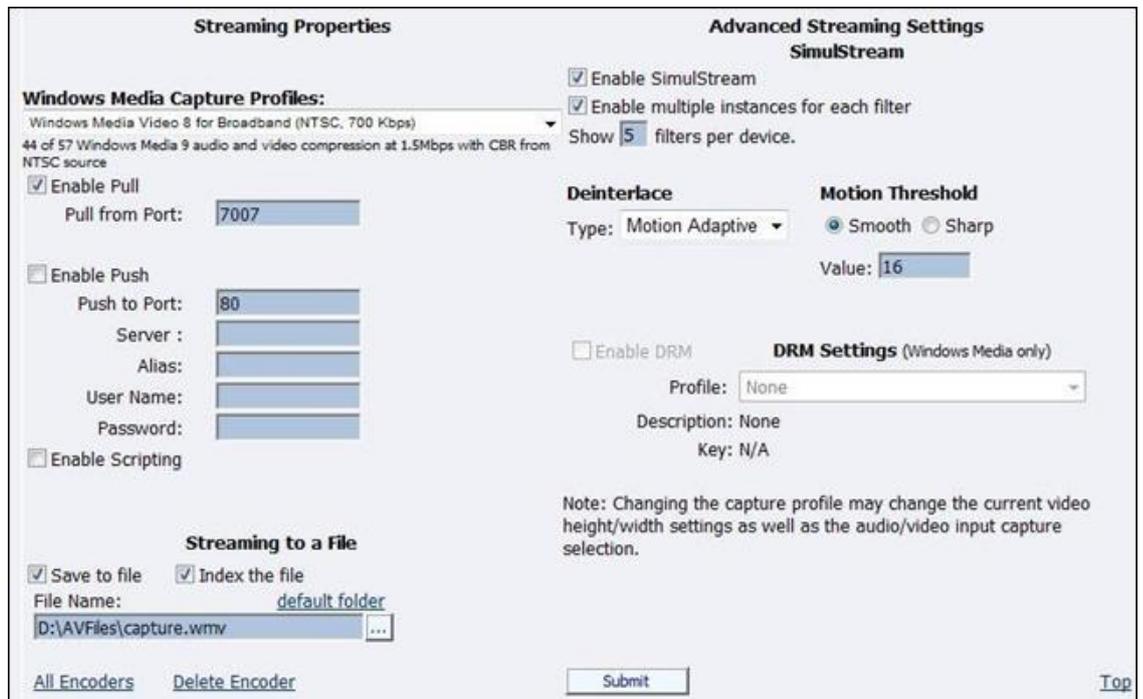


警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Windows Media Encoder 設定

Windows Media は、ストレージ形式とストリーミング形式を兼ね備えています。Windows Media Encoders を使用すると、ファイルへの出力機能に加えて、Windows Media Server にストリーミングできます。Windows Media Encoder の設定には、サーバに対する接続とストリーミングに関するパラメータの設定が含まれます。



最初に、ドロップダウンメニューで [Windows Media Capture Profile] を選択します。



(注)

一部の Windows Media Capture Profile には、事前定義のビデオ解像度と入力選択が含まれています。Windows Media Capture Profile を選択したら、現在のビデオとオーディオの設定が変更されていないことを確認してください。変更されている場合は、設定を元に戻して [Submit] ボタンをクリックします。

オーディオとビデオをストリーミングする場合は、次の 2 種類の配信方式があります。

- **Pull** : この方式では、符号化を開始するとすぐにエンコーダで放送パケットの生成が開始されます。ただし、Windows Media Server からストリームが要求されるまで放送ストリームが配信されません。この方式は、サーバとの安全な接続が提供されないため、エンコーダとサーバが同じネットワーク ファイアウォールの内側に存在する場合にのみ使用してください。
- **Push** : この方式では、エンコーダで Windows Media Server との安全な接続が維持されます。この接続によって、エンコーダからサーバへのアクセスを認証するためのユーザ名とパスワードを渡すことができます。

クライアントで Cisco Digital Media Encoder 2200 からのストリームをプルできるようにするには、セッションを設定してエンコーダから直接放送を開始します。クライアント (Windows Media Server または Player) は、いつでも、次の URL 形式を使用してストリームに接続できます。

- http://IP_address:port (インターネット接続の場合)
- http://encoding_computer_name:port (LAN 接続の場合)

デフォルトで、放送中に最大 50 の直接接続がエンコーダでサポートされます。



(注)

エンコーダへの直接接続数が増えると、必要なシステム リソースが増えます。プレーヤーを直接 Cisco Digital Media Encoder 2200 に接続しないでください。ストリーミング サーバをエンコーダに接続してから、プレーヤーをそのサーバに接続する必要があります。

[Enable Pull] チェックボックスをオンにします。次に、エンコーダからストリームをプルするためにサーバで使用されるポート番号を入力します。

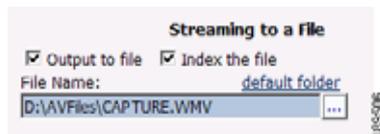


(注)

入力したポート番号が他のエンコーダに割り当てられていないことを確認してください。2 つのエンコーダが同じポート番号を使用しようとした場合は、片方または両方のエンコーダが起動に失敗します。

[Enable Push] を選択して、他のエンコーダに割り当てられていないポート番号を入力します。次に、サーバ名または IP アドレス、エイリアス (オプション)、ユーザ名、およびパスワードを入力します。サーバにストリーミングしながらファイルにも出力するように指定することもできます。ただし、ファイルとストリーミングをアーカイブするようにサーバを設定することによって、エンコーダで符号化用のシステム リソースを節約できます。詳細については、Windows Media Server のマニュアルを参照してください。

[Index the file] をオンにした場合は、視聴者が Windows Media Player を使用して直接 Windows Media® ファイル内の任意のポイントにアクセスできます。索引付けは、Microsoft Windows Media Utilities を使用して Windows Media ファイルを編集するためにも必要です。



設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Niagara SCX Web Interface に [All Encoders] リストが表示されます。

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del WME	Windows Media Encoder	Stopped	Stopped	

Windows Media の Digital Rights Management (DRM; デジタル著作権管理)

DRM と呼ばれるテクノロジーを使用してコンテンツを保護することができます。Niagara SCX では、エンコーディング中にコンテンツを DRM テクノロジーによって暗号化することができます。DRM はファイルへのエンコーディング中にもストリームの配信にも適用できます。コンテンツを再生するにはライセンスを取得する必要があります。ライセンスにはコンテンツの暗号を解除するキーと使用を管理する権限が含まれています。



(注)

ライセンスはサードパーティのライセンス プロバイダーによって発行されるので、コンテンツを保護するにはサードパーティのアカウントを作成する必要があります。

Niagara SCX は、エンコーディング システムにインポートされた利用可能な DRM プロファイルを自動的に検出します。インストールされている DRM プロファイルがない場合、Niagara SCX の DRM 機能は無効になります。Niagara SCX で DRM 機能を有効にするには、次の手順に従ってください。

1. サードパーティのライセンス プロバイダーのアカウントを作成し、DRM プロファイルを作成します。
2. Niagara Streaming システムに搭載されている Windows Media Encoders アプリケーションまたは Windows Media Encoders を Microsoft Corporation (<http://www.microsoft.com>) から無償ダウンロードして、DRM プロファイルをインポートします。
3. Niagara SCX がインストールされているエンコーディング システムを再起動すると、DRM 機能が自動的に検出および有効化されます。

DRM プロファイルのインポート

まだ、ライセンス プロバイダーのアカウントを設定して、DRM プロファイルを作成していない場合は、これらを実行します。DRM プロファイルを作成したら、Windows Media Encoders を使用してプロファイルをエンコーディング システムにインポートします。

Windows Media Encoders は Niagara SCX バージョン 5.0 以降がインストールされている Niagara ストリーミング システムに搭載されています。エンコーダのデスクトップにアクセスするには、同じネットワーク上に存在するコンピュータの Windows リモート デスクトップ接続を使用します。



(注)

リモート デスクトップ接続を使用してエンコーダに接続する場合、システムに接続する前に必ず [Local Resources] を [Leave at remote computer] に設定してください。

この設定を適切に行うにはリモート デスクトップ接続を起動します。

[Options] ボタンをクリックして設定タブを表示します。[Local Resources] タブをクリックします。
[Remote computer sound] 設定のドロップダウンから [Leave at remote computer] オプションを選択します。



設定できたら、エンコーダにアクセスするユーザ名とパスワードを入力します。

リモート デスクトップを使用してエンコーダに接続する場合のユーザ名は **niagara**、パスワードは **password** です。

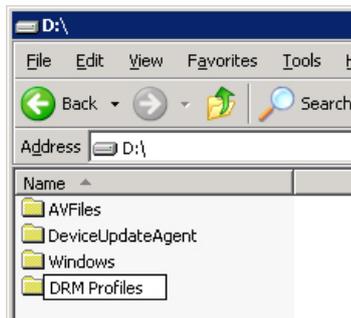


(注)

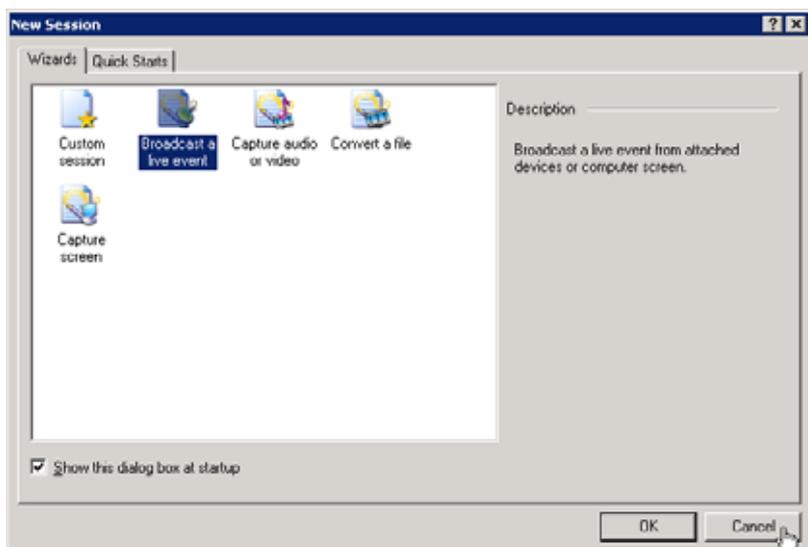
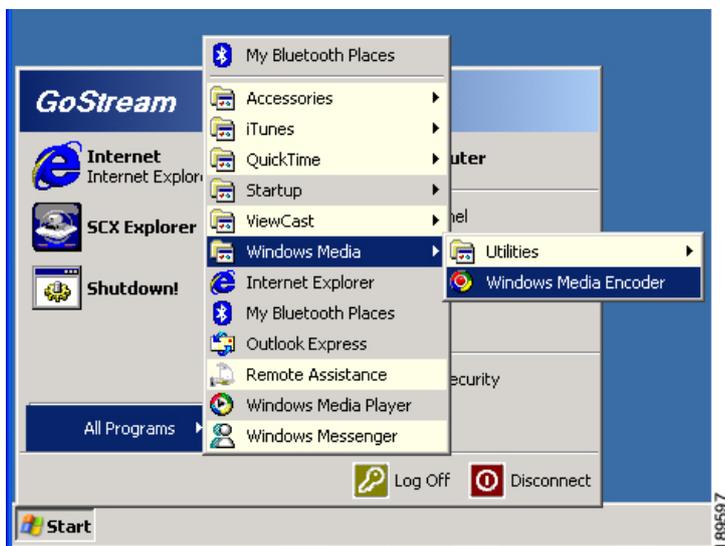
リモート デスクトップ接続を終了する際に、ログアウトはしないでください。代わりに、エンコーダからの接続を解除します。これにより、内部プログラムは継続して実行されます。

次に、次の手順に従います。

- DRM プロファイルが誤って削除または消去されないように、エンコーディング システムの安全な場所にコピーします。エンコーダの D: ドライブに新しいディレクトリを作成し、そのディレクトリに DRM を保存することをお勧めします。



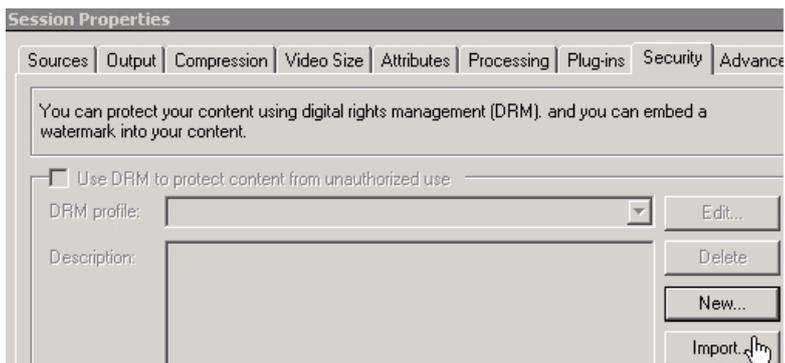
- Windows Media Encoders アプリケーションをエンコーダで起動します。[New Session Wizard] が表示されたら、[Cancel] ボタンをクリックします。



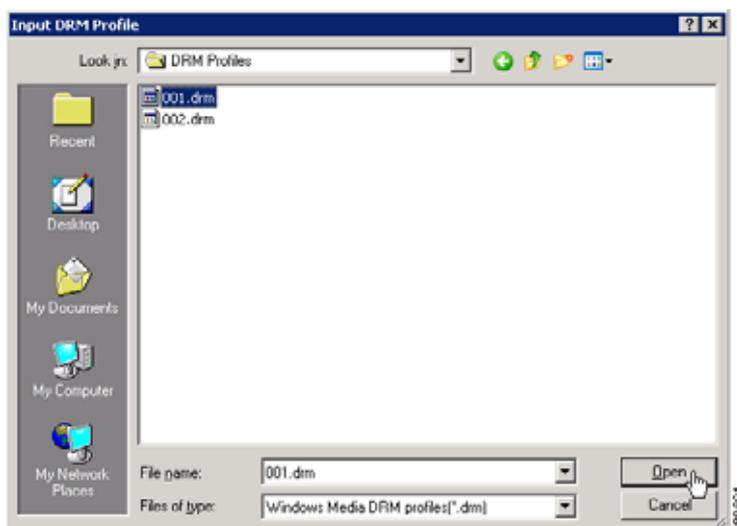
- 上部メニューバーから [Properties] ボタンをクリックします。



- [Security] タブをクリックします。



- [Import] ボタンをクリックして、DRM プロファイルがシステムのハードドライブで保存されている場所まで移動します。インポートする DRM プロファイルを選択して [Open] オプションをクリックします。



- インポートするすべての DRM プロファイルに対してこの手順を繰り返します。
- 完了したら Windows Media Encoders アプリケーションを終了します。エンコーディングセッションを保存するか確認されたら、[No] オプションを選択します。

- リモート デスクトップ接続をエンコーダから接続解除します。ログアウトはしないでください。



- エンコーダを再起動します。

DRM プロファイルを Web Interface で設定する

エンコーダの *Niagara SCX Web Interface* を使用して DRM プロファイルを設定するには、次の手順に従います。

- Niagara SCX をエンコーディング システムでローカルに起動するか、エンコーディング システムを制御するリモート PC から起動します。
- 既存の Windows Media Encoder を [All Encoders] ページで追加または編集します。
- DRM を有効にするには、[Enable] チェックボックスをオンにして、[DRM Settings] ドロップダウンメニューから適用する DRM プロファイルを選択します。



(注)

DRM を有効にすると、Niagara SCX によって自動的に [Windows Media Capture Profile] 設定が DRM 互換の [Windows Media 9] 設定に変更されます。DRM を有効にした後、この設定を変更する場合があります。

設定が完了したら、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックして、変更を保存します。



警告

[Submit] をクリックせずに別の Web ページに移動した場合は、変更が失われます。

Niagara SCX Web Interface に [All Encoders] リストが表示されます。

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI Encoder	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash Encoder	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del MPEG Encoder	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Real Producer Encoder	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Windows Media Encoder	Windows Media Encoder	OK	Stopped	

既存のエンコーダの削除

リストにある既存のエンコーダを削除するには、削除するエンコーダ名の横にある [Del] リンクをクリックします。エンコーダ プロファイルとその設定はすぐにエンコーダから削除されます。

Edit Del Flash	Flash
Edit Del Mpeg	MPEG
Edit Del Real	Helix
Edit Del WME	Wind

または、[Edit] リンクをクリックしてエンコーダ プロファイルを表示し、それが削除するエンコーダであることを確認します。

それが削除するエンコーダであることを確認したら、ページ下部の [Delete Encoder] リンクをクリックします。

[All Encoders](#) [Delete Encoder](#)



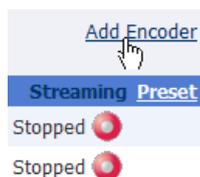
(注)

エンコーダを削除すると復元できません。エンコーダを再度作成するには、[All Encoders] ページの右上にある [Add Encoder] リンクをクリックします。

エンコーダの作成

Cisco Digital Media Encoder 2200 にはデフォルトですぐに使用できるエンコーディング プロファイルがロードされています。ユーザは、独自のストリーミング要件に応じて新しいエンコーダを作成することができます。

画面右上の [Add Encoder] リンクをクリックします。



次の画面でドロップダウンメニューからエンコーダタイプを選択します。Cisco Digital Media Encoder 2200 には次の 5 タイプのエンコーダがインストールされています。

- **AVI** : 非圧縮型オーディオ ビデオ ファイル形式
- **Flash** : オーディオおよびビデオのストリーミング ファイル形式。通常 Flash で作成されたインタラクティブ コンテンツに埋め込まれている
- **MPEG-4** : オーディオ ビデオ ファイルおよびストリーミング形式
- **RealVideo** : オーディオ ビデオ ファイルおよびストリーミング形式
- **Windows Media** : オーディオ ビデオ ファイルおよびストリーミング形式

タイプを選択したら、エンコーダの固有名を入力します。エンコーダ名は最初の 11 文字しかエンコーダ LCD ディスプレイに表示されません。入力できたら [Add Encoder] ボタンをクリックします。

[All Encoders] ページに戻ります。新たに作成したエンコーダがエンコーダリストに追加されています。このエンコーダを編集するには、エンコーダ名の横の [Edit] リンクをクリックします。ここで作成したエンコーダを編集する方法については、「エンコーダの編集」(P.3-22) を参照してください。

Name	Description	Last Status	Streaming	Preset
Edit Del AVI	AVI Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Flash	Flash Encoder	OK	Stopped	
Edit Del Mpeg	MPEG4 Encoder Driver	OK	Stopped	
Edit Del Real	Helix Producer Encoder	OK	Stopped	
Edit Del WM Encoder	Windows Media Encoder	OK	Stopped	
Edit Del WME	Windows Media Encoder	OK	Stopped	

エンコーダのプリセット (A、B、C)

Cisco Digital Media Encoder 2200 には、ボタン 1 つでストリーミングできる **EZStream** ボタンが搭載されています。ボタンはエンコーダの前面パネルにあります。デフォルトで、これらのボタンはエンコーダに割り当てられていません。**Niagara SCX Web Interface** を使用して、各ボタンを特定のエンコーダに設定します。これらのボタンを設定するコントロールは **Encoder Preset A**、**Encoder Preset B**、および **Encoder Preset C** ページにあります。

Encoder Preset A ページを開くと、**EZStream A** ボタンを設定するオプションが表示されます。このページには、エンコーダの前面パネルの図が表示されます。この図では、**A** ボタンがハイライトされており、ユーザは現在この **EZStream** ボタンにエンコーダを割り当てていることを認識できます。



このページには、[Select Encoder] フィールドと、[View All Encoders] ページを表示するためのリンクが表示されます。エンコーダがプリセットに割り当てられていた場合は、[View All Encoders] リンクの隣に [Edit] リンクも表示されます。

エンコーダの選択

[Select Encoder] フィールドのドロップダウンメニューには Cisco Digital Media Encoder 2200 で利用可能なエンコーダがすべてリスト表示されます。

エンコーダを割り当てるには、リストからエンコーダを選択して、[Submit] ボタンをクリックします。

Web ページでは、**Preset A EZStream** ボタンが更新され、「Encoder Preset : A updated successfully」というメッセージが表示されます。

エンコーダグラフィックの B と C ボタンをクリックして上記の手順を繰り返すことでエンコーダをこれらの **EZStream** ボタンに割り当てることができます。

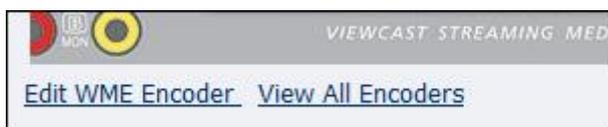




(注) 1つのエンコーダを同時に2つの **EZStream** ボタンに割り当てることはできません。エンコーダがすでにあるボタンに割り当てられており、それを別のボタンに割り当てると、最新のリクエストに応じてエンコーダと前のボタンの関連付けが解除されます。

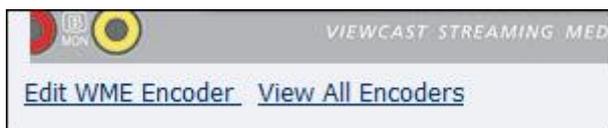
すべてのエンコーダの表示

A、B、および C ボタンにエンコーダを割り当てると、[All Encoders] ページの [Presets] 列が更新され、変更が反映されます。変更を反映するには、ページ下部の [All Encoders] リンクをクリックします。



プリセット エンコーダ プロファイルの編集

EZStream ボタンにエンコーダを割り当てると、[Preset] ページ下部の [Edit] ボタンをクリックしてエンコーダ編集ページに移動できます。



My Cisco Digital Media Encoder 2200

My Cisco Digital Media Encoder 2200 ページに移動するには、Web ページ上部のメニューにある [Configuration] に移動して、ドロップダウン リストから [My Niagara Pro II] をクリックします。

My Cisco Digital Media Encoder 2200 ページには、ソフトウェアのバージョン、ネットワーク名、シリアル番号、ハードドライブ設定に関する詳細が表示されます。このページ上のデータのほとんどは、情報提供を目的としており、変更できません。ただし、次の2つのフィールドは変更できます。

- [Computer Name]
- [Admin password]



Home Encoders Configuration Status Log Out

Machine Properties

Computer Name: CP08360002 [Click to change name](#)

Windows Version: 5.1.2600.131072
Service Pack: Service Pack 2
[Reboot Now](#)

NiagaraPro Properties:
User Name: admin
Serial Number: CP08360002

Fixed Hard Drive:

C:\	2,037.00 MB free out of 3,092.00 MB
D:\	232,120.00 MB free out of 232,448.00 MB
E:\	17.00 MB free out of 195.00 MB
F:\	1,421.00 MB free out of 2,729.00 MB

Memory: 2,617.00 MB bytes free out of

Software Versions: Web 5.2.187.0
SKU#: 92-00353-01

- VCST.Scx.Common.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Scx.EncodersLib.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Utility.Diagnostics.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Utility.SystemInfo.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.Scx.GoStream.Data.dll Version: 5.2.187.0
- VCST.UtilityLib.dll Version: 5.2.187.0

Software Update History

Date	Version	Description
8/21/2008 2:42:10 PM	FCN 01	Allows the filename to be lowercase letters.
8/21/2008 2:42:11 PM	FCN 02	Enables alternate method for encoding to Windows Media. (Default is disabled)
8/21/2008 2:42:12 PM	FCN 03	Adds link to DRM information to the desktop.
8/21/2008 2:42:13 PM	FCN 04	Enable Real username/Password. Sets default path for files.
8/21/2008 2:42:13 PM	FCN 05	This update does not apply to embedded systems - ignored.
8/21/2008 2:42:14 PM	FCN 06	Adds Wide Screen capture size for PAL (512x288) to the Flash encoder.
8/21/2008 2:42:15 PM	FCN 07	Enable Real username/Password
8/21/2008 2:42:16 PM	FCN 08	Corrects problem with password authentication with Akamai and LimeLight.
8/21/2008 2:42:17 PM	FCN 09	Allows scripts to be written into files created by the Real Networks encoder.
8/21/2008 2:42:18 PM	FCN 10	Fixes fast display of Closed Caption for WME encoding and updates the Mpeg encoding engine.

Note: Changing the computer name will require the system to be rebooted after submitted.

コンピュータ名

[Computer Name] フィールドには、現在のエンコーダのネットワーク名が表示されます。これは、*Niagara SCX Web Interface* にアクセスするために Web ブラウザに入力した名前と同じものです。このフィールドの隣の [Click to change name] リンクをクリックすることによって、[Computer Name] を変更できます。

Computer Name:	GP074802	Click to change name
Windows Version:	5.1.2600.131072	
Service Pack:	Service Pack 2	
	Reboot Now	

画面が更新され、[Computer Name] フィールドが編集可能なテキスト フィールドに変わります。エンコーダの新しい名前を入力します。

次に、ページ下部の [Submit] ボタンをクリックします。

ページが更新され、エンコーダをリブートするように要求されます。システムが再起動されるまで変更が適用されません。

[Reboot Now] リンクをクリックして、システムを再起動し、[Computer Name] の変更を適用します。

Machine Properties
Confirm Rebooting the system. [Click to Reboot Now](#)

エンコーダの再起動中に、次のメッセージが Web Interface に表示されます。

The Web service is currently not available. Please wait for the service to be restarted and returned to normal service.
This page will automatically refresh.

In Progress... **System Reboot**

Tuesday, December 04, 2007 4:55:08 PM



(注) 再起動プロセスが完了するまでに約 2 分かかります。

エンコーダの再起動が完了すると、ログイン画面が表示されます。



(注) Web ブラウザを閉じてから再び **Niagara SCX Web Interface** にログインする場合は、指定した新しいコンピュータ名を使用してエンコーダにアクセスする必要があります。

Cisco Digital Media Encoder 2200 のプロパティ

エンコーダの **プロパティ** セクションには、[User Name] と [Serial Number] の 2 つのフィールドがあります。[User Name] フィールドのみが変更を許可されており、ユーザ パスワードを工場出荷時設定から変更できます。

- 「ログイン パスワードの工場出荷時設定からの変更」(P.3-50)
- 「ログイン パスワードの工場出荷時設定への復元」(P.3-51)

ログインパスワードの工場出荷時設定からの変更

[User Name] フィールドの [admin] リンクをクリックします。*Niagara SCX Web Interface* のログインパスワードを変更可能な新しい画面が表示されます。

NiagaraPro Properties:	
User Name:	admin
Serial Number:	CP08360002



(注) *Niagara SCX Web Interface* のユーザ名は変更できません。

[Password] フィールドに現在のパスワードを入力してから、[New Password] フィールドと [Confirm New Password] フィールドの両方に新しいパスワードを入力します。



(注) *Niagara SCX Web Interface* のパスワードは大文字と小文字が区別されます。

Change your password for the
NiagaraPro web login.

Passwords are case sensitive

Change Your Password

User Name:

Password:

New Password:

Confirm New Password:

[Back to home page](#)

次に、[Change Password] ボタンをクリックします。次のような結果が表示されます。

Change your password for the
NiagaraPro web login.

Passwords are case sensitive

[Password Changed successfully, click to login](#)



(注) 新しいパスワードを使用して Web Interface にログインし直す必要があります。

ログインパスワードの工場出荷時設定への復元

パスワードを忘れてたり、なくした場合は、[Restore Factory Defaults] オプションを実行することによって、デフォルトパスワードに復元できます。詳細については、「[Restore Cisco Digital Media Encoder 2200 Factory Defaults](#)」(P.3-55) を参照してください。

Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート

Web ページ上部の [Configuration] リンクに移動して [Alerts] リンクをクリックすると Cisco Digital Media Encoder 2200 の [Alerts] ページを表示できます。

ストリーミングやその他の処理中に発生する可能性のあるアプリケーションアラートをエンコーダでどのように処理するかを制御できるページを次に示します。Cisco Digital Media Encoder 2200 ではオプションで、アラートが発生すると複数のユーザに E メールを送信することができます。アラームが発生すると、エンコーダの前面パネルのアラームライトが自動的に点灯します。

NiagaraPro Alerts records : 9				
	Send Email	Light Alarm	Close Contact	Description
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Exception
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Error
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Undefined
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Started
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Stopped
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SCX Service Stopped
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SCX Service Started
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Warning
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	High Temperature!

電子メールアラート

オプションで、アプリケーションアラームの発生時に特定の電子メールアドレスに電子メールアラートを送信できます。[Send Email] をオンにすると、この機能が有効になります。アラートを送信する電子メールアドレスと、電子メールサーバのユーザ名、パスワード、およびサーバ名を指定する必要があります。電子メールアラートを送信するための Cisco Digital Media Encoder 2200 の設定方法については、「[システム構成設定](#)」(P.3-54) を参照してください。

アラームライト

[Light Alarm] チェックボックスをオンにすると、アラートが発生した場合に前面パネルのアラームライトを点灯するようにエンコーダに指示されます。

アラート設定の編集

一覧表示されたアラートごとの設定を編集するには、変更するアラートの行に表示された [Edit] リンクをクリックします。この時点で、アラームを更新またはキャンセルするための選択肢が表示されることに注意してください。

更新する場合は、アラート設定を変更した後に [Update] リンクをクリックして設定を反映し、エンコーダの [Alerts] リストに戻ります。

NiagaraPro Alerts records : 9					
	Send Email	Light Alarm	Close Contact	Displayed Text	Description
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Exception	
Update Cancel	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Error	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Undefined	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Started	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Encoder Stopped	
Edit	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	SCX Service Stopped	

ネットワーク プロパティ

[Network Properties] ページは、Web ページ上部の [Configuration] リンクに移動して [Network Properties] をクリックすることによって表示できます。

[Network Properties] ページには、現在のエンコーダのネットワーク インターフェイス カード (NIC) に関する設定の詳細が表示されます。

(TCP/IP) Network Properties

Network Card(s) Primary NIC
Description: Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet

Obtain an IP address automatically
 Use the following IP information

IP Address: 172.16.1.181
Subnet Mask: 255.255.255.0
Default Gateway: 172.16.1.251
Preferred DNS Server: 172.16.1.3
Alternate DNS Server: 172.16.2.8

Advanced Settings on CP08360002

MAC Address: 00:E0:81:4C:38:FA
Primary WINS Server: 172.16.1.4
Secondary WINS Server: 0.0.0.0
Active Network Link:

ネットワーク カード

Cisco Digital Media Encoder 2200 には、1 ギガビット ネットワーク 接続が 2 系統あります。各カードの現在のプロパティを表示するには、[Network Card(s)] フィールドのドロップダウン メニューで表示するカードを選択します。

高度な設定（ネットワーク）

[Advanced Settings] では、エンコーダのネットワーク名、MAC アドレス、およびサーバ IP アドレスの設定ができます。

Advanced Settings on	CP08360002
MAC Address:	00:E0:81:4C:38:FA
Primary WINS Server:	172.16.1.4
Secondary WINS Server:	0.0.0.0
Active Network Link:	
<input type="button" value="Submit"/> <input type="button" value="Reset"/>	

エンコーダのネットワーク名がリンクになっています。このリンクをクリックすると、[My Encoder] ページに移動します。このページで、エンコーダのネットワーク名を変更できます。詳細については、「コンピュータ名」(P.2-40) を参照してください。

[Active Network Link] フィールドには、選択されたネットワーク インターフェイス カードがネットワークに接続されているかどうかを示すアイコンが表示されます。

表 3-1 ネットワーク リンク アイコンと説明

アイコン	説明
	ネットワーク リンクが検出されている。
	ネットワーク リンクが検出されていない。

システム構成設定

[System Configuration Settings] ページでは、エンコーダのデフォルトのシステム設定を変更できます。Cisco Digital Media Encoder 2200 でアラート状態が発生したときに事前定義の電子メール アドレスに電子メールが送信できるように、電子メール設定を構成できます。システムのアイドル中にエンコーダの前面パネルに表示する情報をカスタマイズすることもできます。

このページでは、エンコーダを元の工場ディスク イメージに復元して、すべてのシステム設定を元の状態に戻すこともできます。[Restore Factory Defaults] オプションを使用すると、すべてのカスタム設定が削除されます。その完了には約 10 分かかります。

This page allows you to modify your NiagaraPro default system settings.

Enter a valid email settings to have NiagaraPro send emails for [alert conditions](#). Optionally select the information to show on the NiagaraPro display when NiagaraPro is idle. You can customize the idle screen text or use the default settings. [Restore NiagaraPro Factory Defaults](#)

System Configuration Settings

Email Settings:

Send Emails To:

Email From:

Subject:

SMTP (Mail) Settings:

User Name:

Password:

SMTP Host: [Save and Send Test Email](#)

Idle Screen Information:

Cycle this information in the display when NiagaraPro is idle.

Active IP Computer Name CPU

Memory Hard Drive Temperature

Idle screen text: Line 1
Note: Each line in the display is 20 characters.

Line 2
 Line 3
 Line 4

***Default AV Folder:**

High Temperature Alert: degrees Celsius. ([view Alert Configuration](#))

Restore Cisco Digital Media Encoder 2200 Factory Defaults

[Restore Factory Defaults] リンクをクリックしてプロセスを開始します。

This page allows you to modify your NiagaraPro default system settings.

Enter a valid email settings to have NiagaraPro send emails for [alert conditions](#). Optionally select the information to show on the NiagaraPro display when NiagaraPro is idle. You can customize the idle screen text or use the default settings. [Restore NiagaraPro Factory Defaults](#)

System Configuration Settings

次の画面に、実行しようとしているプロセスの詳細が表示されます。この時点でプロセスをキャンセルすることができます。

Restore Factory Defaults

Restore to factory Defaults allows the rebuilding of the NiagaraPro primary disk drive (C:) to be set to the original system defaults. This reconfigures the system and all files on the primary disk will be removed and the factory image reinstalled.

This option should only be selected if you are experiencing significant difficulties with your system or you wish to return to the factory defaults. Selecting this process will stop all running programs and take approximately 10 minutes to complete.

Do not power off or interrupt the system restore once started. A message on the NiagaraPro LCD display will be left on the screen while the restoring executes and removed when finished. All services will automatically restart and allow you to set your personal settings with the menu or with this Web site when completed.

Continue with restoring the entire system back to Factory Defaults ?

Yes [Restore my system](#) back to the factory defaults or No, take me back to the [Home Page](#)

188626



(注)

[Restore Factory Defaults] では、エンコーダのプライマリ ディスク ドライブ (C:) が元のシステム イメージで再構築されます。ドライブ C: に保存されたすべてのカスタム設定とファイルが消去されます。このプロセスは元に戻すことができません。ただし、エンコーダの復元プロセスが完了したら、手動でカスタム設定を再入力できます。



(注)

オーディオ ファイルとビデオ ファイルを保存するためのデフォルト ディレクトリは、D:¥AV Files¥ です。[Restore Factory Defaults] オプションを使用した場合は、ドライブ C: のみが再イメージ化されます。ドライブ D: 上のすべてのファイルとフォルダは保存されます。個人ファイルが削除されないようにするには、必ず、個人ファイルの保存にデフォルト ディレクトリのドライブ D を使用してください。

電子メール設定

電子メールを送信するための SMTP 電子メール アカウントの設定方法がわからない場合は、ネットワーク管理者に支援を要請してください。

エンコーダの [Email Settings] を設定するために、次の情報を入力します。

- 電子メールを送信するアドレス (複数の電子メール アドレスはカンマで区切る)
- 電子メールを受け取る有効な電子メール アドレス
- 電子メール アラートの件名行 (必須)
- SMTP (メール サーバ) 設定
 - サーバ アクセス用のユーザ名
 - パスワード (必要な場合)
 - SMTP サーバの名前

Email Settings:	
Send Emails To:	<input type="text"/>
Email From:	<input type="text"/>
Subject:	System Status Report on CP08360002
SMTP (Mail) Settings:	
User Name:	<input type="text"/>
Password:	<input type="password"/>
SMTP Host:	<input type="text"/> Save and Send Test Email



(注) セキュリティ上の理由で、設定で指定したアカウント用のパスワードは表示されません。ただし、[Submit] ボタンのクリック後にこのフィールドが空白になりますが、パスワード情報は保存されています。



(注) このダイアログボックスで情報を変更した場合は、[Submit] ボタンをクリックする前に SMTP パスワードを再入力する必要があります。そうしなかった場合は、以前入力したパスワードが空白のエントリで上書きされます。

上述した情報の入力が完了したら、[Submit] ボタンをクリックして変更を保存します。

[Save and Send Test Email] リンクをクリックして、設定をテストできます。結果のページに、電子メール送信の成否が報告されます。

アイドル画面情報

このセクションでは、エンコーダの前面パネルの LCD ディスプレイに表示される情報を変更できます。

表示する情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。LCD にステータス情報とエンコーダ情報が交互に表示されるときにこの情報が表示されます。

LCD アイドル画面の上部にデフォルト メッセージの「System is Ready」が表示されます。このメッセージはカスタマイズできます。

Idle Screen Information:			
Cycle this information in the display when GoStream is idle.	<input checked="" type="checkbox"/> Active IP	<input checked="" type="checkbox"/> Computer Name	<input checked="" type="checkbox"/> CPU
	<input checked="" type="checkbox"/> Memory	<input checked="" type="checkbox"/> Hard Drive	<input checked="" type="checkbox"/> Temperature
Idle screen text: Note: Each line in the display is 20 characters.	GoStream is Ready	Line 1	189628
		Line 2	
		Line 3	
		Line 4	

上述した情報の入力が完了したら、[Submit] ボタンをクリックして変更を保存します。

デフォルト ディレクトリ設定



(注) ドライブ D に存在しないディレクトリへのファイルの保存に関するリスクを認識していない場合は、デフォルト ディレクトリ設定を変更しないでください。エンコーダ上の別のドライブにファイルを保存して [Restore Factory Defaults] 機能を使用した場合は、そのファイルが削除される可能性があります。



(注) ファイルを保存できるストレージがあるのはドライブ D だけです。



(注) ドライブ C、E、および F は、エンコーダの処理プログラムでのみ使用されます。これらのドライブを変更した場合は、システムが回復不能な損傷を受け、保証が無効になる可能性があります。

デフォルトの AV フォルダは、エンコーダ プロファイルで [Save to File] オプションが選択されるたびに作成される AV ファイルが保存されるディレクトリです。AV ファイルを作成するためのエンコーダ プロファイルの設定方法については、「[AVI エンコーダ設定](#)」、「[Flash エンコーダ設定](#)」、「[MPEG-4 エンコーダ設定](#)」、「[Real Encoder 設定 \(Helix\)](#)」、および「[Windows Media Encoder 設定](#)」にある [Save to File] オプションを参照してください。

高温アラート

アラート設定は [Alerts] ページにリンクされています。Alerts の詳細については、「[Cisco Digital Media Encoder 2200 のアラート](#)」(P.3-51) を参照してください。

エンコーダが事前定義の最高温度レベルに達したときにアラートを有効にできます。このレベルを設定するには、[High Temperature Alert] ドロップダウンメニューで選択します。

アクティビティ ログの表示

[Activity Log] では、エンコーダの起動や停止などの一般的なアクティビティを含むすべての動作アクティビティが記録されます。[Activity Log] には警告とエラーを生成したアクティビティがすべて記録されます。

アクティビティはフィルタして [General] アクティビティ、[Warning] アクティビティ、または [Error] アクティビティのみを表示することができます。

エントリをすべて削除するには、[Clear Activity Log] ボタンをクリックします。



(注)

アクティビティをログからクリアすると復元できません。

Activity Log		
View Activity Types:	Show All	
Activity Log Total records : 40 		
Created	Type	Description
9/4/2008 3:19:55 PM	General	NiagaraProWebUser connected from Machine CP08360002
9/3/2008 4:12:32 PM	General	EncodersWebService connected from Machine CP08360002
9/3/2008 4:11:57 PM	General	Before input date
9/3/2008 4:11:28 PM	General	USER_CP08360002 connected from Machine CP08360002
9/3/2008 4:11:08 PM	General	Performing first run setup wizard.
9/3/2008 4:11:06 PM	General	Initializing Niagara Communicator Success
9/3/2008 4:11:05 PM	General	Success restarting Niagara SCX Service
9/3/2008 4:11:05 PM	General	First Run did experience complete.
9/3/2008 4:11:05 PM	General	Starting Niagara Communicator
9/3/2008 4:11:02 PM	 Warning	Attempting to restart Niagara SCX Service
9/3/2008 4:11:01 PM	General	Success installing encoder profiles for video format selection

View Alerts

エンコーダの [Alerts] ページで定義されたアラートは、アラートが発生すると、すべて [View Alerts] ページにログされます。エンコーダの前面パネルにあるヘルプまたは [i] ボタンを使用してアラートをクリアすると、アラートは [View Alerts] ログ ページからクリアされます。

Alerts | No NiagaraPro alerts at this time.

また、前面パネルの赤いアラーム インジケータ ライトが点灯すると、Cisco Digital Media Encoder 2200 システムからユーザにアラートを通知するように設定することもできます。この場合、アラートの内容を判別するにはヘルプまたは [i] ボタンを押すと、発生しているアラートがサイクル表示されます。

詳細については、「Niagara SCX Web Interface のヘルプまたは [i] ボタンとアラート設定」(P.3-59) を参照してください。

Niagara SCX Web Interface のヘルプまたは [i] ボタンとアラート設定

エンコーダの前面パネルにあるヘルプまたは [i] ボタンを使用すると、Cisco Digital Media Encoder 2200 で発生しているアラートを表示できます。次はヘルプまたは [i] ボタンの図で、エンコーダの前面パネルにあります。ヘルプまたは [i] ボタンでは、システムに通知を要求したエンコーダ で発生するさまざまなアラートを表示できます。

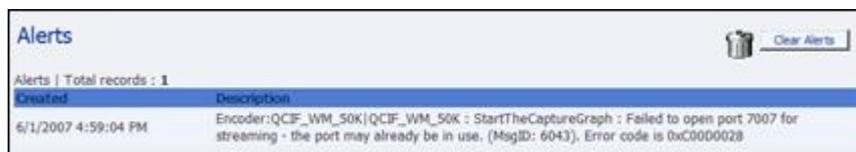


(注) アラートは必ずしもエラーが発生したことを示すものではありません。Cisco Digital Media Encoder 2200 で発生するエラーとは関係ないシステムの変更を通知するように指定することも可能です。たとえば、エンコーダの起動時またはエンコーダの停止時に通知を送信するように設定することもできます。

発生しているアラートを表示するには、エンコーダまたは *Niagara SCX Web Interface* を使用して確認することができます。Web Interface を使用する場合、*Niagara SCX Web Interface* の 1 ページ目で [View Alerts] を表示できます (次の図を参照)。



アラートはすべて *Niagara SCX Web Interface* で次のように表示されます。

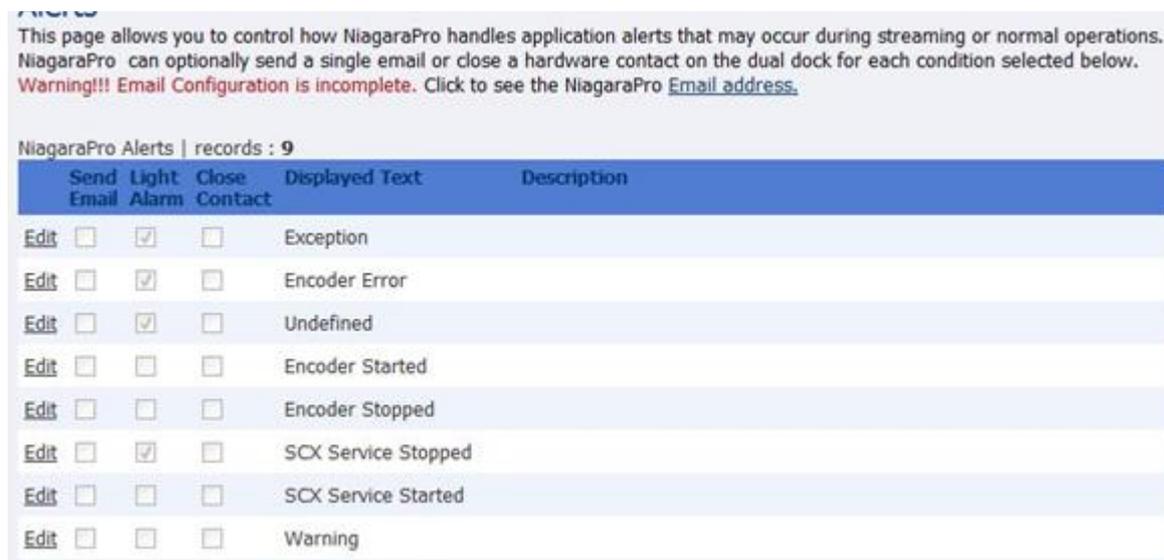


アラートは [Clear Alerts] ボタンをクリックするまで *Niagara SCX Web Interface* で表示できます。

アラートを表示するには、[NiagaraPro Alerts] を選択してシステムからアラートを送信するように事前に設定しておく必要があります。



これにより、次の画面が表示されます。通知するアラートを設定するには、アラートのタイプの横にある通知方法をクリックします。アラートを通知することができるのは、例外、エンコーダエラー、エンコーダの起動、エンコーダの停止、アラームテスト、SCXサービスの停止、SCXサービスの開始、および高温アラートなど次に表示されるアラートに加えて、ユーザが設定したその他のアラートも通知できます。



アラートの受信方法をシステム設定で指定するには、次の図を参照してください。[System Configuration] をクリックします。



E メール アラートを受信する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせ E メール設定を設定してください。

This page allows you to modify your NiagaraPro default system settings.

Enter a valid email settings to have NiagaraPro send emails for [alert conditions](#). Optionally select the information to show on the Niagara display when NiagaraPro is idle. You can customize the idle screen text or use the default settings. [Restore NiagaraPro Factory Default](#)

System Configuration Settings

Email Settings:

Send Emails To:

Email From:

Subject:

SMTP (Mail) Settings:

User Name:

Password:

SMTP Host: [Save and Send Test Email](#)

Idle Screen Information:

Cycle this information in the display when NiagaraPro is idle.

Active IP Computer Name CPU
 Memory Hard Drive Temperature

Idle screen text:
Note: Each line in the display is 20 characters.

Line 1
 Line 2
 Line 3
 Line 4

*Default AV Folder:

High Temperature Alert: degrees Celsius. ([view Alert Configuration](#))

また、前面パネルの赤いアラーム インジケータ ライトが点灯すると Cisco Digital Media Encoder 2200 システムからユーザにアラートを通知するように設定することもできます。この場合、アラートの内容を確認するには、ヘルプまたは [i] ボタンをクリックします。これにより、発生しているアラートがサイクル表示されます。次の画面ではアラート画面の例を示します。

```
ALERT
ENCODER: QCIF_WM_50K
PRESS ENTER ...
```

エンコーダがアイドル状態の場合、アラートがすべて表示されるまでサイクル表示され、すべて表示されると画面は通常のシステム サイクル表示に戻ります。以降、アラートはエンコーダに表示されません。

